暮氏商法講義第二冊目次

第三卷　會社

總論

民事會社ノ總組織

第一　會社契約條欵

第二　會社ノ事務管理ノ事

一　社員間ノ事

二　社外ノ者ニ對セル事

第三　會社解散ノ事

商事會社

第壹章　合名會社

第壹節　會社編成ノ事

此目錄ハ仮リニ添ヘタルモノナレハ全部出版ノ上更ニ總目錄ヲ付スルヿトスベシ

第二節　會社事務管理ノ事

第一款　事務管理ノ方法ヲ論ス

第一　指定シタル支配人ナキ時社務管理ノ方法

第二　指定シタル支配人アル時ノ方法

○支配人ヲ命スル事

○支配人ノ權限

○社員ニテ支配人ヲ監察スル事

(い)會社存續中ニ支配人ヲ命シタル時

(ろ)會社ノ設立契約書中ニ記載シテ之ヲ命シタル時

第三　特ニ指定シタルト否トヲ分タズ管理者ノ爲スヲ得可キ事件

第二款　債主ノ起訴權

第一　會社ノ資本ニ付テ起訴スル事

第二　會社ニ對シ訴ヲ爲ス事

第二章　通常或ハ利益差金會社

第一節　會社設立ノ事

第二節　會社支配ノ事

第一款　支配ノ借方金主ノ權利義務

第二款　債主起訴ノ權

第一　金主社務ニ干渉セサリシ場合

第二　金主社務ニ干渉シタル場合

第三章　一般株式會社ノ事

第一節　株式會社ノ義解

第一　株式ニ表スル處ノ金額一定セル事

第二　資本ノ分ヲ高平等ナル事

第二節　株式會社ニ於テ資本ヲ組立ル事

第一款　株金ヲ招集スル事及ヒ株主ノ義務ノ事

第二款　引受高ヲ入ルヽニ付テ種々ノ仕方

附此事ニ付テ株式ノ第一ノ區別

第三款　株主ノ權利及負債償却ノ事

附株式ノ第二ノ區別

第四款　株式取引ノ事

附株式ノ第三ノ區別

第五款　資本增加ノ事、更ラニ株式ヲ發行スル事、義務証券ノ事

第三節　株式會社ニ通シ用フ可キ法律上ノ定則

第一款　資本ヲ分テ株式ト爲スニ制限アル事

第二款　會社編成ノ期

第一　金額上ノ要件アリ

第二　會社ニ差加フヘキ現實物件或ハ特収利益ノ認諾ノ事

第三　會社ニ役員ヲ設クル事

第三款　株式ノ先ツ取引ヲナス可キ者トナリ其後持主拂トナルヘキ時

第一　取引ヲ爲スヘキ事

第二　株式ヲ持主拂ト爲ス事

第四款　刑罰條款ノ制裁

第一　無効ノ事

第二　刑罰ノ事

第四章　株式差金會社

第一節　管理者

第一款　管理者ノ職務

第二款　管理者財産上受クヘキノ責任

第一　社外ノ者ニ對シテノ事

附會社ノ債主ヨリ訴訟ヲ爲ス事

第二　社員ニ對シテノ事

第二節　監察會

第一款　監察會員ヲ選任スル事

第二款　監察會ノ職務

第一　會社開設ノ事ニ付テノ職務

第二　會社存續中監察會員ノ職務

第三款　監察會員ノ責任

第三節　株主及ヒ金主ノ事

第一款　債主訴訟ヲ爲ス事

第二款　總會

附言

第一　社中ニテ訴訟ヲ爲ス事

第二　一時ノ規則

第五章　無名會社

無名會社ノ來歴

第一節　會社設立方法及其組織

第二節　事務支配ノ事

第一款　支配人

第一　支配人ヲ選任スル事

第二　支配人ノ權限
第三　支配人ノ責任
（第一）支配人ニ對シテ設ケタル保証ノ事
（第二）支配人責任ノ區域
（イ）會社ニ對シテ責ヲ負フ事
（ロ）社外ノ者ニ對シテ責ヲ負フ事
第二款　總會
第三款　檢査掛ノ事
第一　檢査掛選任事
第二　檢査掛ノ職務
第三　檢査掛ノ責任
第四款　社務ノ管理ニ付キ其弊ヲ豫防センカ爲メ設ケタル規

則
附言　從前ノ通リ政府ノ允許ヲ受ケサル可ラサル無名會社
第六章　資本增減會社
第七章　會社設立ノ方法、會社ノ設立ヲ公告スル事及會社無効ノ總論
第一節　會社設立ノ方法
第二節　會社ノ設立ヲ公告スル事
第一款　會社ノ設立ヲ公告スルノ方法
第一　一般會社ニ通シ用ユヘキ方法
○會社ヨリ證書ヲ差出スヿノ有用ナル事
○扳書ノ法式
第二　株式會社ニテ遵用スヘキ方法

○會社ノ契約書ヲ變改シタルニ付キ公告ヲナス事
第二款　罰則
第三節　會社無効ノ總論
第一　會社ノ無効ナルニ因リ將來ニ生スヘキ効果ノ事
第二　會社ノ無効ナルニ因リ既往ニ向テ生スヘキ効果ノ事
第八章　共分組合
第九章　會社解散、決算幷ニ損益配分ノ事及期滿特免ノ事
第一節　會社解散ノ事
第一款　當然會社ノ解散スヘキ事
第二款　裁判所ノ言渡ニヨリ會社解散ノ事
第三款　會社解散ノ旨ヲ公告スル事
第二節　決算ノ事
○決算人ノ義務
○決算人ノ權限
第三節　會社損益配分ノ事
第四節　期滿得免ノ事
第一　五年ノ期滿得免ノ期限アル訴權ハ如何ナル訴權ナルカ
第二　社員ニシテ決算人タル者ノ地位
第三　期滿得免ノ既ニ經過シタル時間ヲ除去スル事
第三卷ノ附言　判斷人ノ判斷ニ任セサル可ラサル規則ノ概要

總論

（第百五十一號）

余ハ此一卷ヲ以テ亦商法ニ於ケル人ニ關繫スル者トシテ法典ニ於テハ既ニ實体即チ有形人ノ事ヲ記載シ又此ヨリ集合ノ人即チ無形人ノ事ヲ說述スレバナリ

合商事會社ノ事ヲ論述セントスルニ際シ先ツ會社契約ノ事及ヒ民事會社ノコトニ就ヒテ其一般ノ概意ヲ說明セザル可ラズ何トナレハ則チ每事其會社ノコトヲ借テ論ズルコトアル可ク又之ヲ商事會社ニ比較シ以テ述ベルコトアル可ケレバナリ

性理上及ヒ廣汎ナル點ヨリ之レヲ觀レハ凡ソ會社ナル者ハ下文ノ如ク義解スルコトヲ得可シ曰ク數多ノ人同一ナル目的ニテ共同ノ方法ヲ用ヒ同意ヲ以テ協力從事スルモノナリト法ニ依ラザルノ會社數多ア

リ會社ノ主旨權利ヲ得ントスルニ在ラズ又權利ヲ行ハントスルニ在ラズ而ノ其社員ハ法律上ノ効ヲ生セシメント欲スルニ非ザル者アリ此ノ如キ會社ハ心術上ノ道德若クハ知能ニ係ルヲ云フ目的ニシテ即チ博士院、慈善會社等ノ如キ是レナリ人或ハ其社員ハ全ク財貨上ノ目的無シト雖モ已レガ會社ヲメ法律上ノ効ヲ生セシメント欲スヘシト想像スルアラン我カ成文法ニ於テ果シテ此ノ如キ事アル可キヤ否ヤ將サニ下文ニ之ヲ論セントス(第百五十五號參看)

法理ニ於テハ天然ノ會社ニシテ世界普通ノ性質ヲ有スル者アリ夫婦、親屬夫婦及ヒ子ニ限ル國即チ是レナリ余ハ法典ニ準フテ全ク意匠ヨリ成リ且財貨上ノ利益ニ關スル會社ノ事ノミヲ論ス可シ

民法典ニ於テ會社ナル者ニ與ヘタル義解ヲ擧ゲンニ(第千八百三十二條)曰ク(會社トハ二人以上ニテ互ニ物ヲ共通シ其利益ヲ分タントスル目的ニテ取結ビタル契約ヲ云フ)ト此義解ニ於テハ前文ニ掲ゲタル性理上ノ義解ト同一ナル元素アリト雖モ金錢ヲ以テ主眼トスル會社ニ限リタルヲ見ルヘシ今此元素ヲ論スルニ付其元素ヨリ出デタル根本ノ規則ヲ之ニ附着シ以テ詳ニスヘシ

(第百五十二號) 第一會社ハ必ス進取ノ協力ナルヲ要ス

抑モ會社トハ人力ノ進合ナリ而シテ其大有用ナル處ハ人一名ニテ爲シ得サル事ヲ其集合ニヨリ興サシムルニ在リ法典ニハ特ニ此性質アルヿヲ載セズト雖モ是レ義解ノ總体ヨリ生スル所ニシテ殊ニ其利益ヲ分タントスルト云フ語ニ於テ之ヲ見ルナリ何トナレハ一人ノ勉强ノミナラス多人ノ資本ト勞働トノ助援無ク勉强ナクンバ大ニ利益ヲ生シ又物品ヲ製産スルヿヲ得可ラザレハナリ

然ラバ則チ會社ナル者ハ必ス有益ノ事物ヲ製出スルノ目的無カル可

ラス（ブラウワール第一篇第百六十丁及ヒ第百七十丁）純乎タル靜止ノ集合ハ以テ會社ト謂フ可ラス其適例數多アリトス此ノ如ク會社ハ協力或ハ勞力ヲ以テシ或ハ勞力ニ因テ蓄積シタル資本ヲ以テシ又或ハ勞力ト資本ヲ以テスルコトアリ

（第百五十三號）　第二會社ハ必ス約束ニ成ルヲ要ス

協力ハ人ノ同意ニ成ラサル可ラズトハ前文ニ述ヘシ所ナレハ會社ナル者ノ根源ハ必ス契約ニ在ルモノトス而シテ此契約タル佛國法律ニ定メタル諸契約ノ如ク概子相互ノ承諾ノミヲ以テ成ルモノナリ然レトモ商事會社ニ付テハ結約者ニ或ハ他人ニ對シテ効アラシムル爲メ特別ナル或ル法式ヲ古昔ヨリ必要トス

「ポチエー」ハ此性質ニ據リ會社ト共通財産トヲ區別セリ共通財産トハ即チ分派前共同相續人共同被贈遺者若クハ破産ニ付テ數多ノ債主等ノ間ニ在ルモノヽ如キ是ナリ然レトモ約束ニ出テタル共通財産無キニ非ス例ヘハ天然或ハ法律上ノ利益ヲ分タンガ爲メ共同シテ物品ヲ買入レ又物品ヲ共有スル者更ニ其期ヲ延ハシテ共有スル如キヿ是レナリ（民法典第八百十五條）此ノ如キ時ニ於テ共通ト會社ト異ナル處ハ共通ニハ會社ノ第一ノ元素タル進取ノ協力無キニ由ルノミ即チ共通ノ主旨タル共同セサレハ生ス可ラザルノ成果ヲ生セシムルニ在ラサレハナリ故ニ會社中ノ者其社員ノ事務ヲ處弁シ又ハ一己ニテ利益ヲ專受ス可ラサルノ義務ノ如キハ之ニ適用ス可ラズ（民法典第千八百四十八條及ヒ第千八百四十九條）而メ共通ナル者ハ決シテ人ニ付テ建設セラレタル者ナリト看做ス可ラズ又其中ノ一人死去シタルニ因リテ解散ス可キモノニ非ズ是ヲ以テ物品ヲ產出セザル共通事件ハ曾ニ物品ヲ產出セザルノミナラズ熟議共同シ難キニ因リ產出ヲ害ス可キヲ以

テ法律上ニテ之ヲ無限ニシテ結約スルヿヲ得可カラサルナリ(民法典第千八百六十九條)

(第百五十四号) 第三會社ハ共同方法ヲ用ヰルヲ要ス

例ヘハ數多ノ保險人共ニ各自ノ部分ヲ以テ船舶ノ保險ヲ爲ス如キハ之ヲ會社ヲ結ビタリト謂フ可ラズ

此要件アルニ因リ會社中ノ者ハ各自ガ部分ナル者ヲ出サヾル可ラズ

(民法典第千八百三十三條第二項)

其部分ナル者ノ性質ニ付テハ全ク各自ノ自由ニシテ金銀ヲ出ス可キニ限ルニ非ズ如何ナル物件ト雖モ金銀ニテ評價スルヿヲ得可キ者ハ之ヲ差出スモ妨ケ無キヲ以テ得意先、商標ノ使用ノ如キ無形物ヲ差出スヿヲ得可シ又作業ニ付テハ名前商業上ノ信用ヲモ差出スヿヲ得可シ但シ政事上ノ信用ハ商業上ノ者ニ非ザルヲ以テ此限ニ在ラズトス」

又各社員ノ差入物件ノ性質及ヒ高ハ殊異ナルヿヲ得

各其差入ハ種々ノ方法ヲ以テスルヲ得即チ左ノ如シ

其差入所有權ナルトキ　此場合ニ於テハ會社ハ其所有主トナリ其危險ハ會社之ヲ擔任シ差入主ハ以來其物件ニ付キ他ノ社員ト同一ノ權利ヲ有ス

其差入收實權タルトキ　此場合ニ於テハ會社ハ收實者トナリ其差入主ハ虚所有主トナリ物件ノ危險ハ已レ之ヲ擔當ス可シ唯會社ノ解散ニ際シ分配ノ前ニハ其差入タル財産ニ付キ取戻ノ權ヲ有ス可シ若シ其差入タル物件使用ニ因リ消滅ス可キモノナルトキハ(民法典第千八百五十一條ニ記シタル種々ノ場合ヲ參考ス可シ)

會社ハ其準取實權ヲ有シ其物件所有主トナリテ而シテ其社員ハ之ト齊シキ分量品格ノ物ノ債主トナリ又ハ其物件ノ價格ノ債主トナル可

シ

其差入使用權ナルトキ　此場合ニ於テハ其社員ハ收實權ヲ差入レタルトキト同一ナル權利ヲ有シ又全所有主タル可シト雖モ會社ヲシテ其物件ヲ使用セシムルヿハ猶ホ賃貸人ノ其所有物ヲ借ル者ニ於ケルカ如クナラサル可ラス此場合ニ於テハ會社ハ物上權ヲ有スルヿ非ス特ニ其社員ニ對スル對人權ヲ有スルノミ而テ此ノ類ノ差入ハ漸次ニ使用スル者ナリ若シ其使用物消滅スルトキハ差入物消滅ス可ク(民法典第千八百五十一條第一項)而シテ會社ハ以テ解散ス可シ(民法典第千八百六十七條第二項)

又不動産收益ノ權ト雖モ常ニ之ヲ動産ト看做ス可シ蓋シ收益ノ權ハ利益ヲ得ルノ權ニ過キサレハナリ

(第百五十五號)　第四　會社ハ共同利益ノ爲メナルヲ要ス

是レ即チ民法典第千八百三十三條ニ記ス可キ所ノモノナレトモ第千八百三十二條ニハ利益ヲ分タントスル云々ノ語ヲ文字ノミニ就ヒテ論スルトキハ金錢上ノ利益ノ外他ノ利益ノ爲メニ會社ヲ結ブヿヲ得ズト云フ可キカ如シ即チ利益ヲ得ルノ會社ニ非ザレハ會社ヲ結フヿヲ得可ラサルカ如シ果シテ然ラハ罹災者ヲ救助シ職工ヲ教育スル等ノ如キ精神上ノ利益又ハ慈仁上ノ利益即チ道德上ノ利益ノ爲メニハ結社スルヲ得可ラズ已レ一身上ノ爲メニハ著大ナル利益アルヿト雖モ之ヲ與スヿヲ得可ラザルナリ例ヘハ雇主ノ如キ職工ヲ改良スルニ因テ己レニ利益アリト雖モ眞正ナル會社ヲ結ビ職工ノ爲メニ談話場若クハ書籍館ヲ設ケ又其子ノ爲メニ學校ヲ立ツルヿヲ得サル可キナリ然レモ是レ法典ノ文面ヲ解釋スルヿノ狹キニ失シタルモノタルヲ知ルヘシ若シ法典ノ精神果シテ如此ナラハ迅速ニ之ヲ改正セザル可ラ

ズ然レ𪜈第千八百三十三條ニハ唯其同利益ト云フテ其性質如何ヲ示サヾルヲ以テ第千八百三十二條ノ制限文ハ此箇條ニテ訂正セラレタル者ナリト看做サヾル可ラス

右ノ如ク規則ヲ解釋シタルノ適例ハ尚ホ多シトス即チ彼ノ生存收益（トンチーヌ）組合ノ如キハ會社ニ非ズ（生存收益組合トハ若干ノ金高或ハ物品ヲ差出シ共同物トナシ其收獲ハ毎年其結約人中ノ生存スル者ニ配分シ其資本ハ大率取戻スヿ無キノ約束ニテ取結ヒタル組合ヲ云フ）如何トナレバ其各結約人ノ利益ハ共同ニ非ズ人々之ヲ異ニシ甲ノ者ハ乙ノ者ノ死去ニ因テ利益ヲ得可ケレバナリ又此類ノ契約ニハ協力進取ノ性質ナク毫モ産出スル所無ク只其組合無キモ其物件ヨリ出ス可キ利益ヲ所得トスルヿアルノミ互相保險組合モ亦之ト同一ナリトス互相保險組合トハ數多ノ人不慮ノ災難ヲ計リ相集合シ資本金ヲ備ヘ罹災者アルトキハ共同シテ互ヒニ之ヲ救護ス可キ旨ヲ結約シタルモノヲ云フ故ニ各人毎年他人ノ爲メニ若干ノ物件ヲ出サヽル可ラスト雖𪜈其災難ニ罹ルニ於テハ其償ヲ得ルヿヲ必ス可キモノトス論士往々言ヘルヿアリ此互相保險組合ノ會社タラザルモノハ其目的トスル所利益ヲ收ムルニ在ラスシテ損失ヲ避クルニ在ルニ由ルナリト余ハ第千八百三十二條ニ載セタル利益ナル語ハ斯ル意味アル者ナリトスルヿヲ得ズ只以爲ラク其以テ會社タラザル所ハ必ス受ク可キノ利益ナル者ハ共同スルニ非ズシテ互相ニ之ヲ受クルニ由ルナリト蓋シ其災難ニ罹リシ者ノ利得スル所ハ他人ノ損失ニ歸ス可キモノナリ加之此等ノ組合ニハ毫モ進取協力ト云フ可キ者アルヿ無シ

總テ會社ハ共同利益ノ爲メタラサル可ラサルニ因リ其各社員ハ純益中ヨリ必ス身己ノ部分ヲ受ク可ク而ノ獅子會社ハ一八ニテ利ヲ專ニスルニ比喻スルノ

名ナリ決シテ設クルヲ得可ラサルモノトス(民法典第千八百五十五條第一項)故ニ又各社員ハ其損失ノ割合ヲ負擔セサル可ラス(第千八百五十五條第二項)然レトモ此損益ノ配當ハ必スシモ前ニ差出シタル資本ノ額ニ比準スルニ及ハス蓋シ第千八百五十三條ニ於テ契約書中ニ明文ヲ欲キタルトキノミ之ニ比準ス可シト定メタリ

(第百五十六號) 前文ニ論定セシ原則ノ適例トシテ尚ホ擧ク可キ者アリ即チ雇主其役員ニ一定ノ給金ノ外ニ商店ノ利益中ヨリ其一部分ヲ得セシメント約スルカ如キ假令其役員ハ商店ノ利益ニ關與スルヲ得ルト雖トモ雇主ト會社ヲ結ヒタルニハ非ストス其故ハ双方ノ者右ノ約束ニテ眞正ナル會社ノ諸効ヲ生セシメント欲シタルニ非サレハナリ其主要ナル差別左ノ如シ

第一　其役員ハ損失ヲ負擔ス可キモノニ非ス故ニ若シ損失アリシトキハ毫モ受ク可キモノ無シト雖トモ又毫モ差出ス可キモノモ無キナリ

第二　其役員ハ會社ノ資本ヲ共有スルモノニ非ス故ニ若シ雇主其事業ヲ止ムルヿアルモ其資本ニ付テハ毫モ權利無シトス

第三　役員雇使ノ期限定マル時ト雖トモ總テノ賃貸契約ニ於ケル如ク之ヲ解雇スルヿヲ得可シ但シ之カ爲メニ損害ヲ受ケシメタルニ於テハ之ヲ償フハ勿論ナリトス(若シ其雇主ト會社ヲ結ヒシナラバ此ノ如キヿナシ)(民法典第千八百六十九條)

第四　破産ノ場合ニ於テハ役員ハ給料及ヒ破産前ニ會社ニヲ得タル利益中ヨリ受ク可キ部分ニ付テ債主ノ列ニ加ハルヿヲ得可シ然ルニ社員タル者ハ債主ニ於テ其貸高全部ノ辨償ヲ得ザル間ハ如何ナル物件ヲモ受クルノ權利無キモノトス

第五（此最終ノ差別ニハ疑フ可キ者アリ）

（論）役員ハ其雇主ノ他ヨリ受ク可キ利益ヲ果シテ受取リシヤ否ヲ知ルカ爲メ雇主ノ商業簿冊ヲ檢視セントヲ要ムルヿヲ得可キ乎第一說ハ之ヲ然ラズトセリ曰ク第十四條ノ明文ニハ此ノ如キ事ヲ載セズ又其役員ハ社員タル者ニ非ズト第二說ハ之ヲ然リトス曰ク其役員ハ自己ノ權利ヲ防護スルヿヲ得可キヲ要ス而ノ其雇主ノ簿冊ヲ檢視スルハ蓋シ其權利ヲ防護スル一ノ方法ナリトス彼ノ第十四條ノ如キ「會社ノ分派」ト云ヘル語アリト雖モ其義意確明コシテ且右等ノ事ヲ除キタリトノヿハ判然ナラザルナリ又雇主ハ利益ニ就ヒテハ其役員ニ社員タルノ權利ヲ與ヘタルモノナレハ其與ヘタルニ因リテ生スル結果ハ固ヨリ隱然其遵守ス可キ者ナリト看做サヾルヲ得ズ而ノ第十四條ニ記スル所ノ規則ハ公ケノ秩序ニ關スル者ニシテ約束ヲ以テ之ニ牴觸ス可ラズト云フ議論ヲ唱ヘタル者ハ未タ之アラザルナリト

民事會社ノ總組織

（第百五十七號）民法ハ會社ノ事ニ付テハ特ニ通常法ナレハ（商法典第十八條）商法ニ載セザル所ノモノハ之ニ照準ス可シ（上文第二十四條比較故ニ商事會社ヲ論スルニハ民法典ノ條欵ヲ探究スルヲ要ス

第一　會社契約ニ記載ス可キ事件

（第百五十八號）會社ハ先ツ第一ニ法律ニ適フタル目的タルヲ要ス即チ民法典第千八百三十三條第一項ニ記載スル所ナリ

會社ノ始契約ニ定メタル日ヲ以テ會社ノ初日トス若シ之ヲ明示セサルトキハ民法典第千八百四十三條ニ此旨ヲ記載ス

會社ノ期限　此期限ハ約束ノ上明文ヲ掲ケテ之ヲ定ム若シ又會社ノ

目的トスル所期限ノ定マリタル事業ナルトキハ約束書ニ明文無シト雖
モ其時間ヲ以テ之カ定限ト爲ス又若シ然ラスノ無期限ナルトキハ社中
ノ者一人死去スル迄ヲ以テ會社ノ期限トス(民法典第千八百四十四條
第千八百六十九條)

社員ノ差入レ　如何ナル物件ヲ以テ其差入ト爲ス可キヤヤ否ヤハ前ニ
既ニ之ヲ述ベタリシガ(民法典第千八百三十三條第二項○上文第百五
十四號)社員タルモノハ會社ニ對シテ其差入ノ負債主トス(民法典第千
八百四十五條第一項)若シ其物件確定物ニシテ其所有權ヲ會社ニ入レ
タルトキハ會社ハ唯其約束ノミニテ其所有主トナル可ク(民法典第千百
三十八條)民法典第千八百六十七條ハ會社ニ差入ル可キ物件未タ之ヲ差
入サル前ニ滅盡シタル場合ヲ豫想シ此場合ニ於テハ第千百三十八條ニ反シ約束ニヨリテ所有權ヲ移轉スルコト無シト定メタル
モノヽ如シ而メ或ル論者ハ之ヲ第千百三十八條ノ例外ナリトセリト
雖モパルドッシユー第三、マルベール及ヒシユールダン第四十丁ドラ
ングル會社篇第七十四斯ル牴觸說ハ容易ニ可ナリトナス可ラス而シ

テ第千八百六十七條ハ双方ノ約定ニ因ルカ或ハ差出ス可キ物創造ス
可キ物ナルカ又ハ他人ニ屬スル物ナルニ因リ所有權ノ移轉ヲ日限或
ハ未必條件ノ到ル迄遲延シタル場合ヲ定メタル可ラザルナリ若シ又金高ニシテ社
者ナリト解釋ス可ク又解約セザル可ラザルナリ
員之ヲ出スニ遲延セシトキハ固ヨリ其利子ヲ負ハサルヲ得ズ加之損害
ノ償ヲモ拂ハサルヲ得ス(千八百四十六條)是レ民法典第千百五十三條
ニ載タル規則ノ二箇ノ例外ナリ又勞力ノ差入ヲ爲シタル社員ハ會社
ノ目的勞力ニ因テ得タル所ノ利益ヲ會社ニ對シ計算セサル可カラス
(第千八百四十七條)又確定物ヲ差入タル社員ハ會社ニ對シ賣主ノ如ク
擔保ノ義務アルモノトス(第千八百四十五條第二項)
總テ確定物ニ付テハ所有主其危險ヲ擔任ス可シ故ニ若シ社員收實權
又ハ使用權ノミヲ差出シタルトキハ其危險ハ社員之ヲ擔任シ(第千八百
五十一條第一項)所有權ヲ差出シタルトキ又ハ其物件準收實權ノミヲ行
フ可キモノナルトキハ其危險ハ會社之ヲ担任ス可シ(第千八百五十一條

第二項第三項此箇條ニ記載シタル種々ノ場合ニ於テハ其物件ヲ還附スルヲ必要トセズ其價格ヲ還附スルヲ要ス)(上文第百五十二号參看)

社員ノ權利夫レ會社ハ双務ノ契約ナリ而シテ社員ハ之ニ差入レヲナシタルモノナリ然ラバ則チ社員タルモノハ其差入ニ換ヘテ何ヲ得可キモノナル乎曰ク社員ハ會社ニテ所謂利益ナル者ハ何ソヤ實際ニ就ヒテ之ヲ言ハヾ會社解散ノ後ハ其資本ノ配分ヲ得可キノ權及ヒ會社カ得タル純利ノ配分ヲ毎歲得可キノ權是レナリ此權タルヤ無形人ナラサルノ會社ニ在テハ共有ノ權ナリ然レ𪜈此共有權ハ會社ノ存續スル時間ハ社員ノ爲メニ不可分的ナル義務ヲ負フ所ノ特別ナル一種ノモノナリ此不可分的ナル義務ヨリ生ス可キノ結果ハ各社員ニ於テ(管理者トシテ事ヲ爲スニアラスシテ各自ノ爲メナル片)其物件ノ全部ハ勿論己レガ部分ト雖𪜈之ヲ自已ノ權利者ニ移轉シ

或ハ書入質トナシ又ハ質入スルノ權無シ(民法典第千八百六十條)是ヲ以テ其權利者ハ會社ノ資本ニ就ヒテ社員ノ部分ヲ差押ユルヿヲ得可ラズ(民法典第二千二百五條ノ類似)(ドマンジヤー=ブラウワール評論第一篇第百七十七丁○社員ノ債主ハ唯其負債主ノ破産ヲ申立テ會社ノ解散シタルヲ述ベ(民法典第千八百六十五條第四項)以テ其資本ノ配分ヲ求ムルヿヲ得可キノミ(民法典第二千二百五條ト類似)

而シテ此効ハ會社ノ契約書ヲ登記セサルヿト雖𪜈亦生ス可キモノナリ何トナレバ權利者ハ其義務者ノ共有者ナルヿヲ証スル爲メニ會社契約ヲ申立テザル可ラザレハナリ而シテ權利者果シテ其契約ヲ申立ツルモ之ヲ分ツヿヲ得ス即チ此共有權ハ不可分的ノ義務ヲ負フタルモノナルヲ認メサル可ラス此場合ニ於テハ社員ノ差入部分ノ上ニ社員ノ權利如何ヲ說ス蓋シ此點ニ於テ社員ヨリ社外ノ者ニ抗爭スルヲ得ルニハ若シ其差入物不動產ナルトキハ會社ノ契約書ヲ登記スルヲ要ス何トナレハ其差入物ハ共有社員ノ爲メニ分ツ可ラサル一個ノ所有權ヲ移轉スレハナリ

以上說ク所ハ無形人ニ非ザル會社ニ付テモ同一ノ理由ニ因リテ之ヲ適用スヘシ

不動產ノ使用權ヲ以テ共有物ノ一部分トナストキモ亦變性シ幾ント會社ニテ得タル純利ノ一部分ヲ每歲收入スル權ニ過キサルモノナリ(第千八百五十九條第二項)

損益分配　損益分配ノ高ハ會社ノ契約ヲ以テ之ヲ定ム若シ之ニ其明文無キ時ハ會社ニ加入シタル高ニ應シテ其割合ヲ定ム但シ勞力ノ差入ハ最モ少量ノ金高ヲ差入タル者ノ割合ニ均シキモノトス(第千八百五十三條第千八百五十四條)社員一名ニテ利益ノ金額ヲ收メ(獨子會社)又ハ損失ノ全部ヲ引受ケサル可シトスルカ如キ契約ヲ爲スハ法律ノ禁スル所タリ第千八百五十五條)

第二　會社ノ事務管理ノ事

(第百五十九號)　會社ノ資本ハ動不動產及ヒ金額ヲ以テ之ヲ編成ス而ノ其資本ハ增殖セサル可カラス抑モ會社ハ社員ノ協力ニ因リ若干ノ利益ヲ產出スルヲ目的トスルハ缺ク可カラサルモノニシテ之カ爲メニハ法律ニ關スル數種ノ業ヲ爲サヽル可カラス即チ支配事務雜品賣買或ハ又重要ナル物件ノ移轉又ハ他人ト契約ヲ結ヒ債主トナリ或ハ負債主トナル等ノ如キ是レナリ今此ノ如キ業ハ如何ニ之ヲ爲ス可キカ又其効ハ諸社員ニ對シテ如何ナル可キカト云ハンニ須ラク各社員間ノ一ト社外ニ對スルコトヲ區別セザル可ラス

〔第一〕　社員間ノ事

(第百六十號)　會社ノ資本ハ社員一已ノ財產トハ異ナルモノニテ(第百五十八號參看)社員ニ對シ債主權トナリ又ハ負債トナルモノナリ(民法典第千八百四十六條第千八百四十七條第千八百五十條第千八百五十

二條ヲ參觀ス可シ(會社ノ資本ハ右ノ如ク形有人ニ屬セサルヲ以テ何人カ之ヲ處理ス可キヤ否ヤヲ探究セサル可カラス又宜シク區別ヲナスヘシ

(第百六十一號)〔い〕 指定シタル管理人アル時

管理人ノ權ハ代理契約ノ規則ニ據テ之ヲ規定ス而ノ其爲ス所ノ總テノ事業其權限內ニ係ルモノハ皆効アリトス若シ其代理契約書普通ノ意味ニシテ其權限ニ特定ナキトキハ管理人ハ物件ヲ移轉スルノ權ナキモノナリ(民法典第千九百八十八條)

代理契約ハ依托人ノ意望ノミニテ之ヲ廢棄スルヲ得ルヲ概則ト爲ス會社設立ノ後ニ管理人ヲ指定セシトキハ此規則ヲ適用ス可シト雖也(第千八百五十六條末文)若シ會社ノ契約書ニテ之ヲ指定シタルニ於テハ其代理契約ハ廢棄ス可カラサル者トス何トナレハ則チ其人ヲ代理トシタル事ハ結約者承諾ノ缺ク可カラサル要件中ノ一ナリト信セサルヲ得サレハナリ(第千八百五十六條)

管理人タルモノ數多ナルトキハ各自一名ニテ事ヲ處理シ得可キヲ概則ト爲ス(第千八百五十七條)但シ之ニ反セル事ヲ別段契約ニテ定メタルトキハ此限ニ在ラス(第千八百五十八條)

(第百六十二號)〔ろ〕 指定シタル管理人無キ時若シ會社ニ管理人ナキトキハ社中ノ各員ニテ管理ノ業ヲ爲スヲ得可シ(第千八百五十九條第一項)然レ𪜈物件ヲ隨意ニ處置スルノ業ニ至テハ之レヲ爲スヿヲ得可ラス(第千八百六十條)是レ默許代人ノ場合ニ於ケル常則ヲ適用シタル所ナリ(第千九百八十八條)

又社中ノ各員ハ全社員ノ權利ヲ害セサル以上ハ會社所屬ノ物件ノ用法ニ隨フテ之ヲ自己ノ用ニ供スルヿヲ得可ク(第千八百五十九條第二

項)而ノ其物件保存ニ必須ナル費用ハ各自之ヲ擔當セサル可ラス(第千八百五十九條第三項)然レ𪜈不動産ノ摸樣ヲ變換スルハ爾余ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス(第千八百五十九條第四項)不動産ノ摸樣變換ニ關スル此規則ハ稍偏頗ニ涉ルモノト謂フ可シ蓋シ會社ノ目的中ニ包括スル管理ノ業ニ付テハ(移轉ノ業ニ付テモ此事ヲ推シ用ユルヲ得可キ場合アリ)全意多數ヲ以テ之ヲ決定スヘシ何トナレハ社員間ニテ決議ヲナスニ其基礎タル總則ハ左ノ如クナル可シ曰ク全社員ノ同意ヲ要ス可キハ會社ノ契約書ニ改更スル時ニ限ル之ニ反シ此契約書中ニ揭記セシ事項ニ付テハ同意多數ヲ以テ十分ナリトス若シ其レ然ラズンハ則チ會社ハ活動スルヿヲ得可ラズ故ニ各社員ハ豫定セル會社ノ目的ノ爲メニ必要ナル事件ハ豫メ承諾シタルモノト推測セザル可ラズ即チ此事ニ關シ社員ノ多數ヲ以テ決定ス可キ事件ハ各社員ノ承諾シタルモノト推定ス可シ

〔第二〕 社外ノ者ニ對セル事

(第百六十三號) 會社ノ財産ハ社員間ニ於テハ其一身ノ財産ト別異ナリ會社ノ財産ニ付キ權利ト義務トヲ有スル社外ノ者ニ對シ亦社員ノ財産ト異ナル一個ノ財産タルヲ得可キモノナル乎

一般ノ定則ニ據レハ甲者ノ爲シタル事ハ乙者ヲ害ス可カラス又乙者ノ用ヲ爲ス可カラス是ヲ以テ社員ト結約シタル者ハ其社員ノミヲ認諾シ之ヲ己レガ債主トシ又負債者トスルモノナレバ其社員ハ結約者ニ對シ其他ノ同社員トノ間ニ取結ヒタル契約アルヲ申立ツルヿヲ得可ラズ又一同ノ申立ヲ受ク可カラス故ニ社外ノ債主トナリシトキハ其互ニ契約ヲ結ヒシ相手方ノミヲ信シタルモノナレハ社員ヨリ其事柄ハ唯會社ニ關係スルモノナリト云フテ故障ヲ述ヘ債主ヲシテ會社ノ

資本ノミニ就ヒテ訴訟ヲ起サシムルヿヲ得ヘカラス又其債主ニ於テモ自ラ會社ノ契約ノ事ヲ申述ヘ直接ニ會社ノ資本ニ就ヒテ訴訟ヲ起スヿヲ得サルモノニテ會社ノ資本ニ對シテハ唯第千百六十六條ニ就ヒテ記シタル(其負債者即チ)社員ノ權ヲ行ヒ其受クヘキ部分ノミニ付テ間接ノ訴權ヲ行フヿヲ得ルノミ但シ此場合ニ於テハ其社員ノ總債主ト分配スルヲ必要トス若シ又社外ノ者其權限ヲ告知シタル管理人(明許ハ默諾)ト契約シタル場合ニ於テハ其社外ノ者ハ依托者タル社中ノ總員ニ對シ各其部分ニ應シテ訴權ヲ有ス(第千九百九十七條)之ニ反セル場合ニ於テモ亦同一ノ理ニテ社中ノ總員ヨリ各自ノ部分ニ應シ社外ノ者ニ要求スルヿヲ得可シ然リ而ノ其社外ノ者ハ常ニ會社ノ資本ニ就ヒテ直接ニ訴訟ヲ爲スヿヲ得ス又社員ノ總社外ニ對スルモ亦然リ何トナレハ其資本ヲ組織セシ契約ヲ告知シタル場合ニ於テハ契約ノ効ヲ生スヿアリト雖モ之ヲ告知セラレサル社員ノ債主ニ對シテハ効ナキモノナレバナリ

商事會社ノ事ニ付テハ右ノ規則ニ例外ナル者アリ商事會社ハ公告等ノ要件アリテ無形人ト認定セラルヽヲ以テナリ

(論)然モ民事會社ニ於テモ右ノ例外ナルヿアル可キ乎語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ民事會社ハ無形人タル可キ乎今夫レ無形人タル會社ノ活動ヲ了解スル爲ニ其無形人ニ非サル會社ノ活動ヲ知ルヲ以テ果シテ緊要ナラストセンカ此論ヲ考究スルニ及ハザル可シ又共分仲間ニ於テモ同一ナル議論アリトス依テ思フニ此論ハ商法ニ付テ直接ナル利益アルヲ知ルナリ

本論ノ利益　若シ會社無形人ナルトキハ左ノ効ヲ生スヘシト雖モ反對ナル場合ニ於テハ之ヲ生セサルベシ

第一　會社ニテ不動產ヲ所持スル時ト雖モ社員ノ權ハ常ニ動產ナリトス(民法典第五百二十九條)若シ各社員ニ於テ直接ニ其所有權ヲ有スルトキハ決シテ此ノ如キヿ無カル可シト雖モ此所有權ハ無形人ナル會社ニ屬シ且社員ハ會社ノ資本ヲ編成スル財產ニ就ヒテハ間接ナル權利ヲ有スルニ過キサルトキハ其社員ノ權利ハ動產タラザルヲ得ズ其權利ノ間接ナルヿハ下文(第百六十五號)ニ說明スヘシ

第二　若シ會社ヨリ裁判所ニ出訴セントスルトキハ佛國ニ於テハ何人ト雖モ代理人ニテ訴フ可ラスト云フ規則ニ拘ラス管理人ハ會社ノ代理人タルヲ得ヘク(訴訟法典第六十九條第六項)他人ト熟議シテ契約ヲ結ブトキモ亦同シ

第三　會社ノ債主ハ會社ノ資本ニ付キ社員ノ私債主ヨリハ先取ノ特權ヲ有ス

第四　會社ノ債主權ト社員一身ノ義務ト相殺スルヿヲ得ス

本論ノ解釋　余輩ハ民事會社ヲ以テ無形人ニ非ラサル者ト爲ス今諸ノ點ヨリ之レヲ論述セン

民法典第五百二十九條ニ記ス所ニ據レハ錢糧、貿易、工作ノ會社ニ加ハリタル株式及ヒ利益ハ其會社ニテ不動產ヲ所有シタル時ト雖モ之ヲ動產ト看做ス可シト云ヘリ然ラハ則チ此ケ條ハ此類ノ會社ニハ無形人ノ附帶ス可キ第一ノ性質ナリト認定ス可シ然レモ商事會社ニ非サレハ之ヲ適用スヘカラサルヲ以テ民事會社ニハ無形人タルノ性質無シトセサルヲ得ス

訴訟法典第六十九條第六項ニ據レハ商社ヲ呼出ス時ハ其店舗ニ呼出狀ヲ送達スルヿヲ許セリ是レ此ノケ條ハ商社ノ無形人タル第二ノ性

質ナルヲ認定ス可シ而ノ民事會社ニ至テハ法律ニ其事ヲ云ハス以テ其無形人タラサルヲ知ルベシ或ハ曰ク訴訟法典第五十條第二項ニ據レハ會社ノ「ニ付テハ民事會社ニモ其會社所在地ノ治安裁判官ニ訴フヘシトスルニ非ラスヤト然レ𪜈今茲ニ論スル所ノ主要ハ裁判所管轄ノ「ニ非スシテ管理人ニテ會社ノ代理ヲ爲ス「是レナリ而ノ此第五十條ハ之ニ關スルモノニ非サルヲ以テ此「ノ基礎タルヘキ第六十九條第六項ニ記スル所ト牴觸ス可キモノニ非ス

今又民法典會社篇ノ諸條ニ就ヒテ論述セン蓋シ此箇條タル民事會社ノ摸樣如何ヲ詳知セシムルヲ得ベシ先ツ第一ニ其第三章ニ社員社外ニ對スル義務ト題セル第二欵ノ諸條ヲ論スヘシ是レ固ヨリ茲ニ擧クル問題ニ付キ法律ノ精義ヲ示ス可キ者ナルヲ以テナリ

第千八百六十二條ニ記ス所ニ據レハ會社中ノ一名他ノ共同社員ヨリ權利ヲ與ヘラレサルトキハ其共同社員ニ義務ヲ相當セシムル「ヲ得ズ即チ會社中ノ持寄高ニ就テモ之ヲ擔當セシムル「ナシ然ルトキハ社外ニ對シテハ會社ハ毫モ効ヲ生セサルモノニシテ社外ノ者ハ其契約ヲ結ヒシ社員ノミヲ識認スルヲ以テ此者ニ對シテノミ權利ト義務ヲ有ス可キモノトス

第千八百六十三條ニ記ス所ハ尙ホ一歩ヲ進メテ會社中ノ總員社外ノ者ト契約ヲ結ヒタリト假定シ斯ル時迚テモ會社契約ノ例ヲ以テ社員ノ連帶責任ヲ規定ス可カラストシ唯各自ノ部分ノミヲ担當スル義務者ノ規則ヲ適用スルニ過キス故ニ其各人ノ其合割ノミヲ負フ可ク而シテ其割合ハ會社ニ加入シタル資本ノ高ニ由ルニ非ズシテ義務等分ノ割合タル可キモノトス既ニ各人ハ己レカ割合ノミヲ負フヲ以テ別々ニ之ヲ弁濟スルヲ得可シト然レ𪜈會社若シ義務者ナリシトキハ其義

務ハ一個ノ社員各自ニ分擔セ負債タルヘシ而ノ其債主ハ別々ノ弁濟ヲ拒絶スルヿヲ得ヘシ(民法典第千二百四十四條)

又第千八百六十四條ハ社中ノ者其契約書ニ會社ノ爲メニ其契約ヲ結ヒシ旨ヲ明ニ掲載シタル場合ヲ假想シ斯ルトキハ會社中ノ他ノ者明カニ之ニ其權利ヲ授ケタルカ或ハ其事柄會社ノ利益トナル可キ者ニ非サレハ右ノ契約ヲ負擔スルニ及ハストセリ然ラハ則チ會社外ノ者ハ其會社ニ對シテ直接ニ訴訟ヲ起スノ權無キヲ以テ元則ト爲ス而ノ唯第千百六十六條ニ記シタル間接ノ訴權ニ據リ己レノ義務ニ代リ其權ヲ行フヲ得ヘキノミ蓋シ其義務者ハ他ノ社員ニ對シテ權利ヲ有スレハナリ

右ニ擧タル規則ノ外ニ第千八百四十九條ハ會社存續ノ間會社ノ負債ヲ分別スヘキ場合ヲ定メタリ

又或ハ此類ノ箇條ノ外ニ會社ト其社中ノ各員トノ間ナル義務及ヒ權利ノヿヲ記載スル數多ノ個條ヲ引援シテ(第千八百四十五條第千八百四十六條第千八百四十九條第千八百五十一條第千八百五十二條第千八百六十七條ヲ參看ス可シ)言ヘルモノアリ曰ク此ノ如キ箇條アルカ故ニ會社ハ殊別ナル財産ヲ有スル者ナリト此論ニ答フルハ容易ノヿナリ抑モ其區別ハ社員間ノミニ存スルモノナリトハ前文ニ余輩ハ既ニ言ヒシ所ナリシカ玆ニハ社外ノ者ニ對シテ其區別ハ存ス可キモノナルヤ否ヤノ證ヲ擧ケサルヘカラサルナリ而ノ以上掲出セシ箇條中一モ社外ノ者トノ關係ヲ記載スル者無シ又第千八百四十八條ニ記シタル事ハ稍解ヲ費サヽルヲ得ス即チ此條ニハ會社外ノ者會社ト其社員一名トニ同時ニ負債者タル場合ヲ言フ其者負債ヲ償却シタルニ於テハ其拂ヒヲ受取リシ社員之ヲ專得セントスルト雖モ双方ノ負債

ニ割合ヒ之レヲ二分セサル可カラストセリ或ハ云ク看ヨ法律ハ社外ニ對スル債主權ヲ會社ノ爲メニ成立セシムルニ非スヤ會社ノ無形人タルヲ以テ知ル可キナリト若シ果シテ此條ニ斯ノ如キ意義アリシナレハ總ヘテ他ノ箇條ニ牴觸ス可ク而シテ之ニ對シテ効アルヿヲ得可ラス蓋シ此箇條ハ言詞ヲ省略センガ爲メニ右ノ如キ文ヲ用ヒタルニ因リ稍穩當ナラサルモノアリテ其實會社及ヒ社員間ノ約束ニ從ヒ會社ノ資産ニテ負担セサル可ラザル債主權ヲ指示スル爲メ會社ノ債主ノ權ノ事ヲ記載シタルナリ何トナレハ則チ此箇條ノ總体ハ一ニ會社中ノ者ノ互相ノ關係ヲ記載スル者タルハ明カナレバナリ故ニ該條ニ明示スルカ如ク會社外ノ者ノ拂ヒタル金高ハ之ヲ社員中ニ允テ用ユ可キモノトナス可ク而シテ會社外ノ者ハ此論題ニ關セサルモノトナス可シ若シ之ニ反シ會社外ノ者第千二百五十三條ニ從ヒ自己ノ返金ヲ其二個ノ負債中ノ一、例ヘハ社員ノ貸金ニ允テタルカ或ハ甲負債ヲ拂フヨリ乙ノ負債ヲ償却スルニ利益アルトキハ(第千二百五十六條)會社外ノ者ノ爲シタル拂方ニ從ハザル可ラザルハ衆人ノ共ニ可トスル所ナリ故ニ第千八百四十八條ハ會社ト會社外ノ者トノ關係ニ交渉スルモノニ非ザル知ル可キナリ

或ハ曰ク第千八百六十條ニ從ヘハ管理人ニ非ザル社員ハ會社所屬ノ財産ハ已レカ部分ト雖モ之ヲ移轉スルノ權利ナキモノナリ是レ其社員ハ其財産ヲ所有セザルヿトナリタルモノニテ會社ハ會社外ノ者ニ對シテモ其所有主トナリシ所以ナリト然レモ管理人ニ非サル社員ニテ會社所屬ノ財産ヲ移轉スルヿヲ得サルハ會社存續ノ間各社員ノ共有權ニ負擔スヘキ所ノ不可分的ナル義務ヨリ生スル結果タルノミ是レ既ニ余輩ノ述ヘシ所(第百五十八號)ナリ

或ハ又云ク第千八百六十條ノ精神ヲ推及セハ管理人ナル社員ハ會社ノ財産カ移轉スルヿヲ得可シ然ラハ則チ此社員ハ會社外ノ者ニ對シテ會社ノ代理人ナリ（同上參看）ト余輩ハ以爲ラク然ラス其社員ハ共有者ナル社員ヲ代理スル者ナリ猶ホ通常ノ名代人カ結社セザル共有主ノ代理人トナルヲ得可キガゴトシ決シテ之ヲ以テ會社外ノ者ニ對シテ會社存在セリト云フ可ラス

又此論タル實際上確乎タルモノナリ蓋シ民事會社ヲ創設スルニ際シ社外ノ者ニ此由ヲ知告スルガ爲メ商社ニ於ケルカ如キ公告ヲ必要トスルヿ無シ故ニ社外ノ者會社ノ存立ヲ知ラザルヿアル〳〵ク而シテ之ヲ無形人トスルヿアレハ突然其効ヲ受ケテ意外ノヿアル可キナリ是ノ如クナルカ故ニ余輩ハ斷然民事會社ヲ以テ無形人ニ非ズトス可シ

第三　會社解散ノ事

（第百六十四號）會社ハ第千八百六十五條ニ隨ヒ左ノ場合ニ於テ解散ス可キモノトス

第一　契約ニテ定メタル時期ノ到リシ時

然レ𪜈其時期ハ延ハスヿヲ得可ク（第千八百六十六條）又正當ナル理由アル時ニ限リ定期前ト雖𪜈解社スルヿヲ得ヘシ（第千八百七十一條）

第二　物件消滅ノ時又ハ事業ヲ終リタル𪜈（第千八百六十七條見合）

第三　社員一名死去シタル時

然レ𪜈其相續人ニテ其事ヲ繼承スルカ或ハ社中ノ生存スル者ノミニテ社務ヲ繼續ス可キ旨ヲ豫メ契約ヲ以テ定メタル𪜈ハ社員ノ死去スルニ拘ハラス會社ハ依然存立スルヿヲ得可シ（第千八百六十八條）

第四　社中ノ一名准死、治産ノ禁若クハ分産ノ處分（デコンピチユール）ヲ受ケタル時

第五　社中ノ一人若シハ數人其會社ヨリ退去セント欲スル旨ヲ述ヘタル時

然レ𪜈此事ハ無期ノ會社ノミニ限ル可ク而シテ其惡意ヨリ出ツルカ或ハ時宜ニ適セサル時ハ會社ハ解散スルヿ無シ(第千八百六十九條第千八百七十條)

會社ヲ解散スル時ニ分配ヲ爲ス可キ事ハ相續人ノ間ニ爲ス可キ分配ノヿニ係レル規則ニ依ル可シ(第千八百七十二條)

商事會社

(第百六十五号ノ一)　茲ニ先ツ第一ニ考究ス可キ者ハ何ニ由リテ商事會社ト尋常會社トヲ區別ス可キヤノ問題ニシテ其問題ハ甚タ重要ナル數多ノ利益アルモノナリ

第一　商事會社ハ商人ト同一ナル規則ニ從フベキモノニシテ殊ニ其管轄、破産、商業簿冊ヲ設ルノ義務ノ如キハ全ク商人ト同樣ナルモノトス(昔時拘留ノ制アリシ時ハ社員其處分ヲ受ケタリ)

第二　商事會社創立ニ付テハ特別ナル法式ヲ行ヒ且之ヲ公告セザル可ラズ(商法典第四十二條以下及ヒ千八百六十七年七月二十四日ノ法律第五十五條以下)

第三　管理人ハ明カニ委任ヲ受ケズト雖𪜈社員ヲノ義務ヲ負擔セシムルヿヲ得可シ

第四　商事會社ニ於テハ或ル要件ニ從ヒ期滿得免ノ期限ヲ五ケ年ドス

第五　商事會社ノ無形人タルハ異論無キ所ナレハ裁判所ニ之ヲ呼出ストキハ管理人名宛ニテ會社ヲ設ケタル地若シハ其管理人

ノ住所ニ呼出狀ヲ送達スヲ得ル可シ(訴訟法典第六十九條第六項裁判例規ニ據レハ事業廣大ナル會社ニシテ數多ノ分社アル者ハ其何ノ地ニ在ルヲ問ハス訴訟掛ノ役員ノ住所ニ呼出狀ヲ送附スルヿヲ得可キモノトセリ(例ヘハ鉄道會社ノ如キ是レナリ)

然レ𪜈其訴訟ハ必ス事實上或ハ約束上ノ細事ニ係ル者タル可ク株主ノ投言ノ有効無効ノ如キ汎博ノ問題タラザルヲ要ス

第六　商事會社ノ無形人タルヨリ生ス可キ他ノ結果(此事モ亦茲ニ列載スルヲ要ス然レ𪜈是レ特ニ考究セザル可ラサルモノナルガ故ニ左ニ之ヲ說明ス可シ)

蓋シ商事會社ノ利益ナル者即チ社員ノ權利ハ必ス動產ナリトス是レ民法典第五百二十九條ニ明文ヲ揭ケタルモノナリ

(論)然レ𪜈此權利ノ性質ハ果シテ如何ナル者ソヤ夫レ商事會社ハ其資本ノ所有主ニシテ同一ノ物件ニ同時ニ完全ナル二個ノ所有權ノ存ス可キ理無キヲ以テ民事會社ニ於ケルカ如ク(第百五十八號參看)其社員ヲ會社ノ資本ヲ共有スル者ト看做スヿヲ得可ラズ故ニ其權利ノ性質ニ付テハ二ケノ說ヲ下タスヿヲ得可キノミ

第一說　社員ハ期限アル共有者ナリ何トナレハ會社解散シタルトキハ無形人ハ消滅ス可キヲ以テ社員ハ直チニ其資本ノ共有者トナレバナリ想フニ會社解散ノ時社員其資本ノ共有者トナルハ諸人ノ認ムル所ナル可シ故ニ其共有ノ權ハ豫メ存在スルモノナレ𪜈只會社解散ノ期アルヲ以テ其期ニ至ル迄其權ノ執行ヲ停止スルモノナルヲ知ル可シ是レ簡單ニ社員ノ地位ヲ解剖シタル所ナリ

第二　社員ハ會社ノ資本中ヨリ己レガ部分ヲ受ク可キ債主ナリ(每

歳收得シタル純益中ヨリ已レカ部分ヲ受クルハ措ヒテ論セス(可)

此債主ノ權ハ會社解散ノ時ニ行フ可キモノニシテ社員ハ之ニ因リテ直接ニ民法典第千百三十八條ニ據リ當時存在スル會社ノ資本中ヨリ已レガ部分ヲ受ク可キ所有主トナル可シ故ニ此説ニ於テモ第一説ノ如ク會社解散ノ時生ス可キ事件ヲ認ムルナリ會社存續ノ間社員ハ期限アル共有者ナリト云フハ全ク無用ノ事ナリトス蓋シ社員債主ニ非ズシテ期限アル所有者トシテ有スル所ノ利益ハ現ニ其所有權ヲ隨意ニ處置スルヲ得ルニ在リ然ルニ第一説ノ如キ縱令社員ヲ以テ期限アル共有者ナリト云フト雖モ必スヤ其共有物ニハ不可分配ナル義務アリ而シテ其共有物ナル名義ヲ以テ民事會社中ニ存在スル時ト雖モ亦此義務アルガ爲メ(上文第百五十八號)社員ハ會社ノ不動産中ヨリ已レガ部分ヲモ移轉シ又ハ質物トナスヿヲ得ザルモノタル(民法典第千八百六十條)ヲ認メザル可ラス

民法典第五百二十九條ニ據レハ會社不動産ヲ所承スル時ト雖モ社員ノ權利ハ動産ナリトセリ第一説ニ於テハ之ヲ釋明スルヿ能ハス蓋シ社員ノ權ハ代換ス可キ物件(フオンシーブル)ノ如ク種類ヲ以テ示定シ一体ト看做シタル會社ノ資本ニ就ヒテ成立モノト思惟スルニアラサレハ其權ノ性質動産タルノ理釋然タラサルヘシ然リ而シテ社員ノ權利ハ期限アル共有權ナリトスルノ説ニ於テハ第五百二十九條ニ據テ此ノ如ク觀察ヲ下タスヿ能ハサルナリ何トナレハ不確定ナル物件即チ種類ノミヲ以テ示定シタル物件ニハ所有權アルノ理ナシ乃チ每個ニ示定シタル物件ニハ人其所有主トナル可シ然ラザル物件ニハ決シテ所有主タルヲ得サレハナリ是レ民法典第千百三十八條ニ拘ハラズ契約ノ目的確定ル物ナラザルトキハ契約ノ効ヲ以テ直チニ所有權ヲ移轉スル能ハサル所以ナリ且若シ現存セル確定ノ不動産ニ付テノ期限アル所有者

又ハ共有者ナルトキハ其權ハ不動産ニ付テハ不動産タル可ク而シテ會社ノ他ノ有價物ニ付テハ動産タル可シ

然ルニ債主權ニ種類ヲ以テ示定シ代換ス可キモノト看做シタル不確定物ニモ存スルヿアルモノニシテ民法中其例ヲル見ヿ枚擧スルニ暇アラズ即チ民法典第千百二十九條ニ於テ明カニ之ヲ許ルセリ故ニ社員ノ權利ハ準収實者ニ對スル虛有者ノ權利ト幾分カ相類似スル所アリトス而シテ此虛有者ノ權利ハ本來所有權ナレトモ収實者ノ之ヲ消費スル物件ニ存スルモノナルニ因リ収實權ノ終ルニ至テハ虛有權變シテ債主權トナルモノナリ社員ノ權モ亦之ト同一ナル理由ニ因リ其根原ニ於テハ本來共有ノ權ナレトモ其代換ス可キモノトシタル物件ノ上ニ存スルヲ以テ終ヒニ變シテ債主權トナルモノナリ

今ヤ第一說及ヒ第二說ニ於テ證明セザル可ラザル所ノ者ヲ說述スルノ一事アルノミ卽チ何故ニ民法典第五百二十九條ニ於テハ社員各自ニ對シテハ會社ノ資本ニ不確定ニシテ代換ス可キ物件ノ性質ヲ附與シタルヤ否ヤノ事是ナリ此證明タル商事會社ニ付テハ容易ナリトス蓋シ商事會社ノ資本ハ殖産ノ器具ニシテ射利ヲ期圖スルノ方法ナルニ過ギザルモノト看做シタルモノナレバ如何ナル性質ノ財産ヲ以テ之ニ充ツルモ會社ノ目的タル商業ニ適用スルヲ得ヘキ以上ハ社員ニ於テ痛痒無キモノタリ故ニ例ヘハ製造場ノ如キ不動産ニシテ會社ノ資本タルヿアル可シ而シテ會社之ヲ人ニ賃貸スルトセンニ爲メニ會社ノ貸方ニ減少ヲ呈セザル以上ハ社員ハ毫モ損失スル所無カル可ク縱令明日ニ至リ火災ニ罹リテ製造場ノ燒失スルヿアルモ保險ノ約束アルトキハ新タニ之ヲ他ニ求メテ復タ人ニ貸シ以テ直チニ運用セシムルヿヲ得可ケレバ會社モ亦毫モ進路ヲ遮斷セラレタルヿ無ク依然其

事務ヲ繼續ス可ク而シテ社員タル者ハ此等ノ事件ニ關係ナカル可シ殊ニ商業ノ都合ニ因リテハ會社ノ有價物ハ當ニ他ノ種ノ物件ニ變換スルヲ得可キモノナルハ固ヨリ當サニ然ルベキ所ナリトス之ニ由リテ是レヲ觀レバ社員各自ノ會社ノ資本ニ付テ保有スル所ノ權利ハ決シテ確定ノ物件ニ存スルモノニ非スシテ只會社ノ資本即チ代換スルヲ得可キ無形ノ有價物ノミニ存スルモノタルヲ知ル可シ是レ法律ニ於テ社員ノ權利ヲ動產ト確定スルヲ得可キノミナラズ又確定セザル可ラザル所以ナリ何トナレバ無形ノ有價物固ヨリ不動產中ニ入ル可キモノニ非サレバナリ

蓋シ論者カ債主權或ハ共有權ナル名稱ヲ附スル所ノ社員ノ權ナル者バ會社解散ノ時其財產ノ純粹有高ノミニ存スルモノタリ故ニ何レノ說ニ於テモ會社ノ諸債主ニ悉皆義務ヲ盡シタル後ニ非サレハ社員ハ厘毫モ收納スル所アラサルモノトス社員自ラ債主ナリトノ口實ヲ以テ會社ノ債主ト共ニ其財產ノ配分ヲ受ケント欲スルヿヲ得可ラザルナリ

（第百六十五號ノ二）（論）如何ナル事ニ由テ商事會社タルヲ識認ス可キヤ

第一說ニ曰ク商法典掲出セシ編成ノ一ニ依ルモノナルトキハ其編成ニ因ル（二三ノ判決アレ𪜈鑛山會社ニ關スルモノナリ）

第一說ニ曰ク結約者ノ意ニ隨フ「トロヽン」會社編第三百二十九及ヒ其以下但シ鑛山會社ニ關スルモノナリ

第三說ニ曰ク會社商業ノ目的ナルニ由ル（可）蓋シ一個ノ有形人ヲ指シテ商人ナリト認定スルニハ其商賣ノ業ヲ爲ス目的ナルニ由テ之ヲ認定ス是レ無形人ニモ亦適用スベキノ規則ナリ夫レ事件ヲ目シテ商業ナリト認定スルヨリ生スル結果ニシテ公同秩序ニ關係スル者多數アリトス而シテ何人ト雖𪜈唯其意望ノミニテハ商人タルヿヲ得ザルガ

如ク會社モ亦社員ノ明意(第二説)ト暗意(第一説)トヲ論セズ其意望ノミニテハ商事會社タルヿヲ得ザルモノナリ故ニ採鑛會社或ハ不動産ニ付テ射利スル會社ノ如キ事業ニシテ他之カ主タル商業無キニ於テハ之ヲ商事會社ナリトス可ラズ(上文第三十六)

又商法上ノ編成ヲ用ヰタル會社ハ推測ヲ以テ之ヲ商事會社ナリトスルヿヲ得可シ尤モ反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

(第百六十六)(論)民事會社モ商法典中ニ規定シタル編成ノ一ヲ採用スルヲ得可キ乎若シ之ヲ採用スルヲ得可シトスルモ該會社ハ之カ爲メニ商事會社トナル可ラス然レモ商事會社ノ或ル利益ハ必ス受得スルナル可シ

今余ハ此問題ニ答ヘテ然リト言フ可シ夫レ商法上ノ方法ハ固ヨリ商人ノ創設シタルモノニシテ商法典ニ之ヲ掲載シタルハ就中商人ノ利益ノ爲メナリ然レモ商法典第十九條ニ三種ノ商事會社ノ事ヲ載セ以テ記述シタル所ハ只此意ヲ掲出シタルニ過キザルノミ決シテ特ニ此意ヲ制限スルノ文ヲ載セザルナリ而シテ佛國ニ於テハ契約ノ自由ヲ以テ總則トセリ但シ他人ニ對スルノ効ニ至テハ能ク之ヲ窮査セザル可ラス是レ亦余カ下文ニ論セント欲スル所ナリ又千八百十年ノ法律第八條未項ニ於テモ純乎タル民事會社ナル鑛山會社ニ此方法ヲ用ユルヿヲ許セリ(同上法律第三十二條)何トナレハ該會社ニテ株式ヲ有スルヿヲ許シタレバナリ又嘗テ無名會社ノ參議院ノ許可ヲ受ケザル可ラザリシキ民事會社ニ付テハ生存收益組合或ハ互相救濟會社ノ如ク容易ニ之ニ許可ヲ與ヘタリ之ニテ由是ヲ觀レバ民事會社ハ其選用シタル方法ニ關スル規則ハ総ヘテ準據セザル可ラズ余ヲ以テ之ヲ觀レハ是レ決シテ疑フ可ラサル所ナリトス

（第百六十七號）　民事會社ニテ商法上ノ方法ヲ用ヒシトキハ如何ナル効ヲ生ス可キ乎是レ必ス社員ノ意思ニ關スル効ナリトス例ヘバ編成ニ因リテ支配人ニ社員ヲシテ義務ヲ負ハシム可キ名代權ヲ與ヘタリトスル事ノ如キ是レナリ（論）然レ𪜈商法上ノ方法ヲ用サルニ付テハ社員ハ會社外ノ者ニ對シテ其義務ノ區域ヲ變更スキ乎就中差金會社ナルトキハ金主ノ如ク又無名會社ナルトキハ社員ノ義務ヲ其會社ニ差入シ金額迄ノミニ狹縮スルヿ得可キヤ否ヤ

第一說　然ラス曰ク社中ノ者ノ意望ニ因テ社外ノ者ニ對スル社員ノ地位變換シ得可キニ非ス果シテ此ノ如ク其義務ヲ狹縮スルトキハ總ヘテ民法典ニ記載シタル規則ニ矛盾ス可シ且破產分配ハ即チ債主間ニ平等ノ配分ヲナスヲ保スベキモノナリ然ルニ通常會社ハ破產ノ處分ヲ受ク可カラサルモノナルヲ以テ常ニ商事會社ヨリ擔保ノ少ナキ者ナリ故ニ商事會社ニ於テハ許サレタル事件ト雖𪜈通常會社ニハ許サレザルモノモアル可シト

第二說　然リ曰ク斯ノ會社ニハ公示スルノ規則アリ又其外形ニ顯ハルヽ方法ノ在ルアリテ社外ノ者ハ十分ニ保護セラル可ク又民法典ニ載セタル規則ハ双方ニテ詳細約定ヲナサヽル場合ノ爲メニシテ其反對ナル意望ヲ表示セシ時ニ至テハ大率復タ之ヲ適用スルヿヲ得ス而ノ其商法上ノ方法ヲ用ヒシトキハ是レ其意望ヲ十分ニ表示シタルモノト爲ス可シ彼ノ商法典ニ會社ノ行フベキ斯ル方法ヲ掲出セシハ商業ニ因テ之ヲ發明シタルヲ以テナリ

商事會社ノ編成ヲ用サテ社外ノ者其會社ヲ信用スルノ厚カラサルトキハ社中ノ者ノミ獨リ其弊ヲ受ク可シ社中ノ者ハ社外ノ者ニ知告シ或ハ契約ヲ變更スル等ノ如キヿヲ爲サヽルヘカラス

又千八百六十七年以前ハ參議院ニテ通常會社カ無名會社ノ方法ヲ用サルヿヲ許可シタルヿ屢アリタリ

〔論〕若シ商法上ノ編成ヲ用ヰシトキハ其會社ハ無形人ト爲ス可キ乎余ハ以テ然リトス曰ク前文ニ云ヘル結約者ガ民法典ノ規則ニ抵觸スルモ効アルベシトセリ而シテ通常會社ニハ無形人ナル性質ヲ附與ス可ラズト決スル確乎タル依據ハ即チ其旨ヲ知告セラレザル社外ノ者ノ利益ノ爲メ是レナリ然ルニ今此場合ニ於テハ商法上ノ方法ヲ用ヒ公示ノ要件ヲ行フヲ以テ社外ノ者ノ利益ハ既ニ保護ヲ得タレハ亦公同秩序ノ爲メ結約者双方ノ明瞭ナル意望ニ從フ可ラスト爲スノ理由ヲ見サルナリ且民法典第五百二十九條ニハ商事會社ノ外ニ工作會社ヲ附記シタルニ因リ稍々廣汎ノ義アバレ商法上ノ方法ヲ用ヒタル此ノ如キ通常會社ヲモ含有スル者ノ如シ上文(第百六十五號)ニ述ヘシ理由モ亦此會社ニ適用スベシ又訴訟法典第六十九條第六項ニハ商事會社ノ事ノミヲ記載シ而シテ其第五十條第二項ニ於テハ通常會社モ亦其所在ノ地アル可シトセリ又千八百十年四月二十一日ノ法律第八條未項ニハ採鑛會社ハ無形人ノ具有スル一性質アル可キヲ認メリ即チ其第三十二條ニ於テハ此採鑛會社ハ商賣ノ業ヲナスニ非ザル者ヲ明言スルニ拘ラス社員ノ權利ハ動産ナリト定メタリ

(第百六十八號)今又本論ニ復リテ商事會社ノ事ヲ論セン商法典第十八條ニハ商事會社ニ關ス可キ法ノ元素タル者ヲ擧示セリ曰ク

第十八條會社ノ契約ハ民法商法並ニ双方ノ約束ヲ以テ之ヲ定ム

此規則ハ宜シク上文第二十四号及ヒ第百五十七号ニ論シタル所ニ比照スベシ又民法典第千八百七十三條ニ記載シタル商業上ノ慣習ナル者アリ此第十八條ニ於テハ固ニリ之ヲ廢除シタルニ非ザルヲ以テ又

須ラク茲ニ算入スヘシ

（第百六十九号）第十九條ハ商事會社ノ種類ヲ載セタリ

第十九條　法律上ニテ商事會社ノ三種ヲ認ム

合名會社

差金會社

無名會社

是レナリ

其他資本增減會社ナル者アリ（千八百六十七年七月二十四日）ノ法律第四十八條第五十條迄）又共分組合（商法典第四十七條ヨリ第五十條迄ナル者アリ亦須ラク茲ニ算入スベシ尤モ資本增減會社ハ右第十九條ニ示シタル會社ノ少シク變性シタル者ナルニ過ギズ

或ハ商事會社ハ此卷ニ示シタル三ツノ編成ニ依ラスシテ民事會社ノ規則ヲ用ヰルヲ得可キヤ否ヤ疑フモノアラン然レ𪜈此問題ハ決シテ起ルヘキノ理無シ何トナレバ余カ後ニ義解ス可キ共分組合ナル者ハ民事會社ニ於テ得ヘキ諸般ノ利益ヲ與フルモノナレバナリ又若シ社外ノ者ニ會社タルヲ表示シタルトキハ余カ第百八號及ヒ第四百三十五號ニ説明ス可キカ如ク商事ニ付テハ社外ノ者ト取結タル契約ニ別段條件ヲ示シタルニ非サルヨリハ社員間ニ連帶ノ義務ヲ免カルヽヿヲ得ス

以上擧クル所ノ者左ノ如ク分テ九章ト爲シ一々之ヲ説明スベシ

第一章　合名會社（商法典第二十條ヨリ第二十二條ニ至ル）

第二章　通常或ハ利益差金會社（商法典第二十三條ヨリ第二十八條ニ至ル）

第三章　一般株式會社

第四章　株式ノ差金會社(商法典第三十八條)千八百六十七年七月二十四日ノ法律第一卷)

第五章　無名會社(商法典第二十九條ヨリ第三十七條ニ至ル千八百六十七年七月廿四日ノ法律第二卷)

第六章　資本增減會社(千八百六十七年七月廿四日ノ法律第三卷)

第七章　會社ノ契約ノ定式及ヒ之ヲ公示スルコト(商法典第三十九條ヨリ第四十六條ニ至ル千八百六十七年ノ法律第四卷)又此章ニハ會社ノ無効トナル概要ノ理論ヲ述ブ可シ

第八章　共分組合(商法典第四十七條ヨリ第五十條ニ至ル)

第九章　會社解散ノ事及ヒ其以後ノ事商法典第六十四條)

第一章　合名會社ノ事

(第百七十号)　合名會社トハ千六百七十三年ノ王令ニ於テハ社中ノ總員諸人ノ知ル所トナリ一同連帶シテ其會社ノ負債ヲ擔當スル者ヲ云之レヲ稱シテ一般會社ト云リ

フ社中總員ノ姓名ヲ諸人ニ知ラシムル會社ノ名前ト其連帶スルコトハ即チ此會社ノ二個ノ根源ナル性質ニシテ其通常會社及ヒ他ノ商事會社ト異ナル所ナリ

此章二節アリ左ノ如シ

第一節　會社編成ノ事ヲ論ス

第二節　會社管理ノ事ヲ論ス

第一節　會社編成ノ事

第二十條　合名會社トハ二人以上ニテ互ニ契約ヲ結ヒ其會社ノ名前ヲ以テ商業ヲ爲スヲ目的トスルモノヲ云フ

(第百七十一号)　凡ソ會社ニ於テハ社員ノ數如何ニ少數ナリト雖ヒ無名會社ニ於テハ七名ヨリ下ダル可ラザルモノトス(千八百六十七年七

月二十四日ノ法律第二十三條)又合名會社ニ於テハ社員ノ數ハ何程ニテモ衆多ナルヲ得可シ然レトモ此會社ニ於テハ社員互ニ信認協力セザル可ラスシテ相識ルヲ要スルカ故ニ實際其數ニハ大約自然ノ定限アリ

合名會社ノ編成及ヒ公告スルヿハ第六章ニ記述シタルヲ以テ就テ觀ルヘシ

(第百七十二號) 其會社ノ目的トスル所ハ事ノ大小ヲ問ハス總テ商業ノ類タレハ可ナリトス合名會社ト共分組合トヲ區別スルニ付テハ數多ノ議論アリシカ共分組合ノヿヲ論スルニ際シ述ル所アル可シ合名會社ノ目的ハ法律ニテ許シタルモノナルヲ要ス蓋シ營テ手形賣買世話人ノ身元金ノ爲メニ結ヒシ會社ハ効アル可キモノナルヤ否ヤノ議論起リテ久シク決定セサリシカ其論旨トスル所ハ此會社ハ公事ノ職務ニシテ商業中ニ入ル可ラスト云フニ在リタル千八百六十二年七月二日ノ頒布ニ係レル商法典第七十五條ヲ變改セシ法律ヲ以テ此會社ハ差金會社ノ編成ヲ以テスル以上ハ開設スルヲ許ルス可キヿト定メタリ

(第百七十三號) 第二十條ノ文ニ其會社ノ名前ヲ以テト云ヘリ蓋シ此名前トハ總社員ノ名前ヲ以テ編成スルカ或ハ其數人ノ名ヲ出シ及ヒ組合ト云ヘル語ヲ用ヒテ之ヲ編成ス此社名ハ商店ノ名トハ異ナルモノナリ商店ノ名ハ或ハ戰爭ノ名或ハ其目的トスル所ノモノヽ名或ハ商旗ヲ以テ諸人ノ知ル所ノモノナリ

合名會社ノ社名ハ其社員ノ名ニ非サレハ揭出ス可カラサルモノトス即チ左ノ如シ

第二十一條 社中ノ者ノ名前ニ非サレハ會社ノ名前ノ一部タル可ラ

ス。

社員一名死去シタルカ或ハ退社シタルモ尚ホ商店ヲ繼續スルトキハ信用アル從前ノ會社名前ヲ其儘遺シ置クモ可ナルカ如シ是レ蓋シ英國ニ於テハ多ク通例トスル所ニシテ和蘭商法典第三十條ニモ公告上數個ノ要件ヲ設ケ亦明カニ許ス所ナリ又千八百四十年一月十六日エークス府控訴院ニテモ斯ク決シタリキ然レ𪜈實際右ノ如ク之ヲ許スヿハ全ク玆ニ掲出セル箇條ノ明文ニ反スルモノニテ法律ノ精神ハ蓋シ社外ノ者ヲシテ其目擊スル所ノ名前ノ者ヲ信用スルヲ得セシムルニ在ナリ故ニ法律ニ罰則アリテ其罪ヲ犯シタル責ハ先ツ社員ニ歸ス可シト雖𪜈其結果ハ利益甚タ少ナキモノナリ何トナレハ其社員義務ニ充ツ可キ資產有ル時ニ非サレハ社外ノ者ハ社員カ責ヲ受クルニ付テ利益ナカル可ク而シテ若シ果シテ社員ニ資產無クンハ社外ノ者毫厘モ得ル所無ケレハナリ又其次ハ事實ヲ知リ已レカ名前ヲ遺シ置キ故隙ヲ述ブ可キヲ述ヘサリシ社外ノ者ノ如キハ就中其責ニ任セサル可ラス(民法典第千三百八十二條縱令其者如何ナル注意ヲナシ其由テ公告シタリト雖𪜈亦必スヤ其責ニ任ス可キモノトス

會社ノ名前ハ會社ノ署名ニ用ユルモノニテ其署名ハ社員各自ノ名前トハ異ナルモノナリ蓋シ社員ハ一身上ノ事務ニ付テハ各々固有ノ名ヲ署スト雖𪜈會社ノ事務ニ付テハ會社ノ名前ヲ用ユルナリ是亦合名會社ノ無形人タルヲ表スル所ナリ

(第百七十四号) 會社ノ資本ハ社員ノ供入シタル總物件ヲ以テ結成ス金額、商品、工作、信用、動產不動產等是レナリ

然レ𪜈各社員ハ就中已レカ名前ト之ニ附着スル信用トヲ差出スモノニテ又其工作並ニ商業上ノ能力ヲ供出スルヲ通常トス合名會社ナル

者ハ信用會社即チ人ノ名前ニ關スル會社ト謂フ可シ蓋シ其社中ノ者ハ實際會社ニ差出シタル物件ノ外ニ會社ノ資本ニ非サル總家屋ヲ擧ケテ擔保トシ以テ之ヲ債主ニ供スレハナリ

合名會社ニ此ノ如キ性質アル者ハ社員ノ利益ト社外ノ者ノ利益ノ爲メナレハ左ノ事件アルニ非サレハ各社員ハ其地位ヲ他人ニ讓與スルヿヲ得ス

第一　社員一同ノ承諾ヲ得ル事

第二　社外ノ者ニ注意セシメンカメ爲初メ取結ヒタル會社ノ契約公告ニ齊シキ公告ヲ爲ス事

第三　退社セントスル者其退社前ニ爲シタル總事件ニシテ他人モ其人ヲ信用シタルニ因リ爲シタルモノアルトキハ其義務ヲ負擔ス可キ事

但シ其社員ハ民法典第千八百六十一條ノ規則ニ準據シ特別組合人トハナルヲ得ヘシ組合人トハ己レカ會社ニ出シタル部分ノミニ付キ實際得ル所ノ損益ニ與カリ其ヿノミニ付テハ權利ヲ有スト雖モ會社ニ對シ別ニ權利アルヿナク又社務ニ干渉スルヲ得可カラサルモノヲ云フ

第二節　會社事務管理ノ事

〔第百七十五號〕　合名會社ハ商業上ノ諸務ヲ爲サヽル可ラス商業上ノ諸務トハ第一卷ニ商賣ノ業タル者ヲ說述シ又第二卷ニ簿記法ヲ論シタル際提出セシ諸件是レナリ

此事件ニ關シテハ法典第二十二條ニ一規則ヲ擧ケタルノミ

第二十二條　合名會社ニ加ハリ其會社ヲ結フ契約書ニ姓名ヲ記入シタル各人ハ其會社ノ負フタル義務ヲ連帶シテ擔當スヘシ但シ其社

中ノ一人ノミノ負フタル義務ト雖モ其者會社ノ名前ニテ契約ヲ爲シタルトキハ社中ノ各人皆連帶シテ其義務ヲ擔當ス可シ

社員一同義務ヲ連帶スル事ハ合名會社ノ本性ニシテ縱令規則ニ準依シテ公ケニナスト雖モ契約書ノ明文ヲ以テ連帶ノ事ヲ除去スルヲ許サヾルモノトス若シ之レヲ除去セント欲セハ社外ノモノト特ニ契約ヲ結ヒ其者ヨリ此利益ヲ抛棄スルノ許諾ヲ得ルノ法アルノミ

此一節分テ二款トス

第一款　社務管理ノ方法ヲ論ス

第二款　債主要求ノ權ヲ論ス

第一款　社務管理ノ方法ヲ論ス

此款又小別シテ三個トス

第一　指定シタル支配人ナキ時社務管理ノ方法

第二　指定シタル支配人アル時社務管理ノ方法

第三　指定シタル管理者若クハ特定ニ非サル管理者ノ爲スヲ得可キ諸件

第一　指定シタル支配人無キ時社務管理ノ方法

(第百七十六號)　此場合ハ通常ノ場合ニシテ各社員ハ商賣ノ諸業ヲ爲スノ權ヲ有シ自ラ社務ニ從事シ協議以テ之ヲ管理ス可シ其商賣ノ諸業ヲ爲スノ權トハ會社ノ名前ヲ以テ事ヲ爲スノ權ニシテ別ニ約定スル所ナキニ於テハ總社員ハ此權ヲ有スルモノトス是レ即チ第二十二條ニ記載スル所ニシテ此場合ニ於テハ通常會社ニ於ケル規則(民法典第千八百六十四條)ニ反シ社員ハ會社ヲシテ義務ヲ負擔セシム可キ代權ナリト看做ス可シ

(第百七十七号)　又民法典第千八百六十條ノ規則ニ異ナル所アリ社中

ノ者ハ支配人ニ任セラレスト雖モ會社資本ノ一部タル商品ノ如キハ商業ノ利益ノ爲メニ之レヲ質入レ又ハ移轉スルヿヲ得可シ是レ蓋シ商業ハ會社ノ目的ナルカ故ニ此場合ニ於テハ右移轉ノ事ハ支配上ノ事務中ニ包含スルモノナレハナリ(民法典第千八百五十九條第一項)而シテ他ノ社中ノ者ハ唯其契約ヲ結ハサル前ニ故障ヲ述フ可キ權利アルノミ(同上第千八百五十九條第一項)之ヲ支配上ノ抗拒權ト謂フ若シ社中ノ者此抗拒ヲ爲シタルトキハ一同集會シ討論ノ上多數ヲ以テ其當サニ爲スヘキ所ヲ決定ス多數ヲ以テ之ヲ決定スル者ハ凡ソ會社ノ契約ニ關セサル事件ニ付テハ多數ヲ以テ專權アルモノトスレハナリ(上文第百六十二號)而メ少數ノ者異論ヲ唱フルモ爭論ニ非サルヲ以テ裁判所ニ出訴スルヲ得可ラサルモノトス

其多數ヲ定ムルノ法ハ別段ナル約定アル場合ノ外ハ人員ノ數ニ由ル可シ何トナレハ則チ一方ニ於テハ社員カ所見ノ價格ハ其加入高ノ多少ニ關スルモノニ非ス又他ノ一方ニ於テハ社員中其加入シタル金額ハ些少ナル者アリト雖モ其義務ニ至テハ已レカ財產ヲ擧ケテ無限ノ責任ヲ有シ利益モ亦余ノ社員ト均一ナレハナリ

可否半スル場合ニ於テモ之ヲ裁判所ニ出訴ス可ラス其爲サント欲スル所ノ行爲過半數ヲ得サルモノナレハ只之ヲ爲サスシテ止ムヘシ古語ニ曰ク說同數ニ分レタルトキハ爲サヽルノ說ヲ良シトス

(第百七十八號) 又此事ニ付テハ第千八百五十九條第三項及ヒ第四項ヲ適用セサル可ラス故ニ各社員ハ會社資本ノ保存ニ任セサル可ラス

又場合ニ因リ一同ノ承諾ナキカ或ハ多數ヲ以テスルニ非サレハ支配人ト雖モ不動產ニ付キ變更ヲ爲スヲ得可ラス(上文第百六十二號參看)

然レモ第千八百五十九條第二項ニ記シタル事項ハ適用ス可ラサルモ

ノコテ各社員ハ會社所屬ノ物件ヲ一身ノ使用ニ供ス可キ權ナシ是レ其物件ニハ特定ノ用法アレハナリ(此事ハ右同項ニ記載スル所ナリ

第二　指定シタル支配人アル時ノ方法

(第百七十九號)　抑モ誰ヲ選ンテ支配人トスルカト云ハンニ固ヨリ社中ノ者ノ一名若シハ數名ヲ選ンテ之ニ其職務ヲ任スモノタルハ明カナリ(千八百六十七年ノ法律第五十七條)然スル時ハ其支配人トナリシ社中ノ者ニ限リ會社ノ爲メニ調印ヲ爲ス可ク而ノ他ノ社員ニ於テハ此權ナカル可キナリ

(論)然レ𪜈社外ノ者ト雖𪜈選擇シテ之ヲ支配人ト爲スヲ得可キ乎余輩ハ以テ然リトス蓋シ社外ノ者選マレテ支配人トナリ會社ノ爲メニ調印ヲ且シ自己ニハ義務ヲ帶フルヿ無ク會社ヲシテ之ヲ負擔セシムルヿ猶ホ代人ノ委托者ニ對スルガ如クナルヘシ是レ即チ會社ノ利益ヲ受ク可キ約束アルト否トヲ問ハス會社ノ爲メニ調印スルノ任ヲ受ケタル役員其事務ヲ爲スニ實際屢々アル所ノ場合ナリ又社外ノ者モ其心當ニナシタル社員ノ責ニ任スヘキ保証アルナリ或ハ云ク社外ノ者ハ社員ノ能力ト事務上ノ誠實トヲ心當ニシタル可ク然ルニ他人ヲ以テ之ニ代ラシムル時ハ是レ其社外ノ者欺カルヽモノト謂フ可シト然レ𪜈社員ハ乃チ其支配人ヲ選ムニ論者カ所謂分限ヲ用テシタリト答フ可キナリ又論者ノ言ニ云ク商法典第四十三條並ニ千八百六十七年七月二十四日ノ法律第五十七條ニハ事務管理ヲ許サレタル社員ノ名前ヲ公ケニス可キ旨ヲ命スルニ非スヤ然ラハ則チ管理者ハ社員タラサルヲ得スト曰ク然ラス此箇條ハ純乎タル揭出法タルニ過キス而ノ立法者モ其社員ト云ヘル語ニハ深ク注意セサリシナリ千八百六十七年ノ法律第二十二條ニ於テモ無名會社ニ付キ社中ノ者ヲハ選任シテ

其管理者ト爲ス可キ旨ヲ記載シタリト雖ヒ通法上ニテ此條件ヲ必要ストスルコハ非ス現ニ此箇條ノ草案ニハ其趣ヲ示シタリ

支配人ヲ命スル事

(第百八十號) 支配人ハ會社ノ契約書ニ記載シ之ヲ命スルヿアリ又會社開設後之ヲ命スルヿモアリ(民法典第千八百五十六條)其事若シ會社ノ契約書中ニ記載シタルトキハ之ト共ニ公ケニセサル可ラス(商法典第四十三條千八百六十七年七月二十四日ノ法律第五十七條)又同一ノ定式ニ從ヒ別ニ公ケニスルヿアル可シ(商法典第四十六條千八百六十七年ノ法律第六十一條)支配人ニ非サル社中ノ者ハ如何ナル契約ヲモ取結フ可キ權利ナク又會社ノ爲メニ調印ヲ爲スヿヲ得可ラサル旨ヲ社外ノ者ニ通知スルヿ侍キ右ノ如ク支配人ヲ命シタルヿヲ公ケニスルハ實ニ緊要ナル事ナリトス

支配人ノ權限

(第百八十一号) 支配人ハ概ヲ互ニ協議セスシテ社務ヲ處理スルヲ得可キモノナリ(民法典第千八百五十七條)但シ支配人ハ皆社務ヲ管理スルモノナレハ其抗拒權ヲ行ヒシトキハ格別ナリトス(上文第百七十七號)然レトモ其支配人他ノ支配人一名若クハ數名ト協議シタル時ニ非サレハ會社ヲシテ義務ヲ負擔セシムルヲ得可ラサルヿト契約スルヲ得可シ(民法典第千八百五十八條)而シテ此事ハ會社ノ爲メニ調印シタル時モ同樣ニシテ右ノ如キ約定アル上ハ支配人二名或ハ數名ニテ調印シタルコ非サレハ會社ヲシテ義務ヲ負擔セシムルヿヲ得可ラサルモノトス尤此等ノ約定ハ通常重大ナル事件ニ限リ之ヲ爲スモノナリ會社ノ爲メニ爲シタル調印ニ付テハ通常ノ區域アリテ其調印ニテ會社ヲシテ義務ヲ負擔セシムルニ十分ナルニ因リ右ノ如キ仕方ニテ爲

シタル契約ハ効アル可キヤ否ヤト疑フ者アリタリ然レ𪜈其趣ヲ公ケニシ社外ノ者ニ通知シタル以上ハ結約者双方ニテ欲シタル條件ニ付キ故障ノ生ス可キ理由ハ之レ無シ而ノ此ノ如キ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ支配人互ニ監察ス可ク若シ其一人妨取スル等ノ「アラハ他ノ支配人ニテ之ヲ引受ケサル可ラス然レトモ此場合ヲ除クノ外ハ特ニ約定ヲ爲サヽル以上ハ支配人社員ニ對シ連帶シテ義務ヲ負擔スル「無キモノトス」

○社員ニテ支配人ヲ監察スル事

(第百八十二號) 此事ニ付テハ二個ノ場合アルヲ以テ之ヲ分タサル可ラス

(ハ) 會社存續中ニ支配人ヲ命シタル時

此場合ニ於テハ何時ニテモ支配人ヲ罷ムル「ヲ得可キヲ以テ(民法典第千八百五十六條未文)其所爲ニ付テハ常ニ社員ノ監察ヲ受ク可ク而ノ社員ハ常ニ其爲ス所ノ事件ニ付キ故障ヲ述フル「ヲ得可シ

(ろ) 會社ノ設立契約書中ニ記載シテ之ヲ命シタル時

此場合ニ於テハ之ヲ退職セシムルヲ得ス(第千八百五十六條第二項)又其爲サント欲スル事件ニ付テハ社員ヨリ故障ヲ述フル「ヲ得ス但シ詐僞アリシ時カ或ハ退職セシム可キ正當ナル由理アル時ハ格別ナリトス(第千八百五十六條)

右二個ノ規則ニ付キ尙ホ述フル所アラントス

支配人ノ爲シタル諸業中詐僞ナキ以上ハ社中ノ者ハ何ノ事ハ不注意ナリ云々ノ業ハ不良ナリト看做ス旨ヲ支配人ニ忠告スルヲ得可キニ過キス然レトモ支配人ハ之ニ關セス隨意ニ事務ヲ處置スルヲ得可ク而シテ其爲シタル契約ハ社外ノ者ニ對シテ効アル可シ勿論支配人ニ

過失アリシ時ハ支配人ハ社中ノ者ニ對シ其責ニ任セサル可ラス(民法典第千八百五十條及ヒ第千九百九十二條)其所爲ニ過失アリトスルハ概チ其嚴格ナル通知ヲ得タルニアリトス若シ又之ニ反シテ詐僞アリシ時ハ其事ニ付キ故障ヲ述フルヿヲ得可ク而メ(民法典第千八百五十六條)支配人之ヲ抗拒スルニ於テハ裁判所ニ其由ヲ訴フルヿヲ得可シ

支配人社員ノ代人タル時ハ正當ナル理由アルヿ於テハ之ヲ退職セシムルヲ得可シ之ヲ退職セシムルヿノ如キハ固ヨリ會社ノ契約ニ牴觸ス可シト雖ヒ結約者一方ノ者ニテ已レカ義務ヲ缺キタリト云フ道理ニ基クナリ(民法典第千百八十四條)此事ニ付テハ必スシモ支配人ニ詐僞アルヲ待タス其爲セシ諸般ノ事ニ於テ無能力タルノヿ判然セシ時ハ以テ之ヲ退職セシム可キ正當ナル理由アリトナス可シ論者或ハ曰ク其支配人ヲ命シタルハ會社ノ契約要件中ノ一ナルヲ以テ之ヲ退職セシムルニ於テハ其會社モ共ニ解散セサル可ラスト然レトモ結約者ノ意ハ管理者不忠實ナルカ或ハ無能力タル時ト雖ヒ尙ホ之ニ其職務ヲ繼續セシメント强ヒテ同意スヘシト云フヿ在リトハ信ス可ラス故ニ若シ結約者ニ於テ右管理者ヲ換ユルニ同意スルヿヲ得可キトキハ會社ヲ解散セシム可ラス民法典第千八百五十六條ニ正當ナル理由アルニ非サレハ會社存立ノ間ハ支配人ヲ免職ス可ラサル旨ヲ記載シタル者ハ即チ此正當ナル理由ヲ實用スルヿアルモ會社ハ依然存續ス可キヿヲ指示シタルモノヽ如シ

第三　特ニ指定シタルト否トヲ分タス管理者ノ爲スヲ得可キ事件

(第百八十三號)　會社ノ管理者ハ其內部ノ管理ヲ爲スニ付キ社員ノ代人權ヲ有スルモノニテ役員ヲ免職スルヿモ亦其權ヲ有ス可シ會社ハ

乃チ之ヲシテ代理者タラシムルヲ以テ役員ノ犯罪ノ責ニ任セサル可ラス就中役員盗罪ヲ犯シタルトキノ如キ其責ヲ負ハサルヲ得ス(民法典第千三百八十四條)

會社ノ外部ニ在テハ管理者ハ前卷ニ義解シタル如キ商賣ノ諸業ヲ爲フヲ得可シ

然リト雖モ不動産ヲ移轉シ若シクハ書入質ト爲ス如キヿハ通常其爲スヲ得可ラサル事トス是レ蓋シ非常ノ處置ナルヲ以テ總社員ノ承諾ヲ得サル可ラス

不動産ノ移轉若シクハ書入質スラ既ニ管理者ノ爲スヲ得可ラサルヿナレハ動産ト雖モ些少ノ金額ニシテ且報酬ノ名義アルニ非サレハ恩惠上之ヲ人ニ與フルヿヲ得ス又義務ヲ釋放スルヿモ恩惠ニテ爲シタル釋放ト看做サヽル破産和解約定(破産ノ卷參看)ニ非サレハ管理者隨意ニ之ヲ處置スルヲ得ス

(第百八十四号) 又管理者ハ金額ヲ借入ルヽヿヲ得ス如何トナレハ其使用ス可キ會社ノ資本ヲ增加スルニ因リ亦社中ノ者ヲ受ク可キ危險ヲ增加シ且其責ニ任ス可キ負債ヲ增加スル重大ノ事タルヲ以テナリ

會社ノ定款ニテハ之ヲ許ルスヿヲ得可シト雖モ若シ其明文無キニ於テハ決シテ管理者ノ獨行ス可キ所ニ非ス何トナレハ則チ會社ノ資本ヲ增益スルヿハ即チ其定款ヲ變換スルモノタルニ因リ社員一同ノ承諾ヲ經更ニ此旨ヲ公レニセサル可ラサルカ故ナリ

只些少ノ金額ヲ短キ期限ニテ借入ルヽヿニ之ヲ許スヿヲ得可シ但シ商業ノ慣習ニ隨ヒ商法上ノ方法ニテ之ヲ爲サヽル可ラス例ヘハ商品等ノ抵當ヲ取リ或ハ手形ヲ割引拂セシムルカ爲メ借入ヲナス如キ是レナリ

(第百八十五號) 又管理者ハ他ノ管理者ヲシテ會社ノ代理人タラシメ以テ已レカ一身上ノ名前ニテ會社ト契約ヲ結フヿヲ得可キ乎ト云ハンコ或ハ疑議ヲ起ス者アラン然リト雖モ固ヨリ之ヲ許サヽル可ラス蓋シ千八百六十七年ノ法律第四十條ニテハ社員ニテ監察ヲナスニ難事タルニ基キシ二三ノ要件ニ從フトキハ無名會社ニ在テ之ヲ爲スヲ許シタリキ故ニ一人ニテ二個ノ會社ニ管理者タルトキハ其一ノ會社ヲシテ其他ノ一ノ會社ニ對シ義務ヲ負擔セシムルヿヲ得可シ

又管理者ハ裁判所ニ於テ原告人トナリ若クハ被告人トナルヲ得可シ又其財産移轉ノ權限内ニ在テハ和解ヲ爲シ及ヒ判斷人ノ判斷ニ依賴スルノ權ヲ有ス可シ

(第百八十六號) 又其職務上犯セシ罪ニ付テ會社ヲシテ其義務ヲ負擔セシムルナリ(民法典第千三百八十四條)例ヘハ其管理上ノ事件ニ於テ欺詭ヲ爲シタル時ノ如キ是レナリ

(論)若シ管理者一身上ノ利益ノ爲メニ會社ノ印ヲ使用シタル時ハ如何若シ社外ノ者善意ニテ其事ハ實ニ會社ノ事務ナリト信シタルニ於テハ會社ハ其義務ヲ負擔セサル可ラス此レ前文ニ擧ケタル規則ニ因テ生スル所ノ者ナリ又債主ニ於テ其事ハ管理者カ一身上ノ事タルヲ知リシ時ト雖モ管理者ト會社トノ間ニ相談アリシ事ナリト思考シタル可キ時ハ此債主ニ善意アリシトスルヿヲ得可シ然レモ社外ノ者實ニ惡意アリシ時ハ會社ニ對シテ其契約ノ事ヲ言立ルヿヲ得ス

(第百八十七號) 會社ノ定款ニテハ固ヨリ管理者ノ權限ヲ伸縮スルヿヲ得可シ但シ其權限ヲ狹縮シタルトキハ其由ヲ公告スルヲ要ス例ヘハ如何ナル仕方ニテモ金額ヲ借入ルヽヿ禁シタルカ又凡ソ直拂ニテ物品ヲ買入レサル時ハ其買入レノ事ニ付テハ管理者ノミ其義務ヲ負擔

ス可キ等ノ事ハ其旨ヲ公告セサル可ラズ

第二款　債主ノ起訴權

(第百八十八號)　法典ニ於テハ債主總社員ニ對シ其連帶シテ義務ヲ行ハンコトヲ請求スルノ權ヲ認メリ而シテ其會社ノ資本ニ付テノ權利ニ關シテハ明文ヲ載セスト雖モ此事ハ亦論述セサル可ラサルモノニテ今此款ノ論端ヲ開クモ亦之ヨリ始ムルヲ適當トス

第一　會社ノ資本ニ付テ起訴スル事

抑モ會社ノ資本トハ先ツ會社ノ債主ノ抵當物ニシテ固ヨリ會社ノ契約ニ當ツ可キ者タリ而ノ會社ナル者ハ元ト無形人ナルヲ以テ其債主ハ社員カ一身上ノ債主ニ先タチテ會社ノ資本ヨリ義務ノ執行ヲ受クルノ權アリ而シテ社員カ一身上ノ債主ハ之ヲ哀訴スルヲ得可ラス何トナレハ其負債者ハ自己ノ差加物件ヲ無形人タル會社ノ利益ニ供シ之ニ移轉シタルヲ以テナリ若シ此移轉ニシテ債主ノ權利ヲ害スルノ詐僞ナキ以上ハ其債主ハ之ニ故障ヲ述フルヿヲ得可ラス(民法典第千百六十七條)故ニ又其債主ハ會社ノ債ト已レカ債トヲシテ相殺セシムルカ如キヿモ得可ラス

若シ社員一身上ニテハ義務ヲ盡スヿヲ得サルモ會社ノ資本ニ就テ訴訟ヲ起サハ義務ヲ得可キトキハ債主ハ右ノ如ク會社ノ資本ヲ分ツ可キ利益アリト雖モ是レ唯之ヲ爲スヿヲ得ルノミ決シテ斯ク爲ス可キノ義務アルニハ非サルナリ

第二　社員ニ對シ訴訟ヲ起ス事

(第百八十九號)　社員ノ地位タル會社ノ負債ニ付テハ會社ノ連帶保證人ナリト云ハヽ甚タ細密ナル義解ナリト爲スヲ得可シ而シテ其互相ノ關係ハ會社ノ資本ニテ不足ナル時ニ非サレハ負債ヲ擔任セス各々

之ヲ分擔スルモノナリ然リト雖モ債主ノ都合ニ因テハ社員中ノ一名ニ對シ義務ノ全部ヲ得ント訴訟ヲ爲スヿヲ得可シ而シテ其社員中ノ一名ハ己レト他ノ社員トノ間ニ「ベチフース、ヤスクエシヨン」本人ノ財産ヲ以テ先ツ其義務ニ充ツヘキヿヲ求ムル保証人ノ利益アリト言立ルヿヲ得可ラス又會社ノ資本ヲ檢査セシムルカ爲メ財産檢査ノ利益アリト言立テ其訴訟ヲ排却スルヿヲ得可ラス別ニ制限ヲ設ケスシテ連帶シテ義務ヲ負擔スヘシト定メタル商法典第二十二條ニ此ノ如キ意義ヲ與ヘサル可ラスモリニエー第三百五十四ブラウワール第一篇第二百十丁○他ノ諸者ハ社員ハ其訴訟ヲ受クタル者ノ後ニ非サレハ義務ヲ負擔スルニ及ハス且連帶スルヿナシト云ヘリ「ドランクル」及ヒルボワトウワン第一版第二篇第二百四十第二版第三篇第二十六ダローズ會社ノ部第九百十ドマンシヤーブラワール評論第四篇第二百十丁アローゼ第二百八十七但シ債主ハ有用ノ時ニ際シ會社ノ代理者ニ對シ債主權アルヿヲ証明シ以テ其會社ノ債主タル分限アル趣ヲ証セサル可ラサルヿアルヘシ

社中ノ者ノ一名若クハ會社ニ對シ一旦訴訟ヲ起シタルトキハ總社員ニ對シ期滿免除ヲ妨止シ且利子ヲ生セシムヘキヿヲ連帶ノ結果ナリトシテ玆ニ附言セサル可ラス此説ハ必ス連帶ニ非サル義務アルノミトウワール第一篇第四百三十八丁ヲー云ヘル論者ノ不可トスル所ナル可シブフブリ及ヒローー第三篇第十五丁(第三版)其訴訟ヲ受クタル者支配人タラサル時ニ於テモ亦同樣ナリトス

社員ニ對シ訴訟ヲ爲ストキハ會社ノ債主タリト雖モ社員一身上ノ債主ニ對シ先取ノ權ナキヲ以テ之ト共ニ其財産ヲ分受スルヿヲ甘ンルザルヲ得ズ是ノ故ニ會社ノ債主タル者ハ社員一身ノ財産ヲ措キ會社ノ資本ニ就キ義務ヲ得ント訴フルハ最モ利益アル可ク就中社員會社ノ外ニ有スル所ノ財産甚タ僅少ナル時ノ如キ斯ク爲スハ大ナニ利益ナル可シ

(第百九十號) 社員社務ヲ管理セサル時ト雖モ商人タルヘシ何トニレ

ハ社員ハ名代人ヲ以テ會社ノ日常ノ業務ニ關與スレハナリ故ニ商事裁所判ノ管轄タル可シ（ブラウワール第一篇第二百九丁第二百十丁○然レ𪜈余ハ社員ハ一身上商業簿冊ヲ設置スヘキノ義務無キヲ許スヘシ何トナレハ法律ニテ概ネ此義務ヲ商人ニ命スルハ其商業事務ニ付デナリ而シテ今社員ノ商業事務ニ付テハ會社ノ役員商業簿冊ヲ設置スルトセハ社員ノ義務ハ以テ十分盡セリト爲スヘシアローセ第八十九○反說ウワンサン第一篇第二百七十六丁モリニセー第二百十八ハーリー第五百十一）又會社ト共ニ破産處分ヲ受クルヿアル可シ又理論ハ響ク措クモ實際ニ於テハ之ト共ニ其處分ヲ受ケサル可ラサルナリ○蓋シ社外ノ者社員ニ對シテ請求ヲ爲シ其義務ヲ得可キニ於テハ會社ヲシテ破産ノ處分ヲ受ケシムルコト無キヲ以テ社員一身上ニテモ負債ヲ拂フコトヲ得サル場合ニ非サルヨリハ會社ニ破産ヲ言渡スコト無カル可シ故ニ法典ニ於テハ其共ニ破産スヘキコトヲ暗ニ許容シ（第四百三十八條、第四百五十八條、第五百三十一條ヲ看ル可シ）又法案討議ノ際其反對說ハ排駁スル所トナレリ社中ノ者其一身上ノ負債ニ因リ破産ノ言渡ヲ受クルモ之カ爲メニ會社ノ破産トナラサルコトアリ然レトモ若シ此事アルニ於テハ會社ハ解散セサルヲ得サル可シ（民法典第千八百六十五條第四項）

（第百九十一號）又社員ハ會社ノ負債者ニ對シ已レニ連帶權利アルヿヲ言立ツルヲ得可キヲ以テ其中一名ニテ負債全額ノ償却ヲ受クルヲ得可シ又其一名ニテ義務ヲ得ント求メシトキハ自余ノ社員ノ爲メニモ利益トナリ期滿免除ヲ中絶シ且利息ヲ生セシムルコトヲ得可シ

（第百九十二號）連帶ノ効社員ノ間ニ在テハ民法典第千二百十三條ノ規則ニ隨ソテ消滅ス可シ故ニ其社員中ニテ會社ノ負債ヲ拂ヒシ者ハ之ニ允ツ可キ會社ノ資本無キニ於テハ其同社中ノ者ニ對シ各自部分ノミヲ擔當セシムルコトヲ得可キノミ

（第百九十三號）社務ヲ管理スル者ト然ラサル者トヲ問ハス凡ソ社員會社ノ名前ヲ用ヰタルニ非スシテ自己ノ姓名ヲ署シタルニ止マル時ハ債主ハ其社員ノミヲ負債ト爲ス可シ

但シ此場合ニ於テモ社員社名ヲ以テ結約シ而メ其事會社ノ利益ト成リタルカ（民法典第千三百七十五條）又ハ會社ニ於テ其事ヲ確認シタル時ハ會社ハ其責ニ任スルヿアル可シ然レ𪜈社員若シ其自己ノ利益ノ爲メニ結約セシト欲シタル時ハ縱令會社之カ爲メ利益ヲ蒙リタルモ其責ニ任スルヿナシ此場合ニ於テハ會社ニ對シ（アクシヨン、ド、イン、レムウエルソ）家產ノ利益ト成リタルモノニ付テノ訴權）ヲ生ス可シト謂フ者アリト雖𪜈我カ法典中ニハ嘗テ此訴權ノ原則ヲ確認シタルヿナシ故ニ社外人ハ其結約シタル社員ニ代リテ間接ノ訴權ヲ有スルニ止マル可シ

第二章　通常或ハ利益差金會社

（第百九十四號）差金會社ニ二種アリ一ヲ通常或ハ利益差金會社ト云ヒ一ヲ株式差金會社ト云フ此章ニ於テハ先ツ其第一種タル者ヲ論述ス可シ

第二十三條第一項　差金會社トハ諸般ノ義務ヲ擔當ス可キ一人又ハ諸般ノ義務ヲ連帶擔當ス可キ數人ト資金ノミヲ差加フル一人又ハ數人ト互ニ取結ヒタル會社ヲ云フ但シ資金ノミヲ差加フル者ヲ名ケ金主又ハ出金社員ト云フ

第二十六條　會社ノ爲メ幾許ノ損失アリト雖𪜈金主ハ其差加ヘタル金高又ハ差加フ可キ金高ニ至ル迄ノ外其損失ヲ擔當スルニ及ハス

（第百九十五號）差金會社トハ二種ノ社員アル會社ニシテ其一種ノ社員ハ已レカ總財產ヲ以テ連帶シテ義務ヲ擔當シ他ノ一種ノ者ハ會社

ニ差入シタル金高ニ至リ迄ノ外義務ヲ擔當スルニ及ハサルモノヲ云フ第一種ノ者ハ名前社員資金ヲ受ケタル者又常ニ社務ヲ管理セザルモ管理者等種々ノ名アリ第二種ノ者ハ名ケテ金主又ハ資金社員トモ云フ

差金會社トハ元來依頼契約(依頼附托)ニ成リシモノナリ而シテ依頼契約ハ甲ノ者乙ノ者ニ商品若クハ金額ヲ委托シ取引ニ用サシメ其利益ヲ分ツモノヲ云フ昔時利子貸金ノ許サレザリシ時ニ在テハ此會社ハ資本ヲ融通スルヲ得可キニ因リ大ナル利益アリ又他位ニ因リ商業ヲ爲スヲ得ザリシ者ニハ其益鮮少ナラザリキ蓋シ王令ヲ以テ此會社ノ事ヲ規定シタリト雖モ其性質タル近今ノ法律ニ於ケルカ如ク判然タル者無ク又會社ノ名前ノ如キハ未タ與ラズメ管理者ハ自己ノ名前ヲ以テ契約ヲ爲セリ

今日ニ在テモ此會社ノ利益タル尚ホ巨大ナリトス蓋シ差金會社ナル者ハ金主ノ資本ト工作トヲ結合シ加フルニ名前社員ノ無限ノ信用ヲ以テスルカ故ニ凡ソ知識能力ヲ具ヘテ且商業ノ信用アル者ハ此ニ由テ其必用ノ資本ヲ得可ク又資本ヲ有スル者ハ以テ有用ニ之ヲ使用スルノ方法ヲ得可シ又資金ヲ此會社ニ差出スヒハ資本者ニ於テ配當金トシテ受クル所法律上ノ利金ヨリ多額ヲ得可キニ因リ尋常貸金ヨリ利益多キモノニシテ或ハ損失ヲ受クルヿアリト雖モ其會社ニ差加ヘタル金額ノ外義務ヲ負擔スルニ及ハサルヲ保ス可ク且差金會社ニ加入スルニハ合名會社ニ入社スル如キ無限ノ信用アルヲ必要トセス又名前商人ニ在テモ利益アルモノニテ金主ノ加入資本ハ企業ノ盛衰ニ隨從ス可キモノナレハ縱令損失ノヿアリト雖モ之ヲ返辨スルノ義務無キナリ又此會社ハ裁判官代言師官吏軍人等ノ如キ其職商業ヲ爲ス

可ラサル者ニ在テハ資本ヲ有益ニ使用スルノ方法ナリトス

此章ヲ分テ二節トス

第一節　會社設立ノ事

第二節　會社管理ノ事

第一節　會社設立ノ事

(第百九十六號)　差金ノ事ヲ定ムルニハ契約書ニ其旨ヲ明記セサル可ラス如何トナレハ商事ニ在テハ合名會社ヲ以テ通法トスルカ故ニ社外ノ者若シ其旨ノ通告ヲ得サルトキハ總社員ニテ擔保スルモノナリト思惟ス可キハ當然ナレハナリ昔時航海飛脚ノ爲メニ取結ヒタル會社ハ當然差金會社ナルヲ以テ之ヲ例外トシタリシモ(共和第十一年第九月二日ノ決定)千八百五十六年四月十六日外交上ノ公告ヲ以テ右飛脚ノ事ヲ廢シタリキ

會社ノ方法及ヒ公告ノ事ハ第五章ニ就ヒテ觀ル可シ

(第百九十七號)　差金會社ニ於テモ合名會社ニ於ケルカ如ク社名ナル者アリ然レトモ資金ヲ受ケタル社主ノ名前ニ非サレハ社名中ニ入ルヿヲ得サルモノトス是レ社外ノ者ハ名前ヲ掲示セル者ノ擔保アリト思惟ス可キヲ以テナリ

第二十三條第二項　此會社ノ事務ハ會社ノ名前ニテ支配ス可シ但シ其會社ノ名前ニハ連帶シテ義務ヲ擔當ス可キ一人又ハ數人ノ姓名ヲ用ユ可シ

第二十五條　金主ノ姓名ハ會社ノ名前ノ一部タル可ラス

會社ノ各前ニハ資金ヲ受ケタル總員ノ姓名ヲ擧クルニ及ハス而ノ其名前ヲ擧ケサル者ヲ表スルニ及ヒ組合ト云ヘル語ヲ附加スルヲ以テ足レリトス會社ノ名前ニ其總員ノ名ヲ用ヰサル時ト雖モ常ニ之ヲ稱シテ名前社員ト云フヲ得可シ如何トナレハ金主ノ名前ハ

公告セスト雖モ右社員ノ名前ハ結社契約書ト共ニ公告スレハナリ資金ヲ受ケタル者一人ナルトキモ及ヒ組合ト云ヘル語ヲ附加シ其者ノ名前ノミヲ會社ノ名前ニ用ユ可シ

是レ草案中明カニ掲載シニル所ナリ

(論)若シ會社ノ名前ニ金主一人ノ名ヲ入レタルトキハ如何ナル事ヲ生ス可キ乎 此場合ニ付キ法律ニ明文無シト雖モ固ヨリ其金主ナシテ連帶シテ其責ニ任セシメサルヲ得ス是レ蓋シ其金主ヲ信用シタル社外ノ者ニ負ハセタル損害ヲ償ハシムルニ効アル可キ唯一ノ方法ナルノミ(第二十八條比較)前文合名會社ニ於テ社外ノ者ノ名前ヲ社名ニ加入シタル場合ニ斯ク處分ス可シト云ヘリ今又此場合ニ在テハ金主モ常ニ會社ノ契約書ヲ知ル可キニ因リ善意ナリシヲ口實ト爲シ以テ責任ヲ免ルヽヿヲ得可ラザルハ明ナリ

(第百九十八號) 差金會社ニ差加フ可キ物件ハ合名會社ト同一ナレモ金主ハ社務ノ管理ニ干渉ス可ラザルヲ以テ只其信用若クハ工作ヲ差出スヿヲ得ザルノミ(下文第二十七條第二百七號以下參觀)然レモ化學者ノ製造所ニテ爲ス業書籍表粧調製者等ノ業ニシテ其工作附屬ノ事ニ係リ社内ニテ措置ス可キ者ノ如キハ加入スルモ妨ケ無シ

第二十四條 連帶シテ義務ヲ擔當ス可キ者數人アル時ハ其數人皆會社ノ事務ヲ支配スルト其中ノ一人會社ノ事務ヲ支配スルトヲ問ハス此等ノ者ニ付テハ合名ノ會社ナリト看做シ金高ヲ差加ヘタル數人ニ付テハ差金ノ會社ナリト看做ス可シ

(第百九十九號) 名前社員ハ通常皆支配人タル可ク總ヘテ別段ニ支配人ヲ命スルヿ無キ時ハ必ス然ルモノニシテ金主ハ一切支配人トナルヲ得サルモノトス(第二十七條)又名前社員ニテ其社員中ノ數人ノミヲ支配人ト爲スヿモアル可シ是レ此第二十四條ニ規定スル所ノ場合ナ

リ又實際ニハ然ルヿ無カル可シト雖モ社外ノ者ヲ選任スルヿモアル可シ支配人ノ權限幷ニ支配人ニ非ザル者ノ權限ニ付テハ前文合名會社ニ付キ說述セシ所ノモノヲ適用セサル可ラス

（第二百號）金主ト尋常貸主トノ差別ヲ論ス

金主ト尋常貸主トハ問々名ケテ資本貸主ト云フト雖モ金主タル者ノ適當ナル名ハ資金社員ト云フ可シト今其差別ヲ左ニ擧ケン

第一　貸主ハ貸金百ニ付キ若干ト一定シタル利子ヲ得ルモノナレモ金主ノ得ル所ハ配當金ナリ而シテ其配當金ハ利益ノ分配金ニシテ甚ダ多キヿアリ又甚タ少ナキヿアリテ其多少定マラズシテ且制限無キモノトス

第二　會社ニ損失アリシ時ト雖モ貸主ハ常ニ利子ヲ得ルノ權アレモ金主ハ會社ニ利得無キニ於テハ厘毫モ配當金ヲ受クルヿヲ得ス

第三　貸主ハ常ニ其資本ノ返還ヲ得ルノ權アレモ金主ハ會社ノ資本分配ノ權アルノミ而シテ會社ノ資本ナル者ハ減損シテ或ハ一物モ無キニ至ルヿアル可シ

第四　會社破產ノ場合ニ於テ貸主ハ其破產ノ書中ニ債主トナリテ少ナクモ百ニ付キ若干ノ金額ヲ得可キモ金主ハ債主ノ負債主トナリ其義務ノ全部ヲ盡サヽル間ハ厘毫モ得ル所無キモノナリ

時トシテハ貸主ニシテ利益ノ一部分ヲ得ルノ約束ヲ爲スヿアリ（其貸金ノ利息ハ受ルヿモアリ又受ケサルヿモアリ）ト雖モ其意ニ非サルモハ其貸主ハ之カ爲メニ社員トナルニ非ス故ニ會社ニ損失アルモ之ヲ引受クルニ及ハス然レモ民法典第千八百五十五條ニ會社中ノ一人ヲノ毫モ損失ニ與カラシメサル契約ヲ爲スヲ禁シタル規則ヲ免レンガス

爲メニ右等ノ契約ヲ結ヒタルモ知ル可ラサルヲ以テ其詐僞ヲ防カンカ爲メニハ其社員トノ間ニ尙ホ存ス可キ差別ヲ明細ニ弁拆セサル可ラス若シ結約者双方ニテ能ク其差別ヲ守リシトキハ其契約ハ有効ノ者ト爲ス可シト雖モ若シ約束ヲ以テ其差別ヲ消滅シタルニ於テハ即チ第千八百五十五條ノ規則ニ背キタルモノナルヲ以テ其契約ハ無効タラサルヲ得ス今其差別ナル者ヲ左ニ列載ス可シ

物件ノ價ヒ增シタルカ或ハ會社ノ定款ニテ利益金ト看做ス可ラサル準備金ヲ設ケタルカニテ會社ノ資本ヲ增益シタルモ右貸主タル者ハ會社ノ資本ノ分配ヲ受クルノ權利無キ事

社員會議ノトキ右貸主タル者ハ發論權無キ事

右貸主タル者會社ノ諸務ヲ知悉スルノ權無キ事

右貸主死去スル𪜈會社ハ解散セサル事

若シ貸主其金ノ利子ヲ法律上ノ最高利ニ約シ加フルニ利益配當ヲ約スル𪜈ハ高利貸ノ所爲アル者トス

(第二百一號)(論) 金主ハ商人タル乎

第一說 然リ金主ハ商賣ノ業ヲ爲スヿヲ慣習トスル會社ノ一部ヲナシ其商賣ノ業ニ付キ社外ノ者ニ對シ其差加ヘタル金額迄ハ義務ヲ負擔スヘキ者ナリ故ニ之ヲ代人ニ由リテ商賣ノ業ヲ爲スヲ慣習トスル者ナリト謂フ可シ苟モ商賣ノ業ヲ爲スヲ慣習トセハ則チ須ラク商法典第一條ニ記載シタル者ノ中ニ入ルベシ

第二說 然ラス(可)抑モ差金會社ナル者ハ商人タルヲ欲セス若シハ商人タルヲ得可カラザル者ヨリ資本ヲ集ムルカ爲メニ特ニ設ケラレタルモノニシテ而シテ法案討議ノ際ニモ此會社ニ其主義ヲ保有セシムルノ意ヲ表シタル者アリキ且夫レ商業ヲ爲ス者ハ無形人タル會社ノ

ミニシテ彼ノ金主ノ如キハ社外ノ者之レヲ識ラス而シテ決シテ自己ノ名前ヲ以テ會社ノ義務ヲ無限ニ擔當ス可キ社員ナルニ非ザルナリ

(若シ自己ノ名前ヲ擧ケ會社ノ義務ヲ無限ニ擔當スルトキハ則チ以テ商人ナリトナスベシ)唯金主ハ金額ヲ供出スルノミシテ而シテ其金額ハ或ハ損失ニ歸ス可キヿアルノミ又其金額ヲ供出スルヿアリト雖モ他人ヨリ復タ之ニ對シ他ニ求ムル所アルヲ得可ラザルモノナリ(アローゼ第三百三)

第二節　差金會社支配ノ事

第一款　支配ノ仕方

(第二百二號)　金主ノ權ト資金ヲ受ケタル者ノ權トハ宜シク分論ス可シト雖モ其資本ヲ受ケタル者支配人トシテハ合名會社ニ於ケル支配人ト全ク全一ナル權利ヲ有シ而シテ其支配人ニ非サル者ノ地位モ亦合名會社ノ社員ト同一ナルヲ以テ此ヿニ付テハ須ラク合名會社ノ部ニ就ヒテ參觀ス可シ故ニ茲ニハ只其支配人ハ金主ニテ進退シ且監察スルヲ得可キ者ナルヤ否ヤヲ述フ可キノミ何トナレハ則チ差金會社ノ主義ナル者ハ此點ニ於テ合名會社ト異ナル所アレハナリ然リト雖モ此論モ亦金主ノ權ニ關スルモノナレハ今乃チ金主ノ權利ト義務トニ就ヒテ述フル所アラントス

金主ノ權利幷ニ義務

第二十七條　(此箇條ハ千八百六十三年五月六日ノ法律ヲ以テ變改セラレタル者ナリ)

金主ハ社中ノ者ノ爲メ會社ノ事務ヲ支配ス可キ名代ノ任ヲ受ケタル時ト雖モ決シテ其支配ノ業ヲ爲ス可ラス

(第二百三號)　右箇條ノ理由ヲ以テ二種社員ノ不同等タル事卽チ差金

會社ノ基礎タル本性ヲ識ルヲ得可シ蓋シ商業ヲ指揮スル名前社員ハ眞正ノ商人ニシテ總ヘテノ財産ヲ差向ケテ契約ヲ結ヒ而メ其一已ノ分限ハ即チ商業世界ニ在テ會社ノ名聲ト地位トヲ爲シ以テ商業ヲ主理セサル可ラサル者タリ又金主ハ唯資本ヲ會社ニ供出シ其金額ノミヲ以テ商務ニ充テシメ名前社員ノ附屬トナリテ社外ノ者ハ之レヲ知ラス而シテ若シ其名前社員ノ附屬トナラス社外ノ者ノ知ル所トナリテ外形其實ト反スル如キヿアルトキハ此會社ノ原則ニ背ク者ト爲ス即チ人ニ於ケルモ會社ニ於ケルモ同一ナル可キ責任アル者ハ指揮ヲ爲スヲ要スト云ヘル原則ニ背クモノナリ是レヲ以テ二個ノ禁止アリ而シテ其禁止ノ事件ハ今此場合ニ在テ要重ナル原則ト爲ス

第一　金主ハ會社ノ内部ニ在リテモ決シテ社務ヲ支配ス可ラス

第二　金主ハ社外ニ在リテ會社ノ名代トシテ社外ノ者ト契約ヲ結フ可ラス

右第二ノ場合ヲ禁シタルヿハ更ラニ一理由アリ即チ金主ト契約ヲ結フ社外ノ者ハ其金主ノ全財産ヲ擧ケテ義務ヲ負擔ス可キ負擔主ナリト信スルニ因リ若シ金主ヨリ其義務ハ入社金高ニ止マル旨ヲ言立テシトキハ損害ヲ受ク可キ是レナリ

（第二百四號）　今下文ニ此規則ヲ詳論シ以テ之ヲ適用セン

先ツ第一ニ社外ノ者トノ關係上ニ就ヒテ述ヘンニ一個ノ事件ト雖モ金主ハ決シテ支配上ノ業ヲ爲スヲ得可カラサルモノトス何トナレハ若シ金主ニシテ此業ヲナストキハ社外ノ者ハ其金主ニ無限ノ責任アリト思惟ス可ク而メ一事件ト雖モ社員及ヒ債主ニ在リテハ甚タ重大ナル危險アレハナリ千八百六十三年五月六日ノ法律ヲ以テ法典第二十八條ノ改更アリシヨリ其罰則ハ場合ニ隨フテ寛嚴アルヿトナレリ（下

文第二百十五號參看)

第二十七條ニハ名代ヲ受ケタル時ト雖モト云ヘリ但シ商事上ノ規則ニ從フトキハ名代人ハ委托人ヲシテ義務ヲ負擔セシメサルヲ以テ社外ノ者ハ名代人ナル金主ノ擔保ニ着目スルヲ要セサルモノヽ如シ是レ即チ此第一原則ノ出ツル所以ナリ蓋シ金主タル者無限ノ責任ヲ帶ヒスシテ自カラ社務ヲ支配センヿヲ欲シ無資無力ノ人ヲ撰ンテ支配人ト爲シ其委任狀ヲ以テ社務ヲ支配センヿヲ恐レハナリ或ハ云ハン法律ニテ無名會社ノ自由ヲ(無名會社ニ於テハ各社員ハ其差入高外ニ義務ヲ負フヿナシ)許シタル上ハ復タ此禁制アルノ理由ナカルヘシ蓋シ社員ハ常ニ無名會社ヲ立テヽ之ヲ爲スヿヲ得ルカ故ニ差金會社ニ於テ間接ニ之ヲ爲スヿヲ得ストノ理由ナカルヘシト然レモ之レニ答フルニ無名會示ニ於テハ顯ハニ之ヲ爲スト雖モ差金會社ニ於テハ社外ノ者差金會社ノ擔保アル可シト思慮シタルニ其實之ヲ有セサルカ故ニ社員之ヲ欺騙スルニ至ル可シト云フヲ以テセサルヘカラス

舊第二十七條(千八百六十三年五月六日ノ法律ノ前)ニハ會社ノ事務ノ爲メニ使用セラルヽアリト雖モト云フ語ノ附加アリシ故ニ金主ハ會社ノ役員トシテモ社外ノ者ト契約ヲ結ビ又會社ノ內部ニテモ支配ノ職務ヲ行フヿヲ得サリシナリ蓋シ此場合タル亦上文ニ擧ケタル理由ニ基クモノナリ然レモ化學者ノ製造場ニ在リテ爲ス所ノ業勞働ヲ指圖スル業簿帳整頓者ノ業ノ如キ全ク附屬ノ職務ニシテ會社內ニテ爲ス可キ者ハ金主ノ從事スル所タルモ妨ケストセリ又會計掛小賣ヲ任トスル手代等ノ如キ其職務諸人ノ關係アリト雖モ契約ヲ取結フヿヲ主旨トセサル者ハ亦金主ノ從事スル所タルモ妨ケストセリ實ニ斯ル事件ニ付テハ制禁ヲ設ク可キ理由ナシ殊ニ法律ニ會社ノ事務ノ爲メ

ニ使用セラルヽ者ト云フテ會社ノ爲メニ使用セラルヽ者トハ云ハサリシナリ又會社ノ役員トテモ屢々其貯金ヲ會社ニ預ケテ利分ヲ得ルヿアレハ之ヲ妨止スルハ亦慘酷ト言ハサルヲ得サル可シ千八百六十三年ニ於テ右等ノ事ハ裁判上ニ屬ス可キ者ト爲シテ會社ノ事務ノ爲メ云々ノ語ヲ削除シタリト雖モ(ダウ非ードテツシヤン氏ノ民選議院委員ノ名ヲ以テ差出シタル意見書)其範圍ヲ擴ムルノ主旨ニテハ非サリキ今ヤ箇條ノ文面一變セシト雖モ以上述ベシ所ノ者ハ常ニ準據トス可キモノトス又法案討議ノ際旅行手代ノ如キ支配人ノ指圖ヲ待テ事ヲ取ル以上ハ金主ト雖モ賣買ノ委任ヲ受クル手代トナルヲ得可キヿヲ許シタリ

又金主自已ノ利益ノ爲メニ差金會社ノ支配人ノ事ヲ爲スハ決シテ妨ケサル所ナリ此場合ニ於テハ外人トシテ會社ト契約ヲ取結ブモノナレハナリ(合名會社ニ關セル上文第百八十五號ヲ參看スヘシ

(第二百五號) 今社員ノ會社ノ內部ニ在テノ關係ヲ論セン上文ニ會社ノ事務ハ名前社員ノ掌トル所ニシテ決シテ金主ノ爲ス可キ所ニ非スト云フヲ以テ原則ト爲シタリ然ルニ裁判例規ニ於テハ株式差金會社ニ付テ往々此原則ヲ意トセスシテ認メサリシヿアリ是レ大ニ然ラス故ニ先ツ立法者此規則ヲ設ケント欲シタルヿノ確信ヲ擧ケサル可ラス蓋シ右ノ原則ハ第二十七條ニ決シテ支配ノ業ヲト云ヘル語ヨリ生スルナリ此語中ニハ外部ノ支配ノ事ヲ含蓄スルノミナラス內部ノ支配ノ事ヲモ含蓄スヘシ又其次ハ金主名代ノ任ヲ受ケタル時ト雖モ一切支配ノ業ヲ爲ス可ラストシタル規則ヨリ生ス可シ斯ノ禁制第一ノ理由ナル者ハ金主ト資金ヲ受ケタル者トノ間ナル主從ノ差別アルニ因ルナリ又會社ノ事務ノ爲メニ使用セラルヽヿヲ禁シタル規則モ亦

正ニ前ノ原則ヲ定メタル處ニシテ論者モ皆此ノ如クニ之ヲ了解シ且千八百六十三年ニ於テ法律ヲ修正シタル時ニモ此規則ヲ維持セントスル旨ヲ明言シタルヿアリキ又千八百六十三年第二十八條ニ爲シタル追加ヨリモ同一ノ決定ヲ生スヘシ且此決定ハ前ノ原則ノ確認又ハ減縮ト爲スニ非サレハ之ヲ説明スルヿヲ得ス其附加シタル規則ハ左ノ如シ

第二十八條第二項　金主ノ事務ニ付キ助言論示ヲ爲シ又ハ檢査及ヒ監察ノ業ヲ行フタリト雖モ爲メニ會社ノ義務ヲ連帶シテ擔當スル者ナリトス可ラス

助言論示若クハ檢査及ヒ監察ノ業ハ支配ノ業ニ非ス故ニ凡ソ支配ノ業ニ關係スル事ハ金主ニ禁止ナリト云フヲ以テ原則トナス可シ蓋シ此條欵タル危險ス可キ資本ヲ安全ナラシメンカ爲メ法律制定ノ際ニ附加セラレタルモノニテ（タウヂードデンヤン氏）答弁人モ又責任アル支配人ノ全權ハ宜シク尊重ス可ク而シテ金主ハ唯懇切上干渉シ得可キコトアルノミト云ヘリ

（第二百六號）　今第二十八條第二項ニ就ヒテ金主ノ干渉ス可キ所ノ限界ヲ詳明セシ蓋シ其文面ニ據レハ助言論示ハ金主ノ爲スヲ得可キ所ト言ヘリ然レ𪜈是レ其職務タル毫モ法律ノ權力アルモノニ非ス又必ス金主ノナサヽル可ラサル所ノモノニ非スシテ純乎タル懇切上ノ干渉ナルヲ以テ支配人ニ於テ當ニ其助言ヲ取捨シ又毫モ之ニ從ハサルヿヲ得可ク而ノ其之ニ從ハサルヿアリト雖𪜈其社外ノ者ト取結ヒタル契約ノ如キハ爲メニ無効ニ属ス可キモノニハ非ス但シ金主ヨリ支配人其名代ノ事ヲ爲スニ付キ其助言ニ從ハサルニヨリ過失ヲ釀シタル旨ノ確証ヲ擧ケンカハ支配人金主ニ對シ其責ニ任ス可キハ勿論ナ

リトス(民法典第千九百九十二條)

第二十八條第一項ニ記シタル檢査監察ノ業ト云ヘルヿニ於テモ亦同樣ニテ此事ニ付テモ金主ノ社務ヲ處理スルヲ得可キ所ノ者アルヲ見ス抑モ檢査ト云ヘルハ既行事件ニ適用ス可ク而シテ直接ニ將來ノ支配上ニ勢力ヲ有ス可キモノニハ非ス又監察ト云ヘルハ注意ノ所爲ニテ以テ不取扱ノ所業ヲ防キ万一其ヿアルニ於テハ之ヲ改更セシムルヲ得可ク而シテ諸務ハ整頓スルヤ否ヤ又鄭重ナルヤ否ヤ等總ヘテ會社ノ景況ヲ金主ニテ通曉スルヲ得ルヿナリト雖ヒ將來支配人ノ行フ可キ事務ニ金主ノ干渉スルヲ許ルスニ非ラサルナリ千八百六十七年七月二十四日ノ法律ニハ(千八百五十六年ノ法律ノ後)株式ノ差金會社ニ於ケル監察會議設立方ニ付キ(第五條第十條第十一條)金主ノ權限ノ例ヲ載セ以テ他ノ金主ノ代人タル金主ニテ爲スヲ得可キ又ハ爲サヽル可ラサル事件ヲ擧ケタル即チ此第二十八條第二項ノ法律上ノ注解書ナリト謂フ可シ(右法律第十二條ヲモ併セテ觀ル可シ)

(第二百七號) 總ヘテ契約書ニ明文ナキトキハ以上述ヘタル事ヲ以テ金主ノ權限ト爲ス可シ然レヒ會社ノ契約書ニ特ニ條件ヲ掲載シタルトキハ稍廣大ナル權力ヲ之レニ與フルヲ得可キ乎上文ニ擧ケタル原則ニ隨ヘハ之ニ支配上ノ職務ヲ爲サシメ强テ支配人ヲシテ之ニ社務處辨ノ權ノ幾分ヲ讓ラシムル如キハ固ヨリ詐ルス可ラサル所ナルヘシ然レヒ拒否若クハ制限權ヲ金主ニ與ヘ之ヲシテ或ル場合ニ於テ支配人ヲ制止スルヲ得セシムル如キハ詐ルスモ不可ナルナキ乎例ヘハ金額借入財産移轉著大ナル買入等ノ如キ至重ノ事件ニ付テハ金主ノ助言ヲ聽キ其許諾ヲ得ルニ非サレハ支配人ハ之ヲ獨行スルヲ得可ラストスルカ如キ是レナリ余ハ此ノ如キ契約ハ有効ナル者ニシテ之ヲ公示

シタル以上ハ社外ノ者ニ對シテ申立ツルヲ得可キモノナリトナス可シ蓋シ金主ニ此權アルモ支配人ニテ會社ノ事務ヲ指揮スルノ權アルニ妨ケナカル可ク又其爲サントスル事ヲバ決シテ爲サシムルモノニ非ス唯是レ金主カ事ヲ調和スルノ權ニシテ其會社ニ差入レタル金額ト支配人カ不注意ニ對シテ債主ヲ擔保スル物件トテ保護センナ爲メニ施行ス可キ安全ノ策ナルノミ故ニ嚴正ニ之ヲ言ヘハ即チ第二十八條第二項ニ記シタル檢査上ノ所爲中ニ入ル可キ者トス又「タウサードデシヤン」氏ハ千八百六十三年ニ於テ右ノ如キ權利ヲ金主ニ與フルヿヲ得可シト云ヘリ蓋シ「タウサードデシヤン」氏ハ支配ノ業ニ付テ責任ノ幾分ヲ取ルト全ク支配ノ業ヲ取リテ其專權ヲ行フ事トヲ區別シタリキ

（第二百八號）　支配人ハ會社存續中ニ退職セシムルヲ得可キ者ナルヤ否ヤト云ハンニ總名前社員支配人トナリテ契約書ニ明文アルニ因ルカ或ハ其唯名前社員タルノ身分ノミニテ默許セラレタル等ニ因リテ會社ノ契約書ニ記シタル各自ノ權ヲ行フ通當ノ場合ニ於テハ固ヨリ之ヲ不可ナリト答ヘサル可ラス蓋シ此場合ニ於テハ支配人其權ヲ行フハ自己ノ爲メト數多ノ金主トノ爲メニハ會社ニ缺ク可カラサル要件中ノ一ナリトス又其商業ヲ爲スハ第一ニ自己ノ爲メニシテ危險一切ヲ自身ニ引受ケ會社ノ爲メニスルハ第二段ニアルモノナリ故ニ此支配人ヲ退職セシム可キ正當ナル源因アルト雖モ（民法典第千百五十六條）會社ヲ解散スルニ非サレハ之ヲ免職スルヿヲ得ス即チ社員ノ權ハ右正當ナル源因ニ由リ會社ノ解散ヲ請求スルヲ得ルニ止マルナリ是レ千八百六十七年七月二十四日ノ法律第十一條ニ監察會議ニ支配人ノ免職ヲ發議スルヿヲ許サスシテ只會社ノ解散ヲ發議スルヲ得可

キヿヲ許シ以テ指示シタル所ノモノナルカ如シ

然リト雖モ通常差金會社ニハ固ヨリ稀有ノ事ナル可ケレド會社ノ契約書ニ社員ハ支配人ヲ免職スルノ權アル旨ヲ記載シタル場合ナルカ或ハ會社ノ契約書調製後ノ決定ニテ支配人ヲ選任シタル場合ニ於テハ(民法典第千八百五十六條第二項)會社ヲ解散セスシテ其支配人ヲ免職スルヲ得可キ乎(論)契約書ニ明文ヲ載セタルト否トヲ問ハス右ノ如ク金主ニ支配人ヲ免職スルノ權アル契約ハ有効トセン乎無効トセン乎余ヲ以テスレハ其無効タル固ヨリ明カナルカ如ク即チ第二十七條ニ禁シタル規則ニ違背スル者ノ如シ何トナレハ則チ其契約タル法律ノ精神ニ久シ差金會社ノ本性ニ戻リ全ク支配人ヲシテ金主ニ附屬セシムル者タルヲ以テナリ今其故ヲ説明セハ若シ金主ニ支配人ヲ免職スルノ權アル可シトセハ支配人ハ金主ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ會社ノ事務ヲ支配スル能ハサル可ク而シテ民法典第千八百五十六條ニ記シタル規則ハ免職ノ權ト支配人ノ所爲ヲ始終檢査スルノ權トハ必ス併行ス可キ者ナリト了解セシムルナル可シ尤モ右第二ノ論題ニ付テハ余カ説ニ反スル裁判例規數多アリト雖トモ其決定ハ原則ハ暫ラク措キ事實ノ異ナル(下文ヲ參觀ス可シ)株式差金會社ハ付テ之ヲ爲シタルナリ又實際ニ就ヒテ之ヲ觀ルニ余カ説ハ甚シキ難事ヲ生ス可ラサルモノヽ如シ如何トナレハ若シ支配人ヲシテ社員ニ對シ責任ヲ負ハシメント欲セシナラハ會社ヲ結フニ付前文ニ説明シタル如ク主意ノ全ク異ナル利益差金會社ノ方法ヲ取ラサル可キナリ

第二款　債主訴訟ヲ起スノ權

(第二百九號)　會社ノ債主ハ社員一身上ノ総債主ニ先ンシ第一ニ會社ノ資本ヨリ義務ヲ得ント要ムルヿヲ得ヘク次ニ名前社員ニ對シ連帶

シテ其財産ヲ以テ之ヲ行ハンコトヲ要ムルヲ得可キヿ猶ホ合名會社ニ於ケルカ如クナル可シ(第二十四條)故ニ此事ニ付テハ宜シク合名會社ノ部ニ説明シタル所ヲ參考スヘシ

然リト雖ヒ其金主ニ對シ訴訟ヲ爲スノ權ハ如何須テク金主支配上ノ所爲ニ干渉セサリシ場合ト其之ニ干渉シタル場合トヲ分ツヘシ

第一　金主社務ニ干渉セサリシ場合

(第二百十號)　若シ金主其差加フ可キ金高ヲ差加ヘタルトキハ之ニ對シテ毫モ要求スル所アルヿヲ得ス(第二十六條)

若シ其未タ之ヲ差加ヘサリシカ或ハ會社ヨリ之レニ金高ヲ返還セシキハ(金高ヲ返還スルハ爲ス可ラサルノ事タリ)會社ハ其金主ヲシテ之ヲ差出サシムルヲ得ヘク而シテ會社ノ債主ハ其負債主タル會社ノ名ヲ以テ此權ヲ行フヿヲ得可シ(民法第千百六十六條)

然レ𪜈會社ノ債主ハ此事ニ付キ金主ニ對シテ直接ニ訴權ヲ有スルヿ無キ乎此問題ハ數多ノ利益アリ

第一　判斷人ノ裁判(商法典第五十一條及ヒ其以下)ヲ廢シタル千八百五十六年ノ法律以前ニ在テハ斜迂ノ訴權ハ社員間ノ訴權ヲ行フノ權ニシテ即チ判斷人ノ管轄内ノモノタル可シ而シテ直接訴權ハ裁判所ニテ管轄スルモノナリキ

第二　債主ハ民法典第千百六十六條ニ記載シタル條件中ニ在ルニ非サレハ斜迂ノ訴權ヲ行フヿヲ得ス而シテ其條件トハ一説ニ據レハ債主裁判所ヨリ會社ノ訴權ニ代ル可キノ言渡ヲ受ケタル後ナリト云ヒ又他ノ一説ニ據レハ債主少ク𪜈其利益ヲ証明シタル後乃チ會社ノ財産ヲ檢査シテ其無資力ナルヿヲ證明シタル後ナリト云ヘリ然ルニ若シ債主直接ノ訴權ヲ有スルトキハ之ヲ行フヿ尤モ容易ナルカ故ニ會社

ノ財産ヲ檢査スルヿヲ單ニ之ヲ行フヿヲ得ヘシ殊ニ此財産檢査ノ金主ニ對スル訴訟ヨリ難事タルトキハ單ニ之ヲ行フヿヲ得ヘシ

第三　論者屢々言ヘルヿアリ曰ク斜迂ノ訴權ニ付テハ債主ハ金主カ會社ニ對シテ故障ヲ述ブ可キ資タル例外アルヿノ恐レアリト雖モ直接ノ訴權ニ付テハ之アルノ恐レ無カル可シト然レモ此說タル數多ノ制限無キ能ハサルモノナリ若シ金主全ク支配人ニ約定ノ差加高ヲ拂ヒ(而シテ之ヲ取戻サズ)シ時ハ金主ハ毫モ負擔スル所無ク而シテ會社ノ債主モ亦毫モ之レニ請求スル所アル可ラサルハ明カナリ又支配人ハ債主ニ對シテモ有効ナル可キ領受証ヲ金主ニ與フル爲メニ完全ナル分限ヲ有スルモノナリ蓋シ會社ニ對シテ故障ヲ述フ可キ金主ノ有セル諸証書ハ直接ノ訴權ヲ行フ債主ニ對シテモ金主ヨリ提出シ故障ヲ述フルノ資トナルモノナリ又凡ソ金主其義務ヲ免ルヽノ方法ハ皆全ク之ヲ行ヒタルト同一ニ看做ス可キモノナリ例ヘハ商業手形ヲ會社ニ差出シ或ハ商品ヲ供給シタル如キ金主ノ爲メニハ債主權ヲ生ス可ク而シテ其債主權ハ其負債ト相殺ス可キナリ今又金主其差加フ可キ金額ヲ差加フルヿヲ全ク無償ニテ免除セラレタリト仮想センニ皮想ノ見ヲ以テスレハ金主ハ此釋放ニ因リ會社ニ對シテ申立ツ可キ例外ノ利益ヲ得テ而シテ此例外ハ直接ノ訴權ヲ行フ債主ニ對シテハ申立ツヿヲ得可ラサルモノナルカ如ヿ然レトモ會社ノ名ヲ以テ爲シタル此種ノ釋放ハ不適法ナルヲ以テ法律上無効ナルヿハ下文(第三百八十一號)ニ見ル所ナリ而シテ或ル場合ニ於テハ純乎タル人ニ關スル例外ノ名義ニテ其例外ヲ承諾セシ支配人ニ對シテ該釋放ノ事ヲ申立ツルヿヲ得可キヿアルモ他ノ名代人ニテ會社ヲ表スルトキハ會社ニ對シテハ之ヲ申立ツルヿヲ得可ラサルナリ會社ノ他ノ名代人トハ決算人

ノ如キ是レナリ故ニ此例外ハ會社ノ代人トナリ民法典第千百六十六條ノ斜迂ノ訴權ヲ行フ債主ニ對シテモ亦申立ツ可ラサルモノトス是ニ因テ之ヲ觀レハ直接ノ訴權ヲ行フ場合ニ申立ツヿヲ得可キ例外ニシテ斜迂ノ訴權ヲ行フ場合ニハ申立ツ可カラサルモノヲ發見スルハ甚タ難シトス余ハ以爲ラク此類ノ場合ハ支配人ノ詭欺ニ因リ金主ヲシテ會社ニ入ラシメタル場合ナリト蓋シ支配人詭欺ヲナシタルトキハ會社ハ其責ニ任ス可シ(民法典第千三百八十四條下文第二百八十號)而シテ金主ノ義務ヲ申立ツルヿヲ得可ラサルナリ然レ𪜈詭欺ハ人ニ付テノミ義務ニ瑕瑾アラシムルモノナレハ會社ノ債主ハ直接ノ訴權ニ因リテ其義務ヲ申立ツルヿヲ得可シ故ニ債主ハ會社ニ付テ訴權ヲ行ハントスルトキハ訴フ可ラサルノ場合ニ於テ金主ニ對シ訴訟ヲ起スヿヲ得可シ公告ノ手續ヲ欠キタルカ爲メ會社ノ無効ヲ言渡シタル場合ニ於テモ亦同一ナリ蓋シ會社ノ無効ナル事ハ社員間ニテハ之レヲ申立ツヿヲ得可キモ社員ヨリ社外ノ者ニ對シテハ申立ツヿヲ得可ラサレハナリ(千八百六十七年七月二十四日ノ法律第五十六條第三項)(論)會社ノ債主ハ金主ニ對シ直接訴權ヲ有スル乎

第一說　然ラス會社ノ債主ハ會社ト契約ヲ結ビシノミ金主ト之ヲ結ビタルニハ非ス是レ即チ舊法ニテ決定セシ所ニ非ラスヤ又商法典第四十三條并ニ千八百六十七年ノ法律第五十七條ニハ金主ノ名前ヲ公告スヘキ旨ヲ記載セサルナリ故ニ社外ノ者ハ之ヲ知ルニ利益ナキ者ナルヘシ然ラハ則チ社外ノ者ハ金主ニ對シ訴權ナキモノトス

第二說　然リ(可)金主モ亦會社タルヘク支配人ハ唯其名代人ナルノミ故ニ其名代人タル者ハ直接ニ金主ヲシテ社外ノ者ニ對シ義務ヲ擔當セシムルヿ得可シ或ハ云ハン第二十七條ニ隨ヘハ金主ハ決シテ會社

ノ事務ヲ支配ス可ラサルヲ以テ其事務ヲ取ルヘキ名代權ヲ與フルヲ得サルナリ然ラハ則チ支配人ハ社外ノ者ニ對シテ金主ノ名代ハタル者ニハ非サルナリト余曰ク然ラス金主自ラ會社ノ事務ヲ支配スヘカラサル者ハ其之ニ干渉スルハ危險ヲ生スルカ故ナリ其危險ヲ生スルヲ以テ金主ニテ自ラ事務ヲ支配スルヲ得スト雖モ其名代人タル者ハ正サニ責任ヲ受ク可キ支配人ナルキハ金主ハ即チ其名代人ニ由テ其事務ヲ支配スルモノナリト云フモ何ソ不可ナラン故ニ之レニ反對ノ說ヲ主張スル者ハ全ク第二十七條ノ眼目ナル處ヲ見失ヒシナリ

又舊法ニ於テハ差金會社ノ名前社員ハ己レノ名前ノミヲ以テ契約ヲ結ヒ別ニ其社員ノ外ニ金主ナル者アルヿヲ社外ノ者ニ知ラシムヘキ會社ノ名前ナル者ナカリシト雖モ今日ニ至テハ之ニ反シ社外ノ者ハ支配人ハ會社ノ名代人ナルヿヲ確知シ社員ニ就ヒテ義務ヲ得可シト思惟スルナリ故ニ舊法ヲ玆ニ引援シ以テ決定ヲナスヘキノ理ハ毫モ之レナシ

彼ノ商法典第四十三條及ヒ千八百六十七年ノ法律第五十七條ニ於テ金主ヨリ差加フヘキ金額ヲ公告スヘキヿヲ必要トシタル者ハ即チ是レ金主社外ノ者ニ對シテ爲シタル所ノ約束トスヘキモノナリ又千八百六十七年ノ法律第三條ニ於テ金主ヨリ差加フヘキ金額其半數ヲ拂ハザル間ハ其株式ニハ(株式ノ差金會社ニ於テ)本人ノ姓名ヲ記載シ之ヲ記名拂ノモノトナシ置ク可キヿヲ必要トシタル者是レ其主旨タル一ニ會社ノ債主ナシテ右殘金ノ支拂ヲ要求スヘキノ權ヲ保有セシムルニ在ルナリ故ニ曰ク會社ノ債主ハ金主ニ對シ直接ナル對人權ヲ有スヘシト

第三說アリ此說ハ數個ノ判決ニテ許シタルモノナリ其判決ニ據ルニ

會社解散前後ノ時ヲ分チ會社解散後ニ於テハ債主ハ金主ニ對シ直接ノ訴權ヲ有スベシト云ヘリ以爲ラク會社解散ノ前ニ在テハ債主ノ訴權ニ慮當スヘキ支配人ナル或ル人アルヲ以テ債主ハ金主ニ對シ訴權アルヲ要セスト余曰ク然ラハ會社解散前ト雖モ債主ニ於テ之ニ對シ直接ノ權アルハ其利益アル所ナリ其利益アル可キハ上文ニ論シタルカ如シ故ニ金主ニ對スヘキ直接ノ訴權ヲ債主ニ與フルヿトセハ會社解散ノ前ヨリ之ヲ與ヘサル可ラス

金主債主ヨリ直接ノ訴訟ヲ受クルトキハ其差加フヘキ金額迭ト雖モ一同連帶シテ義務ヲ擔當スルニ及ハス蓋シ法律上右ノ如ク連帶スヘキヿヲ記載シタル者無ケレハナリ是ヲ以テ金主ハ各自差加フヘキ金額ノ割合ニテ義務ヲ行フヘキ旨ノ言渡ヲ受クヘノミ

（第二百十一號）（論）右ノ訴權ハ商業上ノモノタルヘキ乎

上文ニ金主ナル者ハ商人ニ非ラスト云ヘリ今右ノ訴權ヲ以テ商業上ノモノナリトスルモ（若シ之ヲ商業上ノモノナリトセシトキハ）之カ爲メニ金主ハ商人トナル可キモノニ非ラス依然商人ニ非サル地位ヲ保チ只商賣ノ一業ヲ爲シタルニ過キサルノミ故ニ破産ノ處分ヲ受クルヿ無ク商業簿冊ヲ設ケ置クノ義務ナク尤モ名前社員モ他ニ一身上ノ務ノ爲メニ商業簿冊ヲ設置スルノ義務ナク業ヲナサヽルトキハ一身ノ事商務無キヿハ上文ニ述ヘシ所ナリ婚姻ノ契約書ヲ公告スルヿナシ然レトモ此訴訟ニ付テハ商事裁判所ノ管轄タラサルヲ得ス昔日ハ禁錮ノ言渡モ受ケタリ

余ハ此訴訟ヲ以テ商事ナリトスヘシ如何トナレハ初メ會社設立ノ際金主ノ取結ヒタル差金ス可キ旨ノ契約ハ附從ノ理ニ因リテ商賣ノ業ト爲ス可キモノニシテ且金主ハ其所業ニ因リ其差加フキ金額ニ至ル迄ハ社外ノ者ニ對シテモ會社ノ或ル商業上ノ義務ヲ擔當スヘキ旨ヲ

約束シタルナリ而シテ其契約ハ即チ會社設立ノ元素中ノ一ニシテ此會社ノ商業上ノ命脈ニ於テ第一ノ所爲トナスヘシ

又管轄上ノ事ニ係リテ特ニ引據スヘキ者アリ第六百三十一條第二項是レナリ此規則ニ據レハ凡ソ會社中各人ノ間ニ起ル爭論ハ商事裁判所ニ訴フヘキ旨ヲ記載シタルニ因リ其同一ナル社員ニ對セル社外ノ者ノ訴訟ヲ以テ商事ナラストスルハ奇怪ナル事タリ蓋シ此ケ條ニ於テハ會社ノ契約ヲ承諾シタルヿハ商賣ノ業ナルヲ確認セリ

(第二百十二號) (論)金主既ニ差加フ可キ金額ヲ供出シ昌盛ノ年配當金得タルニ後ニ及ンテ會社損失ヲ被ムリシトキハ之ヲノ以前受取リシ配當金ヲ返還セシム可キヤ乎

第一說 然リ凡ソ商事會社ニ在テハ事業ノ結局ニ至ラサレハ眞ノ利益ナル者ハ無シト今此會社ニ於テ損失ヲ爲シタルトキハ往日金主ノ請取リシ者ハ利益ニ非スシテ債主ノ抵當物タルヘキ會社ノ資本ノ一部分ナル可ク金主ノ差加ヘタル金額ノ一部分ニシテ其返還ヲ受ケタル者ナル可シ故ニ宜シク之ヲ本ニ復スヘキナリ會社解散迄ハ金主ハ仮リニ配當金ヲ受クルヿアルノミト

第二說 然ラス(可)商業上ノ慣習ニ於テハ年々ノ決算表ニテ規則ニ從フテ得タル所ノ利益アルトキハ其後損失ヲ受クルヿアリト雖ヒ其利益ヲ以テ純益ト看做スモノナリ故ニ金主一旦配當金ヲ受クルトキハ歳入トシテ之ヲ受クヘク其資本ノ一部ヲ返付セテレクル者トシテ受クルニ非サルヲ以テ復タ之ヲ會社ニ返還スルヲ要セサルモノトス若シ夫レ既ニ善意ニシテ之ヲ費消シ而ノ突然其返還ヲ請ハルヽトキハ其害ヲ蒙ムルヤ鮮少ニ非ラス蓋シ右金主ト不動産ノ果實ヲ收納シタル善意ノ所持人トハ大ヒニ類似スル者アルナリ(民法典第五百四十九條)

又第二十六條ニ於テハ金主ハ其入社金額ニ至ル迄ノ損失ノミヲ負擔スヘキ明文ヲ掲ケ殊ニ法案討議ノ際〔ヘランシユー〕氏カ其規則ニ從フテ收入セシ配當金ヲ返還スルノ義務ノ一ヲ記入セント主張シタリシカドモ之ヲ拒ミタルヲ以テ配當金ノ返還ヲ要セサルノ証ヤ益々明ラカナリ

又債主ニ在テモ迷惑トナルヿナシ蓋シ配當金分派ノ後契約ヲ爲シタル債主ハ其契約ヲ結ブノ際古配當金ハ既ニ會社ノ金庫ヨリ出シタルヲ以テ決シテ之ヲ心當ニス可キ筈ナシ又配當金分派前ノ債主ハ會社ニテ其定欵ト慣習トニ從フ財産ヲ移轉スルヿヲ傍觀シタレハ詐僞ヲ以テ債主ノ權ヲ害スルニ非サルヲ知ル可シ(民法典第千百六十七條)故ニ之ヲ識認セスト云フカ或ハ之カ取消ヲ要求スルヿヲ得サルヘシ右ノ論題タル千八百六十七年七月二十四日ノ法律布告以降ハ復タ疑フ可キ者無キカ如シ何トナレハ則チ此法律ニ於テハ株式ノ差金會社ニ在テ株式規則ニ從フテ得タル所ノ配當金ヲ返還スルヲ許サヽルヲ以テ(第十條)利益ノ差金會社ニ於テモ亦同一ナル可ケレハナリ

(第二百十三號) 又千八百六十七年ノ法律ハ尚ホ一歩ヲ進ミ會社ニ損失アリシニ支配人計算表ヲ僞リ利得アリシ如ク見セタルヿアリテ金主善意ニテ配當金ヲ收入シタルトキハ無實配當金ト雖モ金主ニ於テ之ヲ返附スルニ及ハサルヿヲ許セリ此規則タル蓋シ亦甚シキ者ト謂フヘク余ヲ以テスレハ其新法布告以前ニ在テハ株式差金會社ニ付テモ固ヨリ許ルス可ラサルナリ或ハ云ハン新法布告後ニ於テハ此規則ハ通常差金會社ニ移スヲ要ス何トナレハ法律討議ノ際該規則ヲ確定セシカ爲メ廣汎ナル理由ヲ引援シタレハナリ其現由ハ即金主ノ善意ナル事ト反對ノ規則ニ於テ金主ノ受ク可キ損害是ナリ加之第十條第五

項ニ於テ法律ノ條款ニ既往ニ及フノ効ヲ與ヘタルヲ見レハ其條款ハ卽チ全ク從前ノ規則ヲ解釋シタル者ナリトスヘキ者ニ似タリ(下文第二百九十四號ヲ參考ス可シ)之ニ由リテ是ヲ觀レハ法律ヲ以テ從來ノ法律ヲ解釋シタルナレハ須ラク之ニ從ハサル可ラスト

然リト雖モ余ヲ以テ之ヲ觀ルニ此說タル詐ルス可カラサルモノナルカ如シ若シ千八百六十七年ノ立法者ヲシテ通常差金會社ノ規則ヲ設ケシメタルニハ株式差金會社ト同一ノ規則ヲ設ケタル可キハ甚タ信ス可キヿナリトス然ルニ通常差金會社ノ規則ヲ設ケタルニ非ザレハ其株式差金會社ノミノ爲メニ設ケタル規則ハ立法者ヲ連繫ス可キ解釋法律ナリトシテ引援スルヲ得可キモノニ非ス故ニ千八百六十七年ノ法律以前ニ穩當ナリシ規則ハ宜シク之ヲ維持セザル可ラス

且夫レ二種ノ差金會社ハ全ク類似スル者ナルニ非ス千八百六十七年ノ立法者ハ特ニ株式差金會社ノ金主ヲ保護シタルナリ何トナレハ其金主ノ數著大ナルニ因リ支配人ノ所業ヲ檢査スルヲ其各人ニ放任ス可ラサルカ故ニ亦其所業ノ意外ノ結果ニ對シテハ之ヲ保護セサル可ラス加之此ノ如キ專由アルヲ以テ其金主ハ最モ屢々善意ナルヿアル可シ之ニ反シテ通常差金會社ノ金主ハ財產目錄及ヒ商業簿冊ヲ檢査スルハ甚タ容易ナル可キカ故ニ若シ其無實配當金ヲ受クルヿアレハ其惡意ナルカ或ハ懈怠ナリシニ非サリシヿト想像スルハ甚タ難シ

若シ金主無實配當金分派ノ時惡意ナリシコトノ確証アリシトキハ債主ヨリ其配當金ハ會社ノ資本ヨリ引去リタルモノナリトシテ之ヲ請求スルノ權アルヿハ異論ナキ所ナリ而シテ其請求ハ會社結算ノ後ニ爲スヘキ終局ノ決算ヲ待ツヿナク直チニ之ヲ爲スヿヲ得ヘシ

(第二百十四號) 若シ又金主其差加ヘタル金額ノ利足トシテ若干ノ金

高ヲ収入セシトキモ右ノ規則ハ變スヘカラサル乎此論題タル株式ノ差金會社ニ關シ實際數々紛起シタル所ナルヲ以株式差金會社ニ付テ之ヲ詳論ス可ク今唯之ヲ然ラスト答フルニ止マルベシ然レトモ茲ニ一事ノ言ノ可キ者アリ曰ク社員タル者ハ決シテ通常ノ貸主ノ如ク其元金ノ利息ヲ受クヘキ眞正ノ權利アル者ニ非ス(上文第二百號ヲ參觀スヘシ)蓋シ社員ハ會社ニ利益アリシトキ其利益ノ一部分ヲ毎歲受クヘキ權利アルノミ而ノ其利益ナキトキハ毫モ受クヘキノ權ナシ是レ即チ諸會社ノ本性ニシテ其利益中ニ於テハ會社ニ差出シタル資本ノ利息ト眞正ノ利益トヲ區別スルヿヲ得ヘシト雖トモ是レ決シテ社外ノ者ニ其効ヲ及ホスヘキモノニアラス

第二　金主社務ニ干渉シタル場合

(第二百十五號)　若シ金主會社ノ事務ニ干渉シタルトキハ金主ノ身分タル利益ヲ失ヒ連帶シテ義務ノ全部ヲ負擔ス可キノ訴訟ヲ受ク可シ

然リト雖トモ其負フ所ノ義務トハ如何ナル者ヲ謂フ乎千八百六十三年以前ニ在テハ舊第二十八條ニ從ヒ區別ヲ立スシテ總ヘテ會社ノ負債ナリト云ハンノミ即チ金主カ關係セス又他人モ其金主ヲ信用シテ取結ヒタルニ非サル事件ヨリ生スル負債ヲモ擔當セサル可カラス當時以爲ラク唯一ノ支配上ノ所爲ト雖トモ其當ヲ得サリシ時ハ總債主ノ抵當物ヲ妨害スルニ至ル可シト然リト雖トモ實際ニテハ其所爲必ラスシモ不都合ノ結果ヲ生セサルヿアル可キニ因リ若シ果シテ不都合ナカリセハ法律ハ甚タ苛酷ニ過キタリキ是ヲ以テ自然資本ヲ供出スル者ヲ減少スルノ弊ヲ生シタルカ故ニ千八百六十三年ニ於テハ之レカ區別ヲ設クルニ至レリ即チ

第二十八條第一項(千八百六十三年五月六日左ノ如ク改ム)　若シ金

主前條ノ禁ヲ犯スコトアルトキハ其支配ノ所爲ニ因リ會社ノ爲メニ生シタル負債及ヒ義務ヲ合名社中ノ者ト連帶シテ擔當スヘシ又其金主ハ其支配シタル所爲ノ多少ト輕重トニ准シテ會社ノ義務ノ全部又ハ一部ノミヲ合名社中ノ者ト連帶シテ擔當スヘキ言渡ヲ受クルコトアルヘシ

故ニ金主ハ其關與シタル所爲ヨリ直接ニ生スル事件ニ付テハ合名社員ト連帶シテ無限ノ責任ヲ受ケサルヘカラス又自余ノ會社ノ負債ニ付テハ時宜ニ因テ責任ヲ受クヘク而ノ其會社ノ債主ノ抵當物ヲ害シタル輕重大少ハ裁判所ニテ之ヲ判定スベシ

(論)右ノ場合ニ於テハ金主ヲ商人ナリト言渡シ之ニ破産ヲ命スルヲ得ヘキ乎

蓋シ千八百六十三年前ニ在テハ如何ナル場合ニ付テモ同一ノ答ヲナサヽル可ラス而シテ余ハ之ヲ然リト云フヘキヲ信スルナリ千八百六十三年ノ法律布告以降ハ唯商法典第一條ニ準據シ其場合ヲ別タサルヘカラス

若シ金主二三ノ事務ヲ爲スニ止マリシ時ハ其慣習ニ非ラサルヲ以テ之ヲ商人ナリトスルヲ得ス

若シ其爲シタル事務ノ數ニ因リ會社ノ總義務ヲ負擔スヘキノ言渡ヲ受ケタルトキハ其事務ヲナスノ慣習アリシヲ以テ之ヲ商人ナリトスヘシ

會社ノ義務ヲ負擔スヘキノ言渡ヲ受ケタリト雖トモ其言渡ハ事務ノ重大ナルノミニ因リシトキハ社外ノ者ノ利益ヲ保護スル爲メニ金主ヲシテ商法ノ嚴格ナル規則ニ從ハシム可キヤ否ヤハ裁判所ニテ事實上之ヲ判定スヘシ

（第二百十六號）千八百六十三年ノ法律第二十八條ハ名代ノ明任ナルト默任ナルトヲ問ハス金主其同社員ノ承諾ヲ得テ事務ヲナシタル場合ヲ規定スルモノナリ何トナレハ會社ノ義務アル場合ヲ規定シタルモノナレハナリ而シテ此場合ニ於テハ會社ハ固ヨリ社外ノ者ノ如ク金主ニ其差加ヘ高ノ外ニ尙ホ金高ヲ出サシメント訴フルヿヲ得サルハ明カナリ

之ニ反シテ若シ金主其差加高ヨリ多ク社外ノ者ニ拂ヒシトキハ會社ニ對シテ其返償ヲ請求スルコトヲ得可シ金主其名代權ヲ行フトキニ爲シタル過失ニ限リ會社等支配人ノ如ク該金主ニ責ヲ負ハシムルヿヲ得可キノミ（民法典第千九百九十二條）

以上開述セシ所ノ規則中一モ金主名代ヲ受ケスシテ社務ニ干渉シ而シテ社外ノモノ名代契約若クハ事務管理ノ有無ヲ信スルニ至當ナルコト無キ場合ニ適用スヘキモノ無シ金主名代ヲ受ケス社外ノモノ其名代若シクハ事務管理ノ有無ヲ信スルニ至當ナルコト無クシテ會社ノ事務ヲナセシトキハ會社ハ社外ノモノニ對シテ決シテ義務ヲ負フコト無ク金主一身ニテ無限ノ責任ヲ負フコト猶ホ諸人ノ此ノ如キ場合ニ於ケルカ如クナルベシ而シテ若シ會社之レカ爲メニ損害ヲ蒙ムリシトキハ民法典第千三百八十二條ニ據リ金主ニ對シテ償金ヲ請求スルヿヲ得ベシ

第三章　一般票式會社ノ事

（第二百十七號）今茲ニ論述セントスル所ノ株式會社及ヒ合名會社ト云ヘル會社ハ同一ナル性質ナリテ總ヘテ株式ト云ヘル者ヲ以テ之ヲ設立スルナリ今其性質ノ義解ヲ擧クルハ二種ノ差金會社ヲ區別スル爲メナルニ過ギズト雖モ先ツ右ノ性質ノ義解ヲ擧ケ而ル後其諸結果

ヲ述ベ且下文ニ尙ホ説明スヘキ二個ノ會社ニ通シ用ユヘキ諸規則ヲ指示スルハ蓋シ允當ニシテ且了解シ易カルヘキカ如シ

此章ヲ別テ三節ト爲ス

第一節　株式會社ノ義解

第二節　株式ニ於ケル資本編成法

第三節　株式會社ニ通シ用ユヘキ諸規則

第一節　株式會社ノ義解

(第二百十八號)　前文説述セシ所ノ會社ハ利益會社ト云ヘル者ニシテ今説明セントスル所ノ會社ハ株式會社ト云ヘル者ナリ

何ノ爲メニ斯ル區別ヲ爲スヤ蓋シ利益ト株式トニ至當ナル義解ヲ下ダスニ付テハ種々ノ論説アリト雖モ今日ニ於テハ利益會社ト株式會社トヲ區別スヘキ一般性質ナル者ハ概ネ論者ノ同意スル所ナリ今乃チ先ツ此性質ヲ説カントス蓋シ此性質タル目今法學上ニ得タルモノナリト看做スヘキモノナリテ

論者カ同意シテ確認スル所ノ區別トハ即チ人資會社按社員ノ信用ヲ以テ設立スル者ト資本會社トノ區別ト同一ナルモノナリ抑モ利益會社ハ人資會社ニシテ株式會社ハ資本會社ナリ人資會社ハ社員ヨリ、能力、名聲、助力作業、信用、資産等ヲ會社ニ供スルカ或ハ利益差金會社ノ名前社員ノ如ク其名聲、能力、互相ノ交通容易ナルヿヲ慮リ人ヨリ選任ヲ受ケ及ヒ此等ノ事情ヲ量リ同社員ヲ選定シタル所ノ會社ヲ謂フ即チ社員互ヒノ特選シタルモノナレハ左ノ結果ヲ生スヘシ

第一　人ニ就ヒテ錯誤アリシトキハ契約ヲ取消スヿヲ得ヘシ(是レ佛國法律ニ於テ例外タル所ナリ)(民法典第千百十條第二項)

第二　社員ハ同社員ノ承諾ヲ受クルニ非ザレハ他人ヲシテ已レノ

代ラシムルヿヲ得ズ(民法典第千八百六十一條)

第三　會社ハ社員中ノ死亡財産管理ノ禁止破産、分散等社員一身ニ係ル事由ニ因リテ解散ス可シ(民法典第千八百六十五條)是レ佛國法律ニ於テ例外タル所ノモノナリ

資本會社トハ社員ガ一身ノ分限ニ關セズシテ只々其供出シタル資本ノミニ因リテ設立スルモノナリ若シ許多ノ資本ヲ要スル會社ヲ設立セントスルニ互ヒニ識認スル少數ノ人ニテハ之ヲ集合スルヲ得ザルヒハ之ヲ諸人ニ募ラザルヲ得ズ是レ資本會社ノ興ル所以ニシテ其社員ハ其加入高ヲ供スルニ過ギザルノミ故ニ其管理人或ハ支配人ノ所爲ヲ檢査シ監察スルニ付テ有スル權限モ亦甚タ狹少サルモノナリ以上ノ事由ニ因リ左ノ結果ヲ生ス可シ

第一　會社ノ基礎タル契約ハ社員ノ上ニ錯誤アリシガ爲メ決シテ之ヲ取消スヿヲ得ズ(民法典第千百十條)

第二　會社ハ社員ノ一身ニ係ル事由ニ因リテ解散ヲスルモノニ非ズ(死亡、禁止、破産、分散)(民法典第千八百六十五條)

第三　社員自己ノ部分ヲ他人ニ讓渡スコトヲ禁スルヿ無ク(民法典第千八百六十一條)容易ニ之ヲ讓渡スノ方法ヲ設クルコトアル可シ

社員自己ノ部分ヲ容易ニ讓渡スヿヲ得可キノ方法ヲ設クル所以ハ人容易ニ之レヲ得可キヲ方法アルニ於テハ入社ヲ望ム者必ラズ多カル可ク殊ニ社員ノ都合ニ因リ自己ノ部分ヲ賣買シテ容易ニ會社ニ出入スルヲ得可キニ於テハ又世人ハ容易ニ資本ヲ會社ニ差出スモノナルニ由ルナリ彼ノ株式ト利益トヲ區別スルニ株式ノ有スル本性ナル者ハ即チ右第三件ニ在リトス多數ノ論者ハ人資會社即チ利益會社ト資本會社即チ株式會社トヲ此ノ如ク區別ス

ルニ止リ利益ト株式ト概子有スルニ飲ク可ラサルモノニ非ザル二三ノ性質ヲ示セリ然レトモ此二者ヲ確乎ト區別スルヲ得ヘキ性質ヲ定ムルハ爲シ難キコトセリ(ジュウェルジュー法律類聚千八百五十六卷第三百三十一丁千八百五十七卷第百六十六丁(ドマンジャーブラウワー評論第一篇第二百六十丁(ヱミール、チリウリエー千八百六十七年ノ法律討議ニ於テ(ベスレー第六ヨリ第二十九ニ至ル)余輩亦此書ノ第一版ニ於テハ此ク言ヒタリト雖モ今日ニ至テハ斷然確說ヲ爲スハ容易ノ事ニシテ毫モ妨ゲナカル可シト思惟スルナリ余輩ハ既ニ會社ノ利益ナル者ヲ今又社員ノ利益即チ其受分ナル者ヲ再述センニ抑モ此受議解シタリ分トハ社員ノ加入高ノ代齊物ニシテ其義務ノ法律上ノ源因タルモノナリ無形人ニ非サル會社ニ在テハ此受分ハ會社ノ資本ヲ有スル共有權ノ一部分ニシテ會社存續ノ間不可分的ナル義務アルモノナリ(上文第百五十八號)無形人ナル會社即チ商業會社ニ在テハ會社ハ其資本ノ所有主ニシテ而シテ其資本ハ社員ニ對シテハ代換ス可キ物ト看做シタルヲ以テ社員ノ利益ハ會社解散ノ時處分ス可キ其資本ノ一部分ヲ得可キ債主權ナリトス(上文第百六十五號)會社ノ無形人ナルト否サルトヲ問ハス總ヘテ利益ナル者ハ實際下ノ如ク解釋スベシ曰ク每歲純益ノ分配ヲ受ケ且會社解散ノ時其資本ノ分配ヲ受ク可キ未必ノ權ト此ノ事ハ既ニ上文ニ詳述シタルヲ以テ今之ヲ細密ニ說明セザル可シ凡ソ方法ノ簡單ナルト又其變性タル株式ナルトヲ問ハズ會社ニ於テハ必ズ利益ナルモノアリトス無形人ナル會社ニ於テハ利益ハ左ノ性質ヲ有スルモノナリ、

第一　會社不動產ヲ所特スルヰト雖モ動產ナルヿ(民法典第二百五十九條)

第二　尋常資金貸主ノ定額ナル權ニ反シテ不定額ナルヿ

第三　會社存續ノ期限迄ノ爲メニ立定シタルモノニシテ其解散ノ時ニ至ルニ非ザレハ受ク可ラザル事

（第二百十九號）　利益ノ株式トナルニハ如何ナル變改ヲナス乎語ヲ換ヘテ之レヲ言ヘハ（論）利益株式トノ差別ハ如何ト云フナリ

此件ニ付テハ諸說數多アリト雖トモ余輩ハ其中ニ就ヒテ今日保持スルヲ得可キカ如キ重要ナル二個ノ說ノミヲ擧示スルニ止マル可シ但シ思フニ二個ノ說タル皆利益ト株式トノ差別ハ之ヲ讓渡スノ方法多少容易ナルニ在リトナシ全ク擲棄セラレ又擲棄セザル可ラザル二說ヲ擧グベシ蓋シ此說タル利益會社ト株式會社トノ差別ニ付キ概子人ノ可ナリトスル說ニ適合セザルモノナリ（第二百十八）（第一說）利益ハ合名會社中ノ受分ナリ株式ハ無名會社中ノ受分ナリト（デルウヲンクール）民法千八百二十四年刊行第一篇第百四十三丁第五第三百三十八丁デルウヲンクール佛蘭西法第百一第百十八ペルシール商業會社第百三十一丁法律ニ於テ差金會社ヲ株式ニテ設立スルヲ得ルヿナレハ此ハ維持スヘカラサルモノトス（第二說）利益ハ共有權ノ一部分ニシテ株式ハ通常ノ債主權ナリ（參議院ニ於テ民法典第五百二十九條ヲ討議シタルトキ二三ノ議員ノ述ヘタル說共和第七年第三月二十二日ノ、法律第六十九條第二款第六項ヲ適用スルニ付テ登記役所ノ解○反說千八百三十七年二月八日破毀判決ダローズ判決類聚第三十七卷第一部第百四パルドシユー第一篇第四十八丁ベスレー第三十六及ヒ第三十七余輩ハ（上文第百六十五號）ニ於テ眞正ナル點ヲ示シ此說ノ不可ナルヲ述ヘタリ其法律上基ク所ノ者ハ商法典第三十四條ト第三十五條及ヒ第三十六條トヲ對比スルヿ是レナリ蓋シ此等ノ諸條ニ於テ株式ノヿヲ載セタルトキハ必ス直チニ其讓渡ノヿ及ヒ其方法ヲ載セタレハナリ而シテ甲說ニ從ヘハ利益ヲ讓渡スヿヲ得可キハ其利益ハ株式ナリト云ヒ乙說ニハ之ヲ讓渡スヿヲ得可キノミニテハ足ラス其取引スルヲ得可キモノニ非ザレバ之ヲ株式ト謂フ可ラストセリ余輩ハ少シク第二說ヲ修正シ將サニ言ハントス曰ク株式ハ會社ノ定款ニ從ヒ通常取引ス可キ利益ナリト此說ハブーダン氏カ法律駁論雜誌第三十六號第百六十一丁及ヒ其以下ニ掲ケタル論說ヨリ生スルモノナリ余輩此秀逸是レ余輩ガ先ツ前ノ諸說ヲ釋明ナル論ヨリ借リ來ルコト少ナカラス

シ以テ解説セント欲スル所ナリ

如何ナルトキカ是レ證券ハ譲渡スヿヲ得可キモノナリト謂フ乎曰ク民法ニ定メタル方法ノミニ中リテ之ヲ譲渡スヿヲ得可キ時ヲ謂フ然ラハ則チ利益ノ一部分止ダ譲渡スヿヲ得可キトキハ(商業會社ニ於テハ利益ハ債主權ニ過ギザルモノトシテ上文第百六十五號)會社(義務ヲ譲渡サレタル負債主)ニ通知スルカ或ハ公正証書ヲ以テ會社ノ承諾シタル民法典第千六百九十條)(余輩カ知ル所ニ於テハブーダン氏獨リ利益ノ一部分ヲ譲渡スル事ニ民法典第千六百九十條ヲ適用スルヿヲ欲セズ而シテ其論據トスル所ハ利益ハ寧ロ其有權ニシテ債主權ニ非ズトスルニ在リ法律駁論雜誌千八百六十九年刊行第百五十四丁及ヒ其以下)時ニ非ザルバ其譲渡ノコトハ會社及ヒ他人ニ對シテ無効トス

又如何ナルトキカ是レ證券ハ取引スルヲ得可キモノナル乎曰ク商法上ノ簡略ナル方法ヲ以テ之ヲ譲移ス可キトキヲ謂フナリ其方法トハ証券記名ナルトキハ譲移ト云ヘル者命令拂ナルトキハ裏書ト云ヘル者持主拂ナルトキハ引渡ト云ヘル者(第三十五條及ヒ第三十六條下文第二百三十五號及ヒ其以下)是レナリ而シテ總ベテ此場合ニ於テハ義務ヲ譲渡サレタル負債主ニ決シテ通知スルヿ無シ故ニ利益ノ一部分モ若シ此簡略ナル方法ヲ以テ他人ニ譲移スルヲ得ヘキトキハ之ヲ取引ス可キモノナリト謂フ可シ

其レ然リ故ニ利益ハ只譲渡スヿヲ得可キノミニテハ之ヲ株式トスルニ足ラズ蓋シ民法ノ法式ニ從フ可キ譲渡ノ方法ニ於テハ會社ノ承諾或ハ豫メ通知ハ受クルヲ必要トスルガ故ニ株式會社ニ無カル可ラザル頻々容易ニ譲渡スヿヲ得可キヿノ便益ニ副フモノニハ非ス且民法ノ方法ヲ以テ權利ヲ譲渡スヿハ如何ナル會社ニ在テモ之ヲ爲スヲ得可ク株式會社ト最モ懸隔スル民事會社ニ在テモ亦之ヲ爲スヲ得ヘシ

即チ民法典千八百六十一條ノ規則ノ如キ社員一同ノ承諾ヲ得テ常ニ利益ノ一部分ヲ讓渡スヿヲ許ルセリ又假令其承諾ヲ得ザルモ社員已レカ部分ヲ他人ニ讓渡スニ毫モ妨ゲ無シ但其會社ニ對シテ効無キノミ(同條)又會社ノ契約書ニ於テモ社員自已ノ部分ヲ讓渡スヿヲ許ルスヿアル可シ

然ルニ他ノ一方ニ就ヒテ觀察センニ商法典第四十二條及ヒ第四十七條幷ニ千八百六十七年ノ法律第五十七條及ヒ第六十一條ニ於テハ凡ベテ社員ノ第更ヲ公告ス可キヿヲ命セリ是レ社員ハ他人ヲシテ已レニ代ハラシムルヿヲ得ルニ山ルナリ而シテ此規則タル利益會社ノミニ適用スヘキモノナリ何トナレバ則チ株式會社ニ於テハ株主ノ名前ヲ公告スルノ事ナケレバナリ又商法典ニ於テ株式ノヿヲ定メタルトキ直チニ(第三十四條)之ヲ讓渡スヿヲ得可キヿヲ定メタルモ是レ民法ノ方法ヲ以テ讓渡スヿノミヲ載セタルニ非ズ商法ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ載タルナリ(第三十五條及ヒ第三十六條)又共和第七年第三月二十二日ノ法律第六十九條第二款第六項ニ株式及ヒ取引ス可キ其他ノ證券ノ事ヲ規定セリ以テ株式ノ讓渡ヲ許ルシタルノミナラズ其取引ヲモ許ルシタルヲ知ル可シ

是ノ如キヲ以テ株式ハ即チ取引スヘキ利益ナリト謂ハザル可ラス然レトモ余輩ハ之ニ附加シテ言ハントスルナリ其利益ハ會社ノ定款ニ從ヒ通常取引ス可キモノナルヲ要シ又取引ス可キモノナレハ可ナリト故ニ利益ノ株式タルニハ其取引ス可キ事ハ常則ニシテ通法タル可ク而シテ何人ト雖モ會社ノ定款ニ從フテ行フ可キノ權利タラザル可ラス若シ會社或ハ其代理者ノ承諾アルニ非サレハ證券ヲ取引ス可カラザルトキハ實ニ遲緩煩累ヲ致シテ民法ノ讓渡ト同一ナルヿヲ生ズベク

而シテ此方法ハ決シテ株式會社ノ目的ニ應合スルヿ無カルヘシ（ベスレー第四十三及ヒ其以下○反說ロミキエール千八百五十六年ノ法律ニ就ヒテ第三ヨリ第五ニ至ルウワウリスー第七丁商法典第三十五條及ヒ第三十六條ニ株式及ヒ其所有權ハ云々ノ方法ヲ以テ設定スルヲ得可シト云ヒシハ即チ前述ノ、主意ニ出テタルガ如シ蓋シ設定スルト云フ語ハ會社ノ契約書ニテ定メタル規則ニ準據スルモノヽ如シ而シテ諸論者ハ皆商法典第三十五條ハ千八百五十八年ノ法律第三條ニ會社ヲ編成シタル後履行セサル可ラザル或ル要件ヲ履行シタル後ニ非ザレバ株式ヲ持主拂ノ株式トナス可ラズトシタル規則ヲ以テ廢除セラレタルモノナリト認ムルガ故ニ右兩條ヲ前ノ如ク解釋スルハ概チ人ノ可トスル所ナリ（下文第三百四號）

然リト雖モ會社ノ定款ヲ以テ株式ノ取引ヲ常則トナセバ足レリトス然ル上ハ時宜ニ因リテ之ヲ取引スルヿヲ停止スルカ或ハ其取引ノ一方法ヲ停止スルノ別格ナルヿアリト雖モ會社ノ利益ノ株式タルヲ妨ゲサルモノナリ是レ亦余ガ株式ノ義解中ニ用ヒタル通常ナル語ノ義意ナレバ以テ取引ス可キヿヲ以テ株式ノ利益ト區別アリトスル說ノ駁論ニ答フ可キ所ロナリ

論者曰ク千八百六十七年ノ法律第二條及ヒ第二十四條ニ從ヘバ株主ヨリ四分一ノ金高納入ノ前ハ決シテ株式ヲ取引スルヿヲ許サズ蓋シ此禁止法タル如何ナル株式會社ニモ適用ス可キモノナリト余ハ之レニ答ヘテ言ハントス曰ク株式ヲ取引スルヿハ會社ノ有スル所ノ目的ナレバ一時之ニ達スル妨障アリト雖モ其取引ス可キモノタルハ則チ一ナリト又株主ヨリ四分一ノ納金無キ間ハ會社ハ未ダ編成セザルモノニシテ會社ノ目論見アルニ過ギザレハ亦株式ノ目論見アルノミナヽリト謂フ可キナリ即チ株主ハ假定ノ權義ヲ有シテ而シテ其權義タル

株式ナル名稱ヲ附與スルヲ拒ムコトヲ得ベキモノナリト言ハヾ答辨最モ明瞭ナルベシ

論者又云ク千八百六十七年ノ法律第二十六條ニ從ヘバ無名會社ノ支配人ハ株式若干ヲ有シ保証トシテ之ヲ會社ノ庫中ニ藏置セザル可ラス而シテ其株式ハ移轉ス可カラザルモノ(民法上ノ方法ヲ以テシテモ)ニ非ズヤト然レドモ之ガ爲メニ他ノ株式ニハ取引ス可ラザルモノクルコハ非ズ又支配人ヨリ會社ニ預ケタル株式ト雖ドモ元來取引ス可キ性質ヲ有スルモノナレバ若シ支配人其職務ヲ止メテ若干ノ時間ヲ經タル後ハ復タ之ヲ取引スルヿヲ得可シ然ラバ則チ株式ノ取引ス可キヿハ依然常則ニシテ之ヲ取引ス可ラサルヿハ緊要ナラザル一例外ナリトス

又千八百六十七年ノ法律第三條ニ於テハ一定ノ時間株式ヲ持主拂ノ株式トナスヿヲ禁シタルモ之ヲ取引スルヿハ常ニ許ルス所ナルガ故ニ之ヲ以テ余ヲ難スルモ余ハ又同一ノ答辨ヲ爲スベシ又該法律第五十條ニ於テハ變資會社ニ在テハ其代理人株式ノ讓移ヲ抗拒スルヲ得可キヿヲ定欵ニ定ムルヿヲ許セリト雖ドモ是レ決シテ株式讓移ノ爲メニ豫メ會社ノ承諾ヲ得ルヲ要スルトハ同一ナル事件ニ非ス株式ヲ讓移スルヿヲ以テ常則トナシタル上ハ毫モ會社ニ請求スル所アルヲ要セズ而シテ若シ其讓移ヲ禁止セントス欲スルヿアラバ會社ノ權力ヲ以テ明ラカニ之レカ抗拒ヲ爲サヾル可カラズ

駁論中最モ得タリト爲ス可キ者ハ證劵印紙ニ關スル千八百五十年六月五日ノ法律第二十五條ニ基ク者是レナリ蓋シ該法第二十五條ニ於テハ民法典第千六百九十條ニ定メタル要件ヲ履行スルニ非ザレバ他人ニ對シテ讓渡ノ効完全ナル可ラサル株式ノヿヲ記載セリ故ニ論者

ハ云ク是レ以テ取引ス可ラザル株式ノアルヲ知ル可シト之ニ答辨スルハ容易ヲ了タリ蓋シ假稱ノ株式ノ事ヲ此法律ニ定メタルモノハ印稅ニ關シ眞正ナル株式ニ與ヘタル利益ヲ有假稱ノ株式ニ與フルヿヲ肯セザルガ爲メノミ法律ハ之ヲ眞正ナル株式トシテ處置セザルナリ故ニ立法者ノ精神ハ下ニ言フ所ノ如クナルニ似タリ曰ク取引ス可ラザルニ因リ株式ナラザル證券ニ株式ナル名稱ヲ附與シタルトト雖モ法律ハ此株式ニ適用ス可ラズト

或ハ前述ノ主意ニ反セル駁論ヲ以テ余ガ持說ヲ攻擊シテ云ク利益モ亦取引ス可キモノタリ則チ株式ハ取引ス可キモノナリト言フテ利益ト區別スルヲ得ス商法典第九十一條(新)第三項ニ讓移ス可キ利益ノヿヲ載セタルヲ見ルヘシト余ハ此箇條ヲ商法典中ニ挿入シタル千八百六十三年五月二十三日ノ法律ノ說明ヲ引綏シテ之ニ答フ可シ其說明ニ據レバ讓移スヘキ利益ナル語ハ株式會社ノ編成確定セザル前ニ在リテ發起者タル社員ノ受分即チ會社編成前ニ附與セル假定ノ證券ヲ示スモノナリト明言セリ民撰議院ノ答辨者ウユルニエー氏ノ言ニ云ク此有價物ハ株式ノ有スル諸性質ヲ具フルナリ然レ𪜈其之ト異ナル所以ハ株主ノ受ク可キ利益ニ非ザル他ノ利益ヲ表スルモノタルニ在ルナリ株主ノ受ク可キ利益ニ非ザル利益トハ即チ利益ヲ株式トセザル前ニ會社ノ發起人ニテ自ラ受領スル所ノ利益ノ一部分是レナリ(ダローズ判決集第六十三卷第四部第七十七丁)然ラバ則チ該駁論アルモ株式ハ會社ノ定款ニ從フテ通常取引ス可キ利益ナリト云ヘル株式ノ義解ヲ維持スルヲ得可シ

(第二百二十一號) 前ニ述ベシ所ノ者ハ株式ノ基礎タル性質ニシテ缺ク可ラザルモノタリ其他尙ホ二個ノ性質アリ此性質ハ缺ク可ラザルモノニハ非ザレ𪜈株式ノ概ヲ具フル所ニシテ其自有ノモノナリ其概ヲ之ヲ具フルモ又之無キヿアリ是レ余ハ株式ノ義解ヲ此性質ニ基カ

シムル所ノ論者ニ同意スル能ハザル所以ナリ今其二個ノ性質ヲ左ニ擧ケン

（第一）株式ニテ表スル所ノ金額一定セル事

利益ナル者ハ概ヲ會社ノ資本ノ分數ヲ以テ之ヲ表シ四分ノ一二十分ノ一千分ノ一等ノ稱アリト雖モ株式ハ之ニ反シ一定ノ金額ニシテ二百〔フラン〕五百〔フラン〕千〔フラン〕ノ株式ト云フ然レモ會社資本ノ全額ノ分數ヲ以テ表スル分高株式ヲ有スル會社アリ此分高株式ノ事タル千八百五十年六月五日第十四條ヲ以テ法律上認メラレタルモノナリ（例ヘバ〔ロワール〕ノ鑛山〔アンザン〕ノ鑛山ノ如シ）

（第二）資本ノ分ヲ高平等ナル事

資本ノ分ヲ高平等ナリトハ各株式ノ表スル會社資本ノ分數即チ金高同一ナルヿヲ云フ故ニ株式ニ五百〔フランク〕ノモノアリ又千〔フランク〕ノモノアリ或ハ千分ノ一ノモノモアル可ク二千分一ノモノモアル可シ此高ノ平等ナルニ就ヒテハ四個ノ利益アリトス即チ左ノ如シ

一、額面ノ一定シテ分明ナル價格ノ株式ハ商人集會所ニテ容易ニ賣拂フヿヲ得

一、株式ノ直段附ヲスルニ容易ナルヿ

一、配當金ハ計算上ノ錯雜ナクシテ容易ニ之ヲ拂フヿヲ得

一、株主ノ會議ニ於テ投票ノ數ヲ算フルニ容易ナルヿ

株式ノ額面平等ナルヿハ之ヲ分ツ可ラザラシム故ニ其所有主ノ數多ノ相續人ハ其儘ニテ之ヲ分ツヿヲ得ズ各分ヲ高ハ必ス損スルヿ無キヲ要ス然ラサレバ以上四個ノ利益ハ當サニ消滅スヘシ然レモ株式ノ額面又平等ナラザルヿ無キニ非ズ彼ノ分高株式ノ如キ其表スル所ノ分數ハ同一ノ會社ノ社主ニ在リテ平等ナラザルヿアリテ甲ノ社主ハ

資本金千分ノ一ノ株式ヲ有シ乙ノ株主ハ同二千分一ノ株式ヲ有スルヿアル可シ

（第二百二十二號）株式會社ノ利益アルヿ

株式會社ハ資本會社ニシテ人ノ身分ニ關スル人資會社ニ非ラサルヲ以テ社員ノ死亡、破産、治産ノ禁ヲ受クル等（民法典第千八百六十五條）社員ノ一身ニ關スルヿニ因リテ解散ス可キ者ニ非ス故ニ此會社ハ長久ナル期限ノ事業ヲ爲スヿヲ得可シ

又此會社ハ微小ノ金高ナル株式ヲ許多集合シ以テ巨額ノ資本ヲ招致スルヲ得可シ何トナレハ則チ社員中互ヒニ相識ルヲ要セザルガ故ニ社員ノ數ヲシテ許多ナラシムルヲ得可ケレハナリ

又此會社ノ株主ハ其都合ニ因リ金額要用ナル時ハ其株式ヲ賣却シ金額ヲ取戻シ容易ニ退社スルヿヲ得ヘキカ故ニ其存續期限中資本ヲ差出シ置ク可キ株主ヨリモ此會社ニハ容易ニ資本ヲ供出スル者アル可シ又該株主ハ事業ノ終リ迄危險ヲ履ミ得ル所失フ所ヲ償フニ足ラサル如キヿアル無ク會社昌盛ノ時ニ於テ其株式ヲ賣却シ以テ確乎タル純益ヲ得ルヿアル可シ

總社員ノ株主タル無名會社ニ於テハ十分右等ノ利益ヲ有シ而シテ株式ノ差金會社ニ於テモ株式ノ形ヲ具フル權利ヲ有スル金主ニ在テハ亦此ノ如キ利益アルモノトス而ノ名前社員若クハ支配人ニ付テハ其事無シ蓋シ名前社員若クハ支配人タル者ハ通常差金會社ニ於ケルガ如ク連帶シテ諸般ノ義務ヲ一身ニ負擔シ自己ノ名前ヲ以テ結社スルヲ元則ト爲ス者ナレバナリ

然リト雖モ株式ノ差金會社ニ於テモ名前社員ノ連帶シテ無限ノ責任ヲ負擔スルヿアルニ因リ會社ノ資本巨額ニ過キサル以上ハ大ナル信

用アルガ爲メニ利益無キニ非ラス故ニ大ナラス小ナラス中等ノ事業ニシテ互ヒニ相識ル可キ少人數ノ社員ニテハ力ニ堪ヘ難キモ支配人連帶シテ其家財ヲ擧ケテ義務ヲ擔當スルニハ巨大ニ過ギザル資本ヲ要スル如キ者ヲ興起セントスルトキハ此會社ヲ設立スルヲ適當ト爲スヘシ蓋シ此會社ニ於テハ差加金高ハ僅ニ附屬物ニシテ社主ノ財産及ヒ能力ヲ補助スル者タルニ過キサルヘク而ノ支配人一身ノ身分ニ就ヒテハ才智、能力、工作思慮繼續事務速成等ハ是レ大ヒニ冀望セザル可ラザルナリ

之ニ反シテ事業廣大ニシテ社中ノ者一名ノ財産巨額タルモ必要ナル無數ノ資本ニ比スレハ實ニ僅少ニシテ且會社ノ事務ヲ支配スルニ尋常ノ能力ヲ以テ足レリトスルカ或ハ選任スベキ卓越セル才識アル者可キニ於テハ寧ロ無名會社ヲ設立スルヲ可ナリトス無名會社ヲ設立スルハ千八百六十七年以降ハ自由ナリ抑モ無名會社ニ在テハ實物タル（金錢物件ヲ謂フ）元ノミ存在スルヲ以テ株主ニ於テ事務ヲ主理スルノ利益アル可ク而シテ支配人ノ如キハ其代人ニシテ全ク己レノ附屬者タル可シ故ニ無名會社ニ於テハ財主ハ其資本ノ用法ヲ選取シ以テ之カ指圖ヲ爲スヲ得ベシト雖モ株式ノ差金會社ニ於テハ之ニ反シ實物ノ元素ハ前文通常ノ差金會社ニ付テ述ベシ如ク人ノ身分タル元素ニ隨從ス可ク而ノ支配人ハ連帶シテ責任ヲ受クベキヲ以テ獨立自由ニシテ主理者タラサル可カラス世人當テ差金會社ヲ設立シ以テ其本旨ニ違フヲアラント謀リシヲ屢々之アリ就中無名會社ノ政府ノ許可ヲ得サル可ラサリシ時ニアリテハ法律ノ牽制ヲ免レントシタリシカ現ニ其本旨ニ戻リシヲ數多ナルヲ見ルナリ然リト雖モ其勉ムル所詐僞ナル地位ヲ作成シ禍難ヲ釀成シタルヲ以テ實際概ム子成ス所無カリキ今

日ニ至テハ無名會社ハ自由ナルカ故ニ株式ノ差金會社モ復タ有用ナル本分ノ主意ニ從フヿトハナレリ而シテ凡ソ大事業ハ無名會社ヲ以テ之ヲ興起スルヲ得ヘシ

第二節　株式會社ニ於テ資本ヲ組立ル事

（第二百二十三號）此節ヲ別テ五款トス

第一款　株金ヲ招集スルヿ及ヒ株主ノ義務ノ事

第二款　引受高ヲ入ルヽニ付テ種々ノ仕方

附此ヿニ付テ株式ノ第一ノ區別

第三款　株主ノ權利及ヒ負債償却ノ事

附株式ノ第二ノ區別

第四款　株式取引ノ事

附株式ノ第三ノ區別

第五款　資本增加ノ事、更ラニ株式ヲ發行スルヿ、義務証券ノ事

第一款　株金招集ノ事及ヒ株主ノ義務ノ事

（第二百二十四號）株主ヤル者會社ト契約ヲ結フハ會社ノ約定書ト其定款トニ署名シタルヲ以テ完成スル者ニ非ラス抑モ會社ノ契約ハ若干ノ株數ヲ招集スルヲ以テ成ル者ニシテ之レヲ招集スルニハ其由ヲ公衆ニ告知セザル可カラス而シテ其會社創立書ハ固ヨリ募金ノ各地ニ配布シ諸人ノ隨意ニセシム可キニ非ズト雖トモ然レトモ會社ヲ設ケタル地ニ其本書ヲ備ヘ置クカ或ハ入社セント欲スル者ニハ印刷ニ附シタルト否トニ依ラス其寫書ヲ送附セサル可カラス何トナレハ則チ其募集ニ應スルトキハ其書ノ程規ニ同意スル者ナレハ之ヲ知ラサルカ或ハ之ヲ知ルヲ得可キヿナクシテ同意スルトモ以テ其同意ヲ効アラシムルヿヲ得可カラサレハナリ

其募集ニ應セントスルトキハ應募狀ニ署名シ之ニ引受ケントスル株數ヲ記載シ會社ノ名代人ニ差出ス可シ

（第二百二十五號）是ヲ以テ右募集ニ應スルヿハ即チ双務ノ契約ニシテ株主ヲシテ會社ニ連結セシメ會社ヲシテ株主ニ連結セシムルモノトス

如何ナルトキヲ以テ其契約ノ成リタリトトスヘキ乎其契約ハ固ヨリ遠隔ノ地ニテ取結フ諸般ノ契約ノ如ク供給ノ後承諾アルニ非ラサレハ完全ノ者ト為スヲ得ス然ラハ則チ如何ナル時ヲ以テ其事ヲ執行セシトナリト為ス可キ乎人或ハ皮相ヲ以テ言フ者アラン會社ニテ回狀或ハ掲示ヲ以テ供給ヲ為シタルニ因リ應募狀ノ署名ハ即チ其供給ヲ承諾シタル者ナルヲ以テ契約ハ既ニ此時ニ成リ株主ハ會社ニ連結スルナリト然レ𪜈實際ニ就ヒテ之レヲ觀レハ此ノ如ク精密ナル議論ヲ為スヲ得可カラザルモノアリ株金ノ募集ニ應スルトキハ其應募高ノ一部若クハ全部ヲ承諾セラル可キヤ否ヤ豫メ之ヲ保スヘカラス蓋シ資本ヲ募集スルニハ通常一定ノ期限間之ヲ為スモノニシテ若シ應募ノ總高需用ノ資本高ニ超過スルヿアルトキハ最初廣告書ニ示シタル規則ニ從フテ之レヲ減却セサルヲ得ス而シテ之ヲ減却スルニハ或ハ其言込高ニ準シテ遞減スルヿアリ又其需用ノ資本高ニ達セシ日ヨリノ分ヲハ全ク除却スルヿモアリ又其日迄ノ分ノミ言込高ニ準シテ遞減スルヿモアルヘシ然ラハ則チ株主ハ其言込高ノ幾分若クハ全部ヲ承諾シタル旨ノ通知ヲ得ルノ後ヲニ非サレハ會社ニ連結スルヿ無キモノナリ

右ノ通知ハ特別ノ書狀ヲ以テ之ヲ為ス可シ而シテ其名宛先キニ達シタルヤ否ヤヲ証スルハ會社ノ任ニアリトス又其通知ヲ為スニハ証書

二通ヲ調製シ支配人之レニ署名シテ其一通ヲ送ラハ尚ホ一層良カル可シ之ニ反シテ株主ニ右承諾ノ旨ヲ通知セス唯其姓名ヲ簿冊ニ登記シタルヽカ又言込狀ニ認印ヲ爲シタルノミカ又其承諾ノ旨ヲ通知スルカ爲メ草シタル同狀アリトモ其既ニ通達シタルヿヲ証スルニ非サレバ以テ株主ヲ會社ニ連結セシムルニ足レリト爲スヿ可ラス

若シ其募金ノ事要件ニ從フ可キトキハ其要件ノ到ル迄ハ株主ニ於テ義務ナキ者トス例ヘハ言込高ノ全部ヲ會社ニ納メ証券ヲ請取リシ後ニ非サレハ其人ヲ株主トス可カラサル旨ヲ會社ノ定款ニ記載シタルカ如キ株主ハ其言込高ヲ會社ニ納ムルノ義務無カルヘシ然リト雖モ此ノ如キ條件ハ株主ノ義務ヲシテ純乎タル人意ニ關スル者タラシムルガ故ニ申込高ヲ悉皆納メザルニ於テハ應募者最初ニ納メタル金高ヲ損失ス可キノ明文無キ以上ハ其條件ノ生セサル間ハ實際會社ヲ編成セシ者ニ非ズトナスベシ是ヲ以テ総ヘテノ場合ニ於テ會社ノ定款ヲ輕々此ノ如キ意味ニ解ス可カラサルナリ

（第二百二十六號）　募金言込ノ事モ諸般ノ契約ニ於ケルカ如ク亦取消サルヽヿアル可シ然レモ若シ支配人又ハ發起人ノ詭欺ニ因リ古言込ヲ爲シタルニ於テハ會社ノ債主ニ對シテ其取消ス可キヿヲ申立ツルヲ得可カラス必ス其差出ス可キ金額ヲ拂ハサルヲ得ス但シ應募者ハ支配人ニ對シテ償金ヲ要求スルヿヲ得ヘシ是レ通法ノ定則ヲ適用スル所ニシテ其規則ニ隨ヘハ詭欺ニ基キタル取消ノヿハ詭欺ヲ爲シタル本人ニ對スルニ非ラサレハ其取消ヲ請求ス可カラサレハナリ

（第二百二十七號）　株主ノ義務ニ付テノ制裁ハ如何是レ固ヨリ會社ノ名前ヲ以テ株主ニ對シ其差出スベキ金額ノ全部ヲ拂ハシメント訴フルヿナリ如何トナレハ株主ハ一身上義務ヲ負フモノナレハナリ會社

ヨリ直接ニ株主ニ對シ義務ヲ行ハシムルノ外一方法アリ此方法タル會社ニテ屢々用ユルモノニシテ若シ定款中ニ之ヲ定メ置タルトキハ適法ノモノトス即チ株主ノ言込ノ株式ヲ賣ラシメ其代價ト其尙ホ會社ニ納ムヘキ金額トノ差ノミニ就ヒテ(若シ其差ヲ生セシトキハ)義務ヲ得ント要ムルヿ是レナリ之レヲ名ツケテ言込人株式賣拂執行ト謂フ然レトモ此方法タル全ク會社ノ隨意ニ任スル處ニシテ一方ノ者其義務ヲ充タサヾル場合ニ於ケル解除ノ條件ヲ適用シタル者ト見做ス可ク而シテ應募者其義務ヲ行ハザル場合ニモ亦其條件アリトナスヿヲ得ヘシ但シ其條件ニハ違約罰則ノ條件アリトス何トナレハ應募者其應募ノトキ差入レタル金高ヲ損失シ且其金高ノ交換トシテ心當コシタル會社ノ利益ノ一部ヲ受クル能ハサレバナリ

會社ニテ株主ニ其株金ノ金額ヲ直拂セシメサルヿ間々アリ而シテ最初其拂期限ヲ數期ニ分ツヿアリ又先ツ若干ノ額ヲ納レ置キ其後會社ノ需用ニ隨ヒ漸次ニ皆納スヘキニ定ムルヿモアリ總ヘテ此等二個ノ場合ニ於テ其拂期日ニ株主ヨリ金高ヲ納メサルトキハ其以來ニ向フテ株主ハ其利息ヲ拂フヘキノ義務ヲ負フヘシ(民法典第千八百四十六條)

應募者ヨリ未ダ株式ノ金高ヲ納メザルトキ會社ヨリ之ニ附與スル證券ハ株式承諾証ト稱ス株式承諾証ハ其未納金ヲ短キ期限内ニ完納スルヲ要シ且其拂濟ノ後ニ非ラザレバ確定証券ヲ附與セサルトキニ限ルモノナリ若シ之ニ反シ長久ナル期限後ニ非サレバ未納金ヲ完納スヘカラザルトキハ直チニ確定証券ヲ附與スルモノトス此証券ヲ名ケテ未完納株式ト曰フ

(第二百二十八號) 通常差金會社ニ付キ前文論定シタル事ヲ二種ノ株式會社ノ株主ノ此義務ニ左ノ點ニ付適用スヘシ(其原由同一ナルヲ以

テ今此事ヲ詳論セズ

會社ノ募集ニ應シタル所爲ヲ以テ其言込人ヲ商人ナリト爲スヘカラス(第二百一號)

然レ𪜈其所爲ハ固ニ商賣ノ一個ノ業ナレハ商事裁判所ノ管轄タル可ク又昔日ハ此事ニ付キ禁錮ノ言渡ヲ受ケシコトモアリ(裁判例規ニテハ大概此ノ如クス)又此事ニ付テハ會社ノ支配人ヨリ訴フヘシ(商法典第六百三十一條第二項)又會社ノ債主ヨリ訴フルコトモアル可シ

此債主ハ直接ニ株主ニ對シ訴フルヿヲ得ヘシ

第二款　株主加入物ノ種類

附株式ノ第一ノ區別

(第二百二十九號)會社ニ差出ス可キ物件ハ必ズシモ金額ナルニ及ハザルモノトス然レ𪜈社員ノ權利ヲ他ノ社員ノ權利ト比較スルヲ得ンカ爲メ常ニ株式トナシテ以テ之ヲ變換セザル可カラズ故ニ其物件ノ價格ニ隨ヒ金高ニ見積リ若干ノ株式トシテ之ヲ社員ニ附スヘシ

右ノ如キ源因ニ由リ株主ニ株券ヲ分附シタルキ其原因ニ付テ株式ヲ區別スルヿ左ノ如シ

資本株式或ハ(金額拂株式ト云フ)　此株式ハ株主ヨリ差出シタル資金又ハ差出スヘキコトヲ約定シタル資金ト引換ヘテ附與スル者ナリ是レ前款ニ述ヘタル通常ノ場合トス

工作株式　此株式ハ工作ヲ差出シ會社存續中之ヲ日々ノ需用ニ供スル可キ者ニ附與スルモノナリ此種ノ株式ハ差加物ノ實益アル保証トシテ會社存續中其庫中ニ預ケ置ヲ通例トス

創立株式　此株式ハ發起人ヨリ不動産、製造物、商品、器械、商店、買手先等ノ者ヲ差出シタルニ付キ其交換トシテ與フルモノナリ又發明專賣物

新規商業等ノ如キ意匠ノ物件ヲ差出シタルニ付テモ附與スルモノナリ此ノ如キ者ハ工作ト同シク社員及ヒ社外ノ者ニ對シ危險アルモノニシテ其價格ヲ相當ノ直段ヨリ甚タ高大ナラシムルハ容易ナルニ因リ法律ニ於テ之カ規則ヲ設ケタリ

報酬株式　此株式ハ會社ノ用ヲ足シ就中其創立ノ際諸手續公告等ノ事ニ周旋シタルニ因リ其報酬トシテ附與スルモノナリ此等ノ勞働ハ屢々金額ニ見積リ難キヲ以テ其株式ヲ與フルハ前ニ擧ケタルモノヨリ尙ホ一層危險アリトス其法律ノ規則ニ適合ス可キ者ナルヤ否ヤハ將サニ叙述スル所アラントス

第三款　株主ノ權利及ヒ會社負債償却ノ事

附株式ノ第二ノ區別

（第二百三十號）株主ハ諸般ノ會社ノ社員ノ如ク毎歲配當金ノ名ヲ以テ利益金ノ分配ヲ受ケ又會社解散ノ時ニハ其資本ノ分配ヲ受クルヲ概則トス然レ𪜈此權タル種々ノ事情ニ因リテ廣狹ノ差別アル者ナレハ之ヲ明示センカ爲メニ定式ノ株式及ヒ異名ノ株式ト云ヘル者ヲ設ケタリ而ノ其株券ハ其名目ノミニテ其種類ヲ分別スルヿヲ得セシム故ニ此點ニ付テハ資本株式工作株式收益株式等ノ別アリ

（第二百三十一號）資本株式此株式ハ此點ニ在テモ亦通例ニシテ且完全ナル者ナリ其持主ハ全ク社員タルノ全權ヲ有ス可キ者ナレハ將來會社資本ノ分派ヲ受ク可ク又毎歲配當金ヲ受クルノ權アリ此配當金ハ配當金小札ノ方法ヲ以テ之ヲ受ク又屢々此小札ヲ小別シテ利益小札ト配當金小札トノ二個トナス利益小札トハ各株ニ付テ差入タル金額ノ通常ノ息銀ヲ云ヒ配當金小札トハ企業ノ利益金ニシテ有息銀ノ外ニ受ク可サモノナリ此ノ如ク二種ノ元素ヲ別ツヿハ會社及ヒ社員

コ在テ事業ノ盛衰ヲ証明スルニ利益アル可シ又株主ヲノ久シク其収入ヲ待ツヿ無カラシメンカ爲メ往々毎六箇月ニ一個ノ小札ヲ拂フヿアリ故ニ其第一季ニ於テ利息ノ小札ヲ拂ヒ決算ノ末ニ至リ純益アリシトキハ配當小札ヲ拂フヿアル可シ此區別ニ付テハ尚ホ利益アリ下文ニ之ヲ論述スヘシ

然リ而ノ此ノ如キ處置ヲ爲スハ實際甚ダ不都合アリトス其故何トナレハ會社ニ利益ナキトキト雖ヒ株主ニハ常ニ其金額ノ利息ヲ得可キノ權アリト云フハ大ナル謬戻ナルニ其謬戻ヲ諸人ニ傳ヘ裁判上ニ在テモ亦之ヲ許ルスヿアルニ至ル可ケレハナリ蓋シ上文通常差金會社ノ事ニ付キ其謬戻タルヲ排駁セシト雖ヒ又下文ニ於テ之ヲ詳論スルヿアルヘシ

然レヒ實際亦已ムヲ得サル場合ナキニアラズ今夫レ一企業ヲ起サンニ其利益ヲ生スルニ至ル迄ニハ數多ノ時間ヲ費ヤサヽルヲ得ス例ヘハ鉄道築造ノ會社ノ如キ其事務昌盛漸ヤク利潤ヲ得ルニ至ルハ固ヨリ數年ノ後タラザルヲ得ス而シテ株券ヲ發行シ尚ホ資金ヲ募集セントスルニ既ニ多年ノ間毫モ収入無キニ於テハ如何ニ其事務ニ誠實懇切ノ處置アリト雖ヒ或ハ以テ復タ加入スル者無キヿアラン是ニ於テ其利得ナキ年ニ在テハ資本ノ利息ヲ拂ヒ以テ株主ノ心ヲ慰メ又或ハ募集ノ資本ヨリ幾分ヲ引去リ銀行ニ預ケ以テ右利息ヲ拂フ可キヿヲ約定スルアルニ至ル是レ又實際已ムヲ得サル者ノ如シト雖ヒ其所謂利息ナル者ハ會社資本ノ幾分ヲ削去セシニ過スシテ而シテ其或ハ企業ノ大害タルモ知ル可カラス到底此處置タル社外ノ者ニ於テハ會社ノ資本ヲ心當テニシタルニ其ヲノ漸々減少セシムルヲ以テ之レヲ欺ムクニ外ナラサル可キナリ故ニ其或ハ實際已ムヲ得サルカ如シト雖

ニ務メテ然ルヿナカラシム可ク又社則ニ於テモ詐僞ヲ制スルガ爲メ後日始メテ實益ヲ得ルコ至ラハ其實益中ヨリ幾分ヲ引去リ嘗テ減殺セラレタル資本ヲ回復ス可キヿヲ約シ且其全額ヲ回復スル迄ハ毫厘ノ配當金ヲ拂ハサル旨ヲ定メサル可ラス又此ノ如ク爲スハ法律ニ於テ一層要用トシタルヿハ將サニ下文ニ之ヲ論セントス

茲ニ述フル所ノ點ヨリ觀レハ創立株式及ヒ報酬株式ハ資本株式ト異ナル所ナシトス如何トナレハ此類ノ株劵持主ハ其株劵相應ノ價格ヲ納メタル者ト看做セハナリ故ニ創立株式及ヒ報酬株式ハ其方法ニ付テモ自余ノ株式ニ與ヘシ株式ト異ナル所無キモノナリ

(第二百三十二號)工作株式　工作株式ハ之ニ反シテ一種特別ノモノニシテ其方法モ亦特別ナリトス此株式タル工作ヲ差出シタル交換トシテ附與スル者ナリ其之ヲ差出シタル者モ亦配當金及ヒ利息金若シ之ヲ生ス可クンハタル毎歲ノ利益配分ヲ受クルノ權アリト雖ヒ會社解散ノ時ニ至テ其資本ノ配分ヲ受クルノ權ナシ何トナレハ則チ其資本編成ニ付テ一物モ供出セシヿアラサレハナリ而ノ其毎歲ノ勤勞ハ毎歲ノ配當金ニテ報酬ヲ受ク可ケレハ會社解散ノ時ニ際セハ唯其工作ヲ隨意ニスルノ自由ヲ得以テ其供出セシ者ヲハ取戻スヿアル可キノミ右ノ如ク其權利ノ異ナル所ハ其株主ニ附與スル証劵ノ名目ニ就キ外部ヨリシテ能ク之ヲ知ルヿヲ得可シ

然リト雖ヒ又工作ノ用ノ重大ナルニ因リテハ約定ノ明文ヲ以テ會社資本ノ部分ヲ受ク可キ權利ヲ附與スルヿアリ但シ其部分ハ概ム子資本株式ニ付テ配分スル所ヨリ小額タルヘシ

(第二百三十三號)收益株式　收益株式トハ會社ニ差出シタル會社ノ負債ナル資本ヲ償却セシ株式ノヿナリ

何ナカ會社負債ノ償却ト云フ凡ソ企業ヲ爲ス者ハ必ス其不動資本ノ價格ヲ償却セサル可カラス蓋シ其資本タル(建物、器械、動産、車馬等)使用ニ因リ毎歳著シキ損耗ヲ致シ若干年ノ後ニ及テハ復タ用ニ供ス可カラス而ノ之ヲ賣拂フモ幾ント價格無キモノヽ如ケン是ニ於テ若シ其企業ヲ繼續セント欲スルヿアルトキハ更ニ之ヲ整備セザルヲ得ズ是ノ時ニ當リ苟モ準備金ヲ貯蓄シ以テ之ニ充ツ可キノ用意ナクンハ何ヲ以テ其目的ヲ達スルヲ得可ケンヤ若シ又之ニ反シ決算ヲ爲サント欲スルトキハ向キニ持込ミタル資本ハ毫モ殘存スルヿ無ク而シテ初メ毎歳ノ収入ノミヲ費シタリト信シタルハ即チ全ク其資本ヲ漸次ニ消費シタルヲ悟覺ス可シ故ニ毎歳収入アルニ隨ヒ資本ノ復ク用ニ供ス可カラサルニ至リシトキ更ラニ之ヲ仕入ル可キノ見込ヲ以テ算定シタル所ノ金額ヲハ右収入中ヨリ引去リ豫メ會社ニ備ヘ置クヿヲ必要ナリトス

殊ニ發起人會社タル時ノ如キ不動資本ノ價格減少シタルニ拘ハラス少ナクモ自己ノ差出シタル部分丈ケノ額ヲ各株主ニ償還センカ爲メニ須要ナル資本ヲ貯蓄セサル可ラス而シテ會社ノ終リ迄其資本ヲ貯蓄セスシテ直チニ之レヲ株主ノ手ニ渡シ年々若干ノ株式ヲ償却スルヿトセハ尤モ便利ナル可シ然スル時ハ其既ニ拂濟ノ株式ヲ有スル者ハ復タ元トノ資本ノ配分ヲ受クルノ權ナキガ故ニ其元ノ資本ノ殘余ノ金額ヲ以テ爾余ノ株式ヲ拂フニ足ル可シ右ノ如ク資本ヲ償還スルヿハ即チ所謂負債償却ナル者ニシテ毎年抽籤ノ法ヲ以テ總株式ニ就ヒテ之ヲ爲ス

此ノ如ク償還セラレタル株式ヲ有スル株主ノ權利ハ如何ト云フニ或ヒハ其既ニ會社ニ供出セシ元高ノ仕拂ヲ得タルヲ以テ復タ一物ヲモ

受クルノ權ナシト云フ者アル可シト雖ドモ是レ大ヒニ然ラズ蓋シ其株主タル者金額ヲ會社ニ供シ創業ノ際禍福ノ危險ヲ履ミタルハ必竟會社ノ終リニ至テ甚タ著大ナル可キ利益ノ配分ヲ受ケント欲シタレハナリ然ラハ則チ其株式ノ金高ヲ拂フタルヲ以テ其權利ヲ奪取スルヿヲ得可ラス故ニ余輩ハ曰ハン株主ハ實ニ其資本ヲ受取リ之ヲ他ニ使用ス可キニ因リ利息ヲ受クルノ權ナシト雖ドモ其尚ホ純益ヲ受クルノ權アルヲ以テ配當金ハ受ケサル可カラスト是レ亦利息ト配當金トノ區別ノ利益アル所ナリ

會社解散ノ時ニ於テモ亦然ル者ナリ請フ之ヲ論セン會社解散ノ時ニ於テ株主ハ其既ニ受ケ取リシ資本ヲ再ヒ受ク可カラサルハ勿論ナリト雖ドモ万一他ノ總株式拂濟ノ後ニ及ヒ尚ホ余流アリシトキハ他ノ株主總員同意ノ上ハ其余流ノ金額ノ配分ヲ受ク可キ權アル者ナリ故ニ此ノ如ク權利ヲ變換シタルヿヲ証スルカ爲メ通常他ノ方法ニ從ヒ更ラニ之ニ証券ヲ與フル者トス其証券ヲ名ツケテ收益株式ト云フ他尚ホ其他ノ事由ニ基ク收益株式アリ例ヘハ多額ノ收益ヲ受クル代リニ差加ヘタル金高ヲ取戻スヿ無キノ約定ヲ結ヒタル時ノ如キ是レナリ但シ此ノ約定ハ定款ニ許ルシタルトキニ限ルベスレー第九十五（第二百三十四號）、其他配當金ヲ受ク可キヿ無クシテ利息ノミヲ受ク可キ株式アリ其株式ニハ別ニ名目ナシト雖ドモ前キニ既ニ株券ヲ發行シタル會社ニ在テハ之ヲ新株式ト云フ茲ニ會社アリ事務昌盛配當金モ亦隨フテ多分ナルニ因リ事業ヲ擴張セント欲シ株券ヲ發行スヘシ然ルニ其擴張セシ事業ヨリハ直チニ利益ヲ生セサル可シ例ヘハ鉄道會社ニテ新線ヲ架セントスルカ如キ是レナリ是ノ如キ場合ニ於テ其新株主ナル者創業ノ際諸般危險ヲ履ミシ舊株同樣ニ配當金ヲ受クルハ蓋シ不當ノ事ナラン現ニ新資本ノ尚ホ未タ厘毫ノ利益ヲ生セサル

コ舊社員ノ生セシメタ利益中ヨリ配當金ヲ引去ルスラ既ニ數多ノ利息ヲ新株主ニ與フル者ナルカ故ニ暫時ノ間ハ右株主ハ配當金ヲ受クルヿ然ク唯利息ノミヲ受クルコトアル可シ

第四款　株式取引ノ事

附株式ノ第三ノ區別

（第二百三十五號）株式ノ通常有スル性質ハ商法上ノ方法ヲ以テ之レカ取引ヲ爲ス可キヿ是レナリ（上文第二百二十號）其商法上ニテ取引スルノ方法トハ証券ノ程式ニ關スルモノニシテ証券ニハ或ハ持主拂株式ト云フモノアリ或ハ記名株式ト云フモノアリ或ハ命令拂株式ト云フモノアリ是レ株式第三ノ區別アル所ナリ

（第二百三十六號）（第一）持主拂株式　此株式取引ハ唯其株券ヲ引渡ノミヲ以テ之レヲ爲ス可シ

第三十五條　株式ハ持主拂証券ヲ以テ區ヲ設定ス可シ

此場合ニ於テ株式ヲ讓渡サント欲スル時ハ其証券ヲ引渡ス可シ

此証券ハ流通極メテ容易ナリト雖モ其株主ノ誰レタルヲ知ル可カラサルヲ以テ未タ全ク其義務ヲ行ハアル時容易ニ之ヲ免ルヿヲ得可シ又若シ株主之ヲ失ヒシ時ハ莫大ノ損失ヲ釀スコトアリ其損失ヲ償フ可キ方法ヲ法律ニ定メタルヿハ第一篇第五卷ニ於テ之ヲ論述ス可シ持主拂株式ハ切取簿冊ヨリ切落シタル稍々大ナル印行セル紙片ニテ之ヲ製ス其上部切取部分ト云フ處ニハ會社ノ名前ト其會社ノ目標トヲ附シ又持主拂株式ト云ヘル語及ヒ其株ノ金高并ニ番號ヲ記載ス此番號ハ抽籤ノ時等ニ用立ツモノナリ又下部ハ四角ナル數多ノ小札ニ分ツ之ヲ切取小札ト云フ各切取小札ニハ之ヲ切落シ金額ヲ受ケ取ル可キ期日ヲ附記シ配當金并ニ毎年ノ利益請取リノ節ニ用立ツモノト

ス

右等ノ証券ノ數ハ株數ニ隨フ可シ

（第二百三十七號）（第二）記名株式　此株式ニハ株主ノ姓名ヲ記載ス而シテ其姓名ハ又會社ノ簿冊ニモ登記スルモノトス

第三十六條　株式ノ所有權ハ會社ノ簿冊ニ記入シタルヲ以テ之ヲ設定スル可シ

此場合ニ於テ其株式ヲ人ニ讓渡サントスル時ハ其讓渡ノ旨ヲ會社ニ届ケ之ヲ其簿冊ニ記入シテ其讓リ渡ヲ爲ス者又ハ其名代人之ニ署名スル可シ

此株式ヲ人ニ讓リ渡サント欲スルトキハ其旨ヲ會社ノ簿冊ニ登記シタルノミニテ之レヲ讓リ渡スヿヲ得可シ故ニ其之ヲ讓リ渡サントスル者ハ其由ヲ會社ニ届ケ出ツ可シ而シテ其届ケハ即チ已レカ所有ナルコトヲ會社ノ簿冊ニ登記シタル事柄ハ削除セラレ以來讓受人ノ所有ナル旨ヲ登記セラル可キコトヲ承諾スルモノナリ

株式讓渡ノ方法ニハ三種アリ

（第一）直接讓渡　直接讓渡ハ前文ニ述ヘタル者ナリ

（第二）依頼讓渡　此讓渡ハ手形賣買世話人特別ノ規則ニ從ヒ來客ノ爲メニ取扱フモノニテ若シ人其手ヲ經テ記名株式ヲ賣拂ハントスル時ハ其賣主ハ手形賣買世話人ニ第一ノ讓渡ヲ爲シ其後世話人ヲシテ又買主ニ之ヲ爲サシムルナリ此直接ナラサル第二ノ讓渡ノヿヲ依頼讓渡ト云フ此ノ讓渡ノ法ハ正當ナル理由ニ因リ全ク無税ナルモノトス然レトモ若シ會社ノ定款ニテ凡ソ株式ヲ所持スル者ハ其未納高ヲ擔保スル可キヿヲ定メタルトキハ已レガ名ヲ以テ依頼讓渡ヲ爲シタル手形賣買世話人ハ其未納高ヲ拂フ可キノ擔保アリト裁判セラレタルヿハ余輩ハ之レヲ誤レリトフ

決シレー判決錄第五十三卷第一部第三十一丁

千八百五十二年十一月十六日破毀判

(第三) 保証譲渡　此譲渡ハ抵當トシテ記名株式ヲ引渡スニ在リ(下文第六章第四百九十二號ヲ參觀スヘシ)

記名株式ノ總則ハ持主拂株式ト同一ナリトス但シ各株主一名ニ株券一枚ヲ附與シ其株券ニハ其株數ヲ記載ス又株券ノ下部ハ切取小札ニ分タスシテ白紙ヲ殘シ置クモノトス而シテ其白紙ノ部ハ或ハ小サク四角ニ分ツヿアリ又分タサルヿアリテ配當金若クハ利息金ヲ拂ヒシキハ之ニ其由ヲ記載シ日附ヲ爲シテ印紙ヲ貼附ス時トシテハ其裏面ノミヲ以テ此等ノ記入ニ供スルヿアリ

(第二百三十八號) (第三) 命令拂株式　此株式ニハ某ノ命令ニ依リ云々ト記載スルカ故ニ諸般ノ命令拂証券同様ニ裏書ヲ以テ人ニ譲渡スヿヲ得可シ裏書トハ証券ノ裏面ニ某殿ノ御命令ニ從ヒ御拂可被下云々ト記載スルヿナリ(下文第八卷爲替手形ノ部參觀第七百四十六號及ヒ其以下)此株式ノヿハ法律ニ明文ナシト雖モ慣習上定マレルモノニテ其法律ニ適フヿヲ認メサルヿヲ得ヘキモノハ法律ニ明揭タル場合ニ非サレハ差圖ニ因リテ拂フヘキノ約定ヲ認許スヿ可カラスト主張スル者ナルノミ〔ウワウアスール〕會社篇第七十二丁及ヒ第七十三丁○反說ベスレー第二百二十五條ハ第八卷第一章第二節第七百四十九號ニ於テ此說又此ノ如キ或ハ屢々用ヒザルモノナリ其利益アル處ハヲ排擊スヘシ

取引上記名株式ヨリ便利ニシテ且持主拂株式ノ如キ損失ヲ受クヿ可キ危險無キヿ在リ

第五款　資本增加ノ事

附新株式新義務証券發行及ヒ其義務証券ノ事

(第二百三十九號)會社ノ事務漸ヤク盛大ナルニ至ラハ資本ヲ增加セサル可ラス資本ヲ增加スルニ二種ノ方法アリ新株式ヲ發行スルカ或ハ新義務証券ヲ發行スルカ是ナリ

若シ更ラニ株式ヲ發行スルトキハ新株式ニ利益ヲ與フルカ爲メニ從前ノ株式ニ拂フ可キ配當金ヲ減殺シ以テ之ヲ害スル如キヿ無キ樣概ネ豫シメ之ガ策ヲ立ツルモノナリ而シテ若シ新資本ヲ鐵道ノ新線ニ用ユルガ如キ從來ノ事業ト異ナルモノニ使用スルトキハ其二個ノ事業ヲ別異ニシ各事業ノ收入高ニ就ヒテ一々配當金ヲ定ム可シ若シ又之ヲ舊資本ト同事件ニ用ユルトキハ利息金及ヒ配當金ノ分ヲ方ヲ規定シ新舊ノ資本ヲメ至當ノ報酬ヲ受ケシムヘシ其方法中ノ一ハ既ニ上文第二百三十四號ニ之ヲ述ヘタリ

（第二百四十號）然レトモ會社資本ヲ增加スルニハ概ネ更ラニ義務證券ヲ發行シ以テ義務資本ナル者ヲ編成シ株式資本ト並ヒ行ハレシム抑モ義務證券ナルモノハ借金證書ニシテ通常ノ貸金ノ如ク利息ヲ受クルコトヲ得セシムルモノナリ故ニ此ノ證書ヲ發行スルトキハ會社ノ利益ヲ數多ノ株主ニ配分シ以テ各自ノ部分ヲ非常ニ減少スルニ至ルノ憂ヒ無キモノナリ株主ノ受クヘキ利益ヲ減少スルハ實ニ重大ノヿナリ蓋シ向キニ會社ヨリ拂ヒタル配當金ノ多額ナルニ因リ額式ノ價格騰貴シタリシトキノ如キ今俄カニ株主ノ增加シタルヲ以テ配當金ノ減少スルヿアラバ其株式所持人ハ曾ニ利得無キノミナラス實ニ損失ヲ被ムルモノニテ株式ハ低價トナリ會社ノ信用モ亦隨フテ減少ス可シ加之假令會社ハ昌盛ナルモ危險ヲ履マザリシ者ニ利益ヲ配分スルハ決シテ當然ノヿニハ非ザル可ク此新ク株主タルモノハ通常ノ株主ト同シク危險ヲ履ミシニ非サレハ其元金ノ利子ヲ受クルノ外宜シク他ニ權利ナカルヘキナリ又若シ會社ニテ今需用ノ資本ヲ他日ニ償還シ得ルヲ保ス可クシテ而シテ信用ヲ得タリシナラバ借金ハ利息ノミヲ拂フテ配當金ヲ要セザルガ故ニ寧ロ借金ヲナスニ若クコト無カル可